

14.2
1
478

支那及南洋調査第八十三輯

蘭領印度の政治並に其批評

臺灣總督官房調査課



始



14.21-478



例言

- 一、本書は、著者ベル氏が、一九二六年中爪哇を視察せるとき得たる事實に基きて叙述をなし、長年月間亞弗利加に於ける英領植民地の行政官として得たる経験を基とし批評を加へたるものである。
- 一、本書は、著者が短時日の爪哇旅行中視且つ聽ける所を覺帳に留置き、本國に歸つてから纏めたもので、一々法令に當つて見聞が確かであるかどうかを慥めてゐる譯ではないのみならず、著者が爪哇に旅行してゐた當時は、蘭領印度の新憲法ともいふべき Indische Staatsregeling が漸く行はれ始めた時で、新制度の要領は、大多数の蘭領印度の官吏にさへ了解されてゐなかつた位だから、鎖細な點に於ては、事實と相違してゐる點あることを免れない。但し著者が蘭領印度統治の根本綱要を把握してゐることは、本書を通覽するもの齊しく認識する所であらうと思ふ。殊に其批評の妥當なることに於ては、植民地統治に経験を有せざるもの、到底企て及ぶ所でない。
- 一、著者は爪哇貨幣の換算價值をば、英貨一磅を十二盾としてゐる。
- 一、本書は、執務上の便宜を圖り、筆寫に代ふるに印刷を以てしたるに止まり、敢て公刊せんとするものではない。

昭和五年五月

臺灣總督官房調査課

發行所寄贈本



著者自序

次に來る幾百かの頁は、私が一九二六年、爪哇・佛領印度支那を訪問中書き止めて置いたノートを基として書いたものである。而して、極東に於て、彼等の勢力圏内にある、廣大にして經濟的價値に富める各其の領域を、和蘭と佛蘭西とが、如何なる方針で統治してゐるかの要點を説明し、併せて吾が熱帶帝國（熱帶亞弗利加に於ける英帝國の領土を指す——譯者）の多くの部分に於て、吾等が遭逢すると同一の問題を、彼等が如何に處理せんとするかを示すものである。

で、私が此の小著を書いたのは、余と共に行政の任に當れる、亞弗利加に於ける余の文官仲間と其の後繼者の注意を喚起せんが爲めである。彼等は、亞弗利加未開人の爲めに、文化と、衛生と、而して産業上の繁榮とを齎す所の、インスピレーションに富める仕事を爲してゐる。然し、私は此の小冊子が、一般の讀者に對しても亦興味あるものであることを希望する。

私は、各其の統治區域に於て、最も親切に且つ充分に與へられたる諸々の便宜に對し、蘭領印度總督、交趾支那知事、柬埔寨知事に深厚なる謝意を表する。又私が爪哇・印度支那旅行の際に會見せる多くの蘭、佛の官吏に向ひ、斷えざる親切と、歡待と、總ての知識を頒與せんとする衷心の希望とに對し負ふ所の實に鮮少なからざることを茲に告白し謝意を表明す。

蘭領印度の政治並に其批評

發行所寄贈本

目次

第一章 總說	一
第二章 最近に於ける統治組織の變革、統治の現制	一六
第三章 東印度文官と其の待遇	二六
第四章 村落行政、村民生活状態、土人を農業移民として外國及び蘭領印度の外領に移住せしむることの必要	五九
第五章 蘭領印度の産業、土地法、勞銀、製糖業、各種の農事試驗場、官營質舗等	七九
第六章 財政、重税、英國の對蘭印貿易、支那人の勢力、人種と其の待遇、土人の教育	九七
其他	九七
第七章 土王國、道路と自動車、巧妙なる電線の架設、病院、市場	一三三
第八章 爪哇スマトラに於ける政治的不安、過激派のプロバガンダ、西洋活動寫眞の惡影響、和蘭統治の評價	一三七



蘭領印度の政治竝に其批評

第一章 總 說

蘭領東印度を訪問したることない人は、蘭國の皇帝が、極東の群島に於て有する領土(蘭領印度)が、如何に宏大にして經濟的に價値あるかを了解すること出来ないであらう。蘭領東印度は、面積と人口とに於て、印度を除ける他の總ての英國の熱帯にある領土に勝つてゐる。而して、其の天然資源と各種の産業とより生ずる富は、和蘭に於ける繁榮の根源であると信せられてゐるのである。

試みに其の面積を一瞥せんか、爪哇は英蘭と其の大き同じく、ボルネオ島に於て蘭國の有する領土は佛蘭西よりも大に、スマトラは米國カリフォルニアの面積を凌駕してゐる。蘭領ニウ・ギニアは、日本全體の面積よりは稍々少ない位で、セレベス島は新西蘭と錫蘭とを合せたるものよりも大きい。而して、蘭領東印度全體の面積はどうかといふと、露國を除いたる歐羅巴の約半分に等しい。之れに包まれてゐる人口は五千萬を超えてゐる。

本篇の目的は、蘭國人が如何なる方法を用ひて此の領土を開發したか、彼等が用ひてゐる統治の組

織・方法、特に蘭人が此の領土の統治に、どの程度に原住民を参加せしめつゝあるかを説明し、政治の局に當る者に對し、是等の問題に關する概念を與へんとするにある。

航洋船の通路といふ點から見ると、蘭領東印度は、少なくとも東洋に於ては、誠に形勝の地を占めてゐる。即ち、同地は濠洲から英領印度及び佛領印度支那に到る航路の中心に位し、歐洲と極東沿岸諸國との間に於ける海運、頻繁なる交通とは密接不可離の關係に立つてゐる。

爪哇 歴史的に重要であるといふこと、中央に位置を占めてゐること、人口稠密にして、人民が他の島の住民に比較して勤勉であること、土壤が驚く程の生産力を有することの爲めに、爪哇は蘭領東印度叢島中に於て支配的位置を占めてゐる。爪哇は、其の形狀と廣袤とに於て玖瑪に酷似し、殆んど眞直に西から東に横はつてゐる。北西にはスマトラの大島と對峙し、それと爪哇との間には、狭いスンダ海峽が横はつてゐる。東南端には、スマトラよりは遙かに小さい、一連の小さい島々が、濠洲の北岸に續かんばかりに、鎖の如くに並んでゐる。

外領 スマトラ、ボルネオ、セレベス其他大小の島々を蘭人は外地と名付け、之れを爪哇と區別してゐるが、是等は廣大なる面積を有し、其の有する所の天然資源は、現今は只僅かに其の一部を開發したるに止まつてゐる。廣大無邊の面積中、あちらこちらに、蘭人、英人、支那人が護謨、米、

煙草其他重用作物の栽培を試みてゐるが、是等を除けば、他の地域は概ね處女林の形をなし、野蠻にして非進歩的なる種族の爲すが儘に放任せられてゐるに過ぎない。

右に述べた外領の地域は、何れも皆爪哇の如く驚くべき生産力を有するのでは勿論ないが、其處に潜在せる富力は其の面積の宏大なるだけそれだけ大に、資本、企業家的目論見、供給豊富なる勞力の潜在富源を開發するの日を待つてゐる。彼等自身の資力の缺乏を熟知せる蘭人は、外資の侵入を寧ろ歓迎し、資本的『門戸開放』の原則を維持し、外國人に對しては寛大なる取扱を爲し、植民地の開發に向つて邁進してゐる。而して、外資外人の援助なくしては到底達成し得られざる程度に在住人民の福祉を増進してゐる。此の門戸開放の點に於て、蘭人は、印度支那に於ける佛蘭西人とは全く趣の異なる政策を把持せるものといふことが出来る。

再び爪哇に戻り其の概況を説明すると、爪哇は、かの美しい西印度諸島の島々に似てゐる。只規模を大きくしたるに止まる。而して、爪哇に於ける山岳は、西印度の山々よりは概して高峻にして威容もより多く整つてゐる。又河は大きく流れは寛である。従つて之れを取圍む所の平原も廣大である。然し、地味の豊饒なること、天然美の種々相に富めること、光彩陸離たることに於て、其處此處に旅行する者の眼を樂しましむる點に於ては、玖瑪、チャマイカ及び小アンティリーズ諸島（ハマ諸島を除ける他の西印度諸島をいふ）に於けるものと異なる所がない。

爪哇は、東西最も長い所で六百二十二哩、平均の幅約八十哩である。而して面積は、四九、一七六平方哩と計算され、此の面積の大部分は特有の生産力を持つてゐる。高山の脈が、西から東に、どちらかと言へば中心より南海岸に寄つた方に走り、是等の高所から土地が次第に低く北海岸の平地に及んでゐる。尠なからざる地方に於て、吾人は山の脇腹に傷口に似た孔口を發見するが、是等は噴火口であつて、或物は既に死んでしまひ、或物は今も尙ほ火を噴いてゐる。時折、薄氣味悪き地響きを耳にすると、此の美しく肥沃にして見る所として佳ならざるはないといふ國に於てさへ、地表より餘り遠からざる地球の部分に、怖るべき破壊力が潜んでゐること、豊饒なる平地に散點し、平和に充てる小舎の住民も、死と破壊の爲めに、過去に於て幾度か是れが爲めに悲痛の經驗をしたかといふことを思ひ起さずにゐられない。

森に覆はれてゐる山々は、多大なる降雨に恵まれ、高臺の峽間・溪谷より流れ出る所の多くの小流は、海岸に向つて廣がり行く膏沃なる平地に對しては、最高の價值ある灌漑用水となる。爪哇に於ける降雨は、此國に於ける最も大なる財産の一といふも過言ではなく、其の多量にして均分せる分布は、爪哇をして農園經營者の天國たらしむるに與つて力あるものである。

爪哇の南海岸は、不思議な程良港に乏しいが、北海岸は之れに反し、割合に奥行のある港灣と、船舶の出入に適する入江とに依つて著しく鋸齒狀化せられてゐる。

豊饒なる土地と、潤澤なる雨量と、夥多なる人口とに恵まれてゐる熱帶國に見る、農業的富の多大なる點に於て、爪哇は最も良い實例を示すものである。爪哇は、ひつくるめて、一つの廣大無邊なる植物園なりと言ひ得る。而して其の植物園には、熱帶に於て價值ある、ありとあらゆる種類の植物々産が夥しく産出してゐる。世界の他の部分、殊に英領印度及び中央亞細亞の焦げてしまつたやうな、際涯なき平原を見慣れてゐる人々は、魅するが如き爪哇の豊富なる自然に接して得たる彼等の驚きと喜びとを發表するの辭を發見するに苦しむであらう。天然は、農業を有利に經營するに必要なる一切の條件を、其の暖き手を以て與へてゐる。住民は一般に勤勉で、彼等の食料品に對する要求は痛切である。それが爲め、爪哇に於ては、最も高い山岳の頂上は別として、一エーカーとして有用有意義に使用せられてゐない所はない。獨りでいくらでも繁殖する、無用にして、耕作上厄介至極なる矮樹林は、可成り人口稠密なる熱帶國に於てすら能く人の見る所であるが、そんなものは爪哇には殆んど全く見當らないと言つてよい。而して、爪哇に於て生長することを許されてゐる樹木は、總て木材が役に立つか、果實が人間の利用厚生に役立つかである。

爪哇の島は、イングランドと略同大で、其の中に包括してゐる人口も亦大體に於て同數である。只兩者の異なる點は、イングランドに於ては、人の知る如く、人口は少數の都會に集中してゐるに反し、爪哇に住する三千九百萬の人民は、全島に亘り可成り平均に散布せられてゐる。人口二十五

萬内外を有する首府バタビア、約二十萬を有するスラバヤ、各十萬以上を有する三、四の都市を除き、大多數の住民は、何れの方角に向いて行つても、只僅かの距離の中に、大人しい、人の善さうな土人の群に會ふといふ位に、此の豊かなる國に平均に分布されてゐる。一平方哩當りの人口は七百人で、爪哇では人の姿が見えず、人の聲が聞えない所はないと普通一般に言はれてゐる位である。

空中から見た(譯註)爪哇内陸方面の景色は、エメラルドの如く緑なる廣濶なる水田の海のやうなもので、小ざつぱりした繪のやうな土人の村落が、點々として此處彼處に散在してゐる。各カムボンは、果樹林、竹林、古々椰子の林の中に包まれてゐる。世界に於ける熱帶の何れの田舎を見ても爪哇の田舎の如く、繁榮と、平和と、善良なる秩序とを徵象してゐる所はない。

(譯註)爪哇には、昭和三年からバタビア、バンドゥン間に一日雙方から一回、昭和四年になつてからバタビア、スマラン、スラバヤ間に一日一回の定期航空路が開始せられた)

蘭領印度群島に棲む五千萬の人間は、馬來・ポリネシア系統、バプアの系統に屬するものとして人種學生分彙されてゐる(譯者曰く、蘭領印度土人中にポリネシア種族の血が混つてゐるかは疑問である)。各系統に屬する住民は、身長其の他人類學上の型を異にしてゐる。中世紀の交には、印度から多數の人間が爪哇スマトラに流れ込んだが、其の爲めに、是等島々の住民は、人種學上見通すこ

との出来ない影響を受けてゐる。殊に、爪哇人とヒンドゥー種族との雜種は、明かにそれと見分けること出来る特異性を持つてゐる。

スマトラに於ける住民の大多數は馬來人で、馬來聯邦州に於ける住民とは、其の肉體的精神的特質に於て共通である。之等スマトラの住民は、馬來系統ではあるが、更に多數の部屬に分岐せられ、殆んど全く農業を其の生業としてゐる。而して、或種の部屬の如きは、自負心自尊心高く、爲めに濟度し難く、統治者たる蘭人に對し、從來少からざる政治上の迷惑を掛けた。殊にアチエー種族間には反抗、騒動が頻々として勃發し、時としては大仕掛なる軍事行動を必要とした。

爪哇スマトラより更に東方に位するボルネオ、セレベス其の他島々の住民は、ポリネシア人、バプア人の特質を具備してゐる。而して、千古斧鉞を加へない鬱蒼たる大森中に住居する人民は、住地を定めず、尙ほ未だ野蠻原始の域を脱してゐない。蘭領ボルネオに住するダイアク及び其の他少數の部族は、今日に於ても尙ほ或程度まで首狩りを行つてゐるのである。

溢るゝばかりにゐる爪哇の土民は、其の性質の大人しきこと、一般に節制を重んずること(大酒家などいふものは爪哇にはゐない)、勤勉なることに於て他にぬきんでゐる。彼等は仕事に熱心である。それは彼等が食料を得んが爲めに止むを得ずするのではなく、熱心といふことは彼等の天性と言つて差支へない。大古邈遠の時よりして、爪哇の農民は、父子代々營々として働くといふことに

慣らされてゐる。昔時、爪哇人は、彼等自らの爲めと言はんよりは、彼等より搾取する土人有力者の爲めに、土人有力者は更に彼等を搾取する蘭人官吏の爲めに孜々として働くことを餘儀なくせられた。今日に於ては、土人の有力者にして、其の使用人に不法の要求をする者は殆んど其の跡を絶つたが、強制的に働かせられた時に得た、不斷に働くといふ彼等の習慣は牢乎として抜くこと出来ない第二の天性として彼等の間に残つてゐる。

爪哇の如く多数の人口を包擁する所に於て、雑多なるタイプの人間を見ることは、當然のことである。本島の西部にはスンダ人馬來人が棲み、代表的の爪哇人(人種學上の爪哇人で、爪哇の土人といふ意味の爪哇人にあらず)の大多数は、其の中部に棲んでゐる。馬來人スンダ人は其の天性快活陽氣で、其の性質は彼等の言語にも現はれてゐる。即ち彼等、並に東部爪哇とアドゥラ島に住するアドゥラ人は、會話の際長く長い^hを用ひるに反し、沈鬱なる中部地方の土人は、陰氣にして哀調を有する^oを用ひるを常とする。例へば、スンダ人はウダーナ(Welana 土人郡長の意)と發音するに對し、爪哇人はウドーノと發音するのである。

爪哇人馬來人は身長は大でないが、體格は概して強壯である。筋骨逞しい土人に邂逅することはめづらしくない。顔色は、薄い蕃紅花色から、暗褐色に及び、土著婦人の喜ぶ皮膚色は淺黄色である。眼の色は一般に非常に黒く、^{iris}の實に似てゐる。毛髪は必ず漆黒で、あらく且つ眞直である。

あごひげを有する土人は殆んど見當らない。

爪哇の土人は、一般に大なる希望野心を有せない。彼等の慾望は容易に満足され、彼等の趣味は至つて單純である。極めて暢氣な性質で、金錢に對する執著は餘りない。彼等は僅少の要求を有するのみ。即ち數碗の米、一片の乾魚、些少の野菜があれば、彼並びに家族の一日の要求は充される。些細な買物、僅少の税金、一日の小使等に使用する金位は、附近の砂糖又は煙草工場に數時間労働すれば得られる。

右の如き暢氣な生活状態であるに拘はらず、爪哇を訪問する人々は、土人の大多数が、如何にも不機嫌にして元氣抜けたやうな顔付をしてゐるのを見て驚くであらう。爪哇土人は滅多に微笑だもしない。笑聲などいふものは容易に聞かれない。どの土人を見ても、無神經若しくは無理に我慢して忍従してゐるといふやうな顔付をしてゐる。而して大聲を發して怒號するやうなことは殆んどない。彼等は歐羅巴人に對し不作法横著ではない。同時に彼等は歐洲人を尊敬し、彼等に對して特に禮儀が正しいとは言はれない。彼等は、何か間でも掛けられない以上は、自分に無關係な外人などに注意も敬意も拂ふ必要はないと考へてゐるが如くである。問ひ掛けられてすら返事しない土人を見ること往々にしてある。さは言へ、爪哇の土人が眞似難い多くの善い特色を持つてゐることは疑はれぬ所である。

爪哇土人は世界に於て最も多産なる國民の一であるに違ひない。幼兒死亡率は相當高いにも拘はらず、人口の増加率が爲政者の頭痛の種になる程に著しい。爪哇及び爪哇と同様所謂内領の一部を形作るマドゥラ島の人口は、ナポレオン戦争の最終年たる一八一五年に於ては僅々五百萬内外であつたが、一九〇五年の國勢調査では三千萬に達し、現今は三千九百萬を超えてゐる。獨身生活なるものは土人間に知られないことで、土人は一般に早婚であるに拘はらず、彼等の間に於ける出生率は異常に高い。

爪哇の過剰人口をば、住民と人力の缺乏に依て開發すること能はず、輒々もすれば衰弱の情態に陥らんとするスマトラ、セレベス、ボルネオ其他外領の諸島に移植せんとし、政府は努力を拂ひつゝある。然かるにも拘はらず、又人口の充溢せる爪哇の地方に於ける生活が誠に容易ならざるにも拘はらず、爪哇土人は父祖傳來の屋敷、共有土地(共有土地の何物なるかは後章之れを説明す)を離れて移住せんとはしない。而して、外領に移住すれば、大なる土地の所有、充分なる食物の保障があるにも拘はらず、政府の希望するやうな大規模の移住は行はれない。

過分に發達してゐると言はゞ言ひ得ぬべき爪哇の状態と、爪哇よりも大なる島々に通有なる原始的状態とは、實に甚だしき對照をなしてゐる。一方爪哇に於ては、一平方哩當り七百人以上の人口がゐて、窮屈に閉ぢ込められ、土地の缺乏の爲め出來得る限りの努力を拂ひ、辛ふじて生活を支へ

てゐる。他方、爪哇より程遠からざる、而かも同一の政府の下に在る諸大島では、千古斧鉞を加へざる數百萬數千萬英反の處女林が、人口稀薄に苦しみ、來て森林を拓き食料其他人間生活の必需品を生産することを待ちつゝある有様である。

爪哇の土人が物質的に繁榮し、精神的に稍々満足の生活を送りつゝあることは事實である。而して、和蘭人が此の如き、政治の實績に徴し、満足と自負とを感じてゐることも想像し得られる。然し、此の如き芽出度い結果が、治者被治者總ての關係者に、長期に亘る壓迫と苦痛なしに獲得せられたと思ふのは非常なる間違である。極東諸國民が、絶対に希望しなかつた手段と方法を以て歐洲人が東洋に出現したのは、十六七世紀の頃であるが、彼等は惡辣なる手段を用ひて際限なき彼等の貪慾心を満足せんとし、それが爲めには土著人民の權利など眼中に置いてゐなかつた。殊に東洋に殺倒した初期の蘭人は、他の歐洲人に比較して群島の土民に對しては辛辣であつた。今日でこそ涼しい顔してゐるものゝ、和蘭人は、彼等の祖先が如何に惡辣なる手段を用ひたるかに想到するに、良心の苛責なしにゐることは到底むづかしいであらう。

蘭領印度に於ける和蘭の目的は、手段の善惡に拘はらず、兎に角本國を富すことであつた。而して、善良なる手段よりも惡辣なる手段の方が、速かに富を蓄積するのには便利であるので、蘭人は普通惡辣なる手段を用ひた。彼等は土著人民の如きは、要するに莫大なる利益を吸收する材料に過

ぎないと考へたから、慈悲を加へるとか、公正に土民を取扱ふとかいふが如きことは始めから考へてゐなかつた。

和蘭人は、十六世紀の終り、勇敢なる數次の戰の結果として西班牙人を今日の蘭領方面から驅逐し、彼等が活動の範圍を極限してから、領土を擴張することをせず、専ら精力を財貨の獲得蓄積に集中した。勘定高い和蘭の商市民(Merchant)等は、十六七世紀に於て英、西、蘭の諸國民等が東洋に於て爲せる如く、帝國主義の實行に重きを置かなかつた。而して、土人に對する支配權を擴張するといふことよりは、和蘭の富に至大の影響を有する香料其他東洋物産の獲得にエネルギーを集中した。彼等は、植民的活動の初期に於ては、領土の擴張を目論見る、あらゆる計畫に斷然反對し、彼等の商館と貿易港を安全にする爲め、止むを得ず築造した城砦以外に彼等の政治的勢力を擴張することを拒んだ。同時代に、彼等の同胞は、亞弗利加の西海岸に活動してゐたが、此處でも右と同一の政策が行はれてゐた。西亞弗利加で、蘭人は、彼等の支配權を、海岸に於ける砲臺の彈丸の達し得る範圍内に制限し、金、象牙、其他重要物産の獲得に全力を傾注した。

右の如き方針の下に、蘭人は、久しき間彼等の活動を爪哇とモルツケン諸島に集中した。彼等が爪哇を選んだ譯は、爪哇の面積が彼等にこなせる程度のものであり、土地が著しく豊沃であり、天然の資源に富み、人民が一般に導き易く禦し易いといふ點にあつた。彼等は、是等好條件の爲め、

爪哇を中心とし、近海にある、より大なる多くの島々に其の羽翼を伸し利益を獲得せんとしたのであつた。

蘭人が、政治上の權利と義務とを行ふことの必要を自覺したのは、獨占的事業が土侯土王の側より、妨害を蒙り、取引が自由に行はれなくなつて來てからである。事態がむづかしくなつた來たので、和蘭人は、干戈に訴へ、爪哇の大部分に對し、不本意ながら政治上の權力を揮ふことになつた。然る後と雖も尙ほ彼等は直接政治を行ふことを休め、出來得る限り土王を利用し、彼等が蘭人の求むる物産をば期限内に滞り無く提供する限り、彼等を後援して獨立の主君の如く見せかけ、以て目的を遂行した。爪哇は當時回教を奉ずる數名のサルタンに分割支配せられてゐたのであつた。

當時蘭國の利益を代表して東洋に活動したのは、有名なる和蘭東印度會社である。和蘭東印度會社は、前後約二百年間に亘り、東洋に於ける蘭國の領土を支配し、世界の他の部分に於て類例を見ざる商業的暴政を行つたのである。會社は蘭人のみ取引することを得る商品を決定し、珈琲、阿片、或種の木材、食鹽、胡椒、錫、香料其他の會社の專賣に屬する商品の取引を禁じ、之れを犯す者を嚴罰に處した。會社當時の記録中、土人に對する道德上、社會上、物質上の施設に就て言及した何物かを發見することは全く困難なことである。今日歐洲の植民國を動かしたくも無く、寧ろ馬鹿氣たる一種の利他植民政策上の理想感情は、商業的唯物主義の當時藥にしたくも無く、寧ろ馬鹿氣たる一種の利他

主義として相手にせられなかつたであらう。冒險的精神に鼓舞せられたる富の追及、之れが當時の和蘭を指導せる精神で、亞細亞、亞弗加利に於ける遠隔なる國々は、此の精神を満足するに最も恰好の場所、暴富の獲得場であるに過ぎなかつた。是等の國々に住んでゐる人間共は、獸類と大差なく、白人冒險家の意志に盲従すれば兎に角、苟くも彼等の行手を遮るが如きことあれば、屠殺し奴隸化することに於て、何等人道上の考慮をする必要はないと思惟せられたのであつた。

和蘭東印度會社は、爪哇に於て、十八世紀の末葉まで存続した。没落前數年何等の利益を擧げ得ざる等のが原因となつて、特許狀を取上げられたのである。然し、統治上の權力が會社から蘭國皇帝に移つたといふことは、土民に取ては何等の救済ともならなかつた。蘭國政府の政策は、會社の政策と、根本に於て何等の相異もなかつた。殊に原住民政策に於て其の然かるを覺ゆる。即ち政府は、其の商業的企畫に依つて、最大の利益を搾取するの外他意がなかつた。茲に於て、蘭領諸島の莫大なる富は、其の株主ともいふべき土民の財囊を肥すことなく、國庫を充實するのみであつた。加之、爪哇其他に於ける蘭國官吏の行動、官憲の政策に就いては、本國に於てさへ、斷えず兎角の非難があつた。和蘭の一論客は、當時『植民地に於ける官吏の貪慾と暴政に對して本國に在る和蘭人は義憤の念を起してゐる』と言つた。

爪哇の領有より吸ひつゝある和蘭の甘い汁をば、歐洲の他の國民は嫉みの眼を以て睜つた。而し

て、是等諸他の國民は、爪哇其他の諸島より蘭人を驅逐することを屢々試みた。是等の試みの中最も成功したのは佛蘭西のそれであつた。即ち、佛國は、和蘭がナポレオンの手に歸すると共に、爪哇の大部分を其の掌中に收むることゝなつた。然し乍ら、英國は、爪哇の如き寶が、永くナポレオンの掌中に留まることを勿論肯じなかつた。そこでミントー卿は、一八一一年八月、サー・スタムフォード・ラッフルス(Sir Stamford Raffles)の勸説の下に、サー・サミュエル・アームティ(Sir Samuel Aclmnty)をして一萬一千の兵に將として爪哇を攻撃せしめた。バタビア附近に於ける數次の激戦の後、佛軍は爪哇を撤退するの止むなきに至り、爪哇は完全に英國の領土となつた。

かくて、サー・スタムフォード・ラッフルスは、爪哇の副總督(副總督と言つても別に總督を任命する譯でもないから、副總督は事實上の總督である)に任命され、周密なる思慮とタクトとを以て政治を行ひ、大に爪哇の物質的繁榮を増加した。國庫の収入は、ラッフルス以前の八倍に増加し、海運と通過貿易に對しては便宜と助勢とを與へ、爲めにバタビアは、彼の在任當時東洋に於ける商業の一大中心地たるに至つた。

ラッフルスの統治時代、和蘭はナポレオンの喰物になり、其の獨立を失つた。従つて蘭領印度の將來は、必死に輸贏を争へる英佛の孰れが勝を制するかといふことに懸つてゐた。爪哇に於てはラッフルス以下が常に民意民福を尊重するが如き態度に出でたるが爲め、土人を悦服せしめたるは勿

論、在留蘭人の尊信をさへ博するに至つた。バタビアに於ける總督府評議會に、蘭人の重なる者は議員として採用せしめたるが如き、蘭人尊重の一例で、是等の結果として、深切なる好意と好感とが在留蘭人との間に成立してゐた。

右の如き状態であつたから、ラッフルスは爪哇を和蘭に返還することの不可なるを説き、抗議したのであつたが、歐洲方面に於ける種々なる政治上の理由に依り、爪哇は一八一六年遂に蘭國に返附せらるることになつた。斯くて、大なる平和と繁榮とを齎せる英政府の統治は、同年を以て終焉を告げた。

再び政權に有付いた蘭人は、ラッフルスの始めた諸般の善政を、種々の點に於て其儘踏襲したが、東印度會社時代に於て惡政の根本となつた各般の施設思想が漸次擡頭した。往古より土人の間に行はれ蘭人に依つて採用された強制勞働の制度は、タンデルス總督の任期中組織立てられ、土人は是れが爲めに非常なる壓迫を蒙つた(譯註)。加之、物資の強制徵發といふやうな制度も再び採用せらるゝに至つた。斯くて領の内外で、蘭人の苛斂誅求に對して非難の聲が高まるや、ファン・デン・ボッシュ總督は、一八三〇年中有名なる耕作制度(Cultuurstelsel)なるものを立案實行し、却つて大なる利益を擧ぐることになつた。ファン・デン・ボッシュの制度に従へば、蘭領政府は、土豪に一部の利益を與へて之れを指揮し、土豪の仲介に依り、土人より一定量の物産、例へば砂糖、煙草、珈

琲、其他の農作物をば、政府の指定する、市場價格より遙かに以下なる價格にて提供せしむるのである。此の如き制度が、爪哇の土人の生活を如何に壓迫したかは、多言を要せずして明かである。一方、和蘭本國政府が、此の制度の下に如何に多くの利益を收め得たかは、次の數字に依つて知ることが出来る。即ち、強制耕作制度實施後の三十五年間に於て、東印度政府が、本國金庫に送付した金額は四千萬磅に達した。

(譯註。著者はタンデルスは、英人引上げの後に總督に任命せられたかの如くに書いてゐるが、是れは誤りで、タンデルスは、ラッフルスが爪哇の副總督に任命せらるゝ前に總督として在任したのである。但し、タンデルスの時代に強制勞働の制度が一層組織化せられたといふ記事には誤りがない)

植民地に於ける暴政を改革する第一歩として政治上の手段を取るやうになつたのは、一八四八年のことである。同年、植民地政府の横暴に憤激せる本國自由主義者は、植民地に於ける統治の根本を改め時代の進運に一致するやう制度の改革を企て遂に或程度の成功を收めた。然し、富める和蘭の領土が、海牙に於ける國庫に對し送金を中止したのは、一八七六年で、植民地政府よりの寄與を放棄することには本國政府は容易に賛成しなかつたのである。而して蘭領印度が、自己の目的のみ自らの収入金を使用し得ることを確定的に承認せらるゝに至つたのは一九〇三年のことである。

一八四八年の制度改正は、植民地統治に對する絶對權を蘭國皇帝より取り、少なくとも植民地立法に關する限り皇帝と議會とが共同して責任を持つことにした。此の改革の結果を最も能く説明せるものは、一九〇五年アイアランド (Alleyne Ireland) の著述せる *The Far-Eastern Tropics* 中の記事である。曰く、

「何れの時代にもない、最も利己的で且つ保守的であつた和蘭の政策は、自由に傾き進歩的傾向になつて來た。以前に腐敗し且つ能率を缺いでゐた最高行政機關は、今や有能に且つ正直を旨とするやうに改つて、土人行政機關は、今や蘭人官吏の熱心に研究する所となり、爲めに、其の内部に伏在せる各種の禍根が、根本より刈除せらるゝには至らないにしても、正常なる方向に改革を進めて行かうとすることに、堅實にして不斷の努力がなされ壓力が加へられつゝある」云々

と。然し、一八四八年に於ける前述の改革、竝に其の後に於ける數次の制度改革は土人に對し參政權を附與するに至らなかつた。蘭領印度に於ける行政其他諸般の事務は、引續き全く本國政府に於て管理せられ、其の豫算は海牙に於ける、聯邦議會に依つて決定せられたのである。只土人參政權の問題、植民地人の必要、困難なる諸般の問題が問題化するのは、本國議會の某々が議會に於て改革の叫びを擧げる時に止まる。植民地に於ける最高統治は、依然總督と竝に總督の政治上の補助機關たる五名の議員よりなる印度評議院 (Raad van Nederlandsch-Indien) に依つてのみ行はれたのであつた。

斯くの如くにして、蘭領印度は、後に記述するが如き制度改革まで、「博愛的專制主義」に依つて統治せられてゐるのであつた。

此の博愛的專制政治は、大體に於て極めて有能有效にして、結果に於ては極めて恩惠的であつたと言へやう。兎に角、歐羅巴人が東洋に於て所有する總ての植民地の中、蘭領印度の如く、住民が一般に裕福、且つ平和で、植民地全體として進歩的なのは一もないのである。一昔し前に於て、蘭人が用ひたる手段が惡辣であつたことは事實であるにしても、少くとも過去五十年間、彼等は確乎たる意志と、公正なる觀念と、父母が幼兒を世話する時の心持を以て植民地を世話し取扱つて來た。彼等は、原住民族の眞の後見人であるといふ自覺の下に統治の衝に當つた。一部のアジテーターが、如何に怒號し、騷擾しても、後見者としての彼等が統治の對象は、人口の九割以上を形成する單純率直なるもの大多數であることを彼等は意識してゐるのである。

第二章 最近に於ける統治組織の變革、統治の現制

中央集權的專制主義が、一時植民地に於て、如何に良好なる結果を齎したとしても、其れは彈力のない、融通のきかぬ時代遅れのものであるといふ感じが、今世紀の始め、和蘭本國に於て大に高まつた。少くとも蘭領印度の地方團體に對し、今一層責任を持たせ權利を賦與する様鹽梅せねばな

らぬと人々が考へ始めた。其結果として、一九〇三年地方分権法 (Decentralisationwet) といふのが和蘭本國の議會を通過した。が然し、之れ以上根本的な制度上の改革は加へられず、蘭領印度全體の問題に對する原住民の發言權は依然拒否されてゐるのであつた。蘭國政府が、蘭領の全部に對し、代表的性質を有する參議院を設け、領内の人民をして一箇の政治的勢力として自由に發言することを許したのは、歐洲大戰以後のことである。歐洲大戰は、世界諸國民の間に於ける價值意識を顛倒した。歐洲戰後、蘭國政府が中央に設けたる代表機關を國民參議院 (Volksraad) といひ、一九一八年から開院してゐるのである。

右國民參議院は、加奈陀其他所謂ドミニオンに於ける議會は勿論、海峽植民地の如き皇領植民地 (Crown Colony) に於ける立法會議 (Legislative Council) に比較してすら、去勢された無力の機關であつた。議員の總數は四十八名で、其中半數は州會其他地方自治團體の代表機關より選舉され、他の半數は政府に依りて指名されたが、其權能は、只單に或定められたる事項に對し諮問に應ずるの資格を有するに止まつた。院は、法律案を提出することも之を拒否することも出來ず、議員の職分は、意見を開申することに限られてゐた。

右の如き無力なる機關が、望蜀の野心に燃えてゐる爪哇インテリゲンチアの満足を買ふことが出來ないのは當然のことである。國民參議院をして、人民の權利を認むる眞の代表機關たらしむるため

の爪哇急進主義者の運動は、和蘭本國に於ても同臭味の者の共鳴を得、内外運動の結果、四年前に改正した憲法に、更に一段の改正を加ふる法律案が、一九二二年本國議會を通過した。一九二二年に於ける改革の結果は、最近漸く實現したやうな次第であるが、蘭國政府は、此制度改革は、英領印度に於ける土人知識階級の如く、自治の獲得を絶叫せる爪哇有識階級の政治的野望を満足すると共に、政府に取ては何等危険を齎すものでないと考へてゐるのである。

右の如く思ひ切つた改革をするについて、蘭國政府が、英政府が印度に於て、米政府が比律賓に於て政治上の不安を艾除する爲めに取つた政治上の手段を熱心に注視し、之を模倣し、政治上の不安が蘭領印度にも繰返されることを未然に防止せんとしたことは言を俟たない所である。同時に又以前に取り來つた、間に合せ、一時遁れの方法が、現在及び將來に於て決して役立つものでないといふことを蘭國爲政者は充分自覺したのである。斯くて、蘭政府は、蘭領印度に於ける五千萬の臣民に、欣然政治上の責任を持たせることに同意し、一九二二年の制度改正となつた譯である。

斯の如き政府の決心は、一九一八年、時の總督が第一回國民參議院開會の際になせる演説に充分に臭はされてゐる。即ち、總督は、在牙植民大臣の同意を得たる上、「東印度に對する和蘭の終極の目的は、責任政府を樹立することである。該政府は即ち、國民參議院と協同して、和蘭本國並に領土全體の利害に關係を有せざる、換言すれば蘭領印度の利害に關する總ての事項に對し、最後の

決定を與ふるだけの権限を有するものたることを要す」云々と述べてゐる。

和蘭人は、彼等に特有なる甚深なる用心を以て、責任政治と言っても、餘り突飛に進み過ぎたものではない。人民の能力が尙ほ未だ充分でないのに、根本的な権利を過分に與へるのは宜しくない。考へた。彼等は、蘭領印度の住民が、結局は完全なる自治を獲得することが正當であるかも知れない。然し、其處に到達するまでの道程に於て與へらるゝ政治上の権力は、住民の政治的能力に比例すべきであると考へた。特に蘭國爲政家の考慮を拂へる點は、三世紀に亘る冒險と勞作とに依て築き上げたる蘭國植民者の權利と利益とは、制度の改正に於ても見てやらねばならぬといふことであつた。此の如き考慮の結果として爲せる蘭國治者の讓歩は、一九二二年の制度改正には、主として次の二點に現はれてゐる。

(1) 新憲法 (*Wet op de staatsinrichting van Ned-Indië* といふ) の制定、竝に從來一の諮問機關に過ぎなかつた國民參議院に立法上の權能を認むること。

(2) 行政區劃を改正すること、及び各區劃内にある省議會土人理事州會等に、或程度の自治權を認めること。

同時に、蘭領印度を植民地コロニーと稱呼することを止め、一般には海外領地 (*Overzeesch gebied*) と稱することになつた。

新法に依る評議院は、漸く一九二七年の中葉に於て成立を見た。該評議院は、一九一八年當時の評議院に比較し、只單に其權限を擴張したるのみならず、議員の數に於ても彼此非常の相異がある。即ち、以前には僅かに四十八名なりしものが、新制には六十名となり、其の六十名の中少くとも三十八名は選舉に依て決定せらるゝことになつてゐる。此の三十八名中、十五名は歐洲系の蘭人、三名は支那人又は亞刺比亞系臣民、二十名が土人である。總督の指名する残り二十二名の中、十五名は歐洲系の和蘭人、二名は支那人又は亞刺比亞系臣民、五名は土人でなければならぬ。依之見之、一九二二年憲法改正の結果になれる新國民參議院に於ては、和蘭人は土人に比し、數に於て只僅か勝つてゐるのみである。此處に亞刺比亞系といふは、純亞刺比亞の土人をのみ指すにあらず、蘭領印度に於て小商人として活動せる印度人、バルーチスタン、アフガニスタンの土人をも指していふのである。

蘭領印度に施行されてゐる法令には、聯邦議會の制定する法律、國王の發する勅令(一般行政命令といふ)、總督の制定する總督令 (*Ordonantie*) の三種類あるが、蘭領印度總督は、總督令を制定する場合には、原則として國民參議院の協賛を得ねばならぬ。只、危急存亡の場合、評議院が特定の期間内に賛否を表明せざる場合、或は總督と評議院との間に結局意見の一致を見ざる場合には、總督は本國政府と協議し、自己の職權を以て、皇領植民地の *Order in Council* 同様の形式に於て、

取敢へず之を公布實行することが出来る。

國防、外國との條約、國際法に基く權利特權に關する協定は、國民參議院の立法的權限の範圍外である。而して、蘭領の豫算は、其れが法律效力を生ずる前に、在海牙和蘭議會の議に附し、最後の承認を得なければならぬ。

參議院に於ける事務の進捗を圖り、參議院の召集を待つ能はざる緊性なる要務を辨する爲め、參議院は、別に委員長の外に二十名の委員を有する常設委員會(Het college van gedelegeerden)を設置することが出来る。該委員は、年中隨時會合し、參議院の例會に於て議案が容易に了解せられ、議事が容易に進行するやう調査諸般の準備を爲す。

國民參議院は、最近其の設立を見たばかりであるから、其れが蘭領の朝野に如何なる影響を與ふるか、如何に迎へらるゝかを論ずるのは尙早である。爪哇に於ける急進的分子は、國民參議院に新に附與せられたる權能は、到底彼等の政治的要求を満足するに足らぬものであり、和蘭人は土人を好遇してゐると言て、世間を瞞著せんとするものに過ぎないと言てゐる。土人は、彼等の政治的能力に對する自信惚れを増張し、參議院に於ける土人議員の數を増加し、過半數を制せしめ、院内の空氣を左右せしむることを主張してゐる。保守的蘭人は、全然反對に、新制度に由る土人權力の増大をば、疑懼の眼を以て見、中央集權的專制主義が、寧ろ國利民福と一致するものであると主張

してゐる。蘭領印度に於ける代議制の發達に興味を有するの士は、一九二七年四月發行のエシアテ
イック・レビューに於けるドクトル・モレスコー(Dr. E. Morasco)の此の問題に關する卓越せる論
文を見らるれば得る所多からん(註)

(原註。右の記述が畢つてから、國民參議院に於ける被選議員の數を増加し、印度評議院 Raad van
Nederl.-Indië に、二名の非和蘭人を追加すべしといふ議案が、和蘭本國議會に提出せられた)

* * * * *

國民參議院の權限及び責任の擴張は、植民地政治の將來に多大の影響を有することは疑ひを容れ
ぬ所であるが、參議院の組織改正と同時に於ける地方行政區劃の改正、地方議會に對する被選舉
議員の増加は、參議院の權限擴張にも増して大なる影響を蘭領の政治的生活に齎すに違ひない。

蘭人が、行政制度上如何に重要な改正を加へつゝあるかにつき、正當に理解せんが爲めには、最
近まで爪哇に行はれ、尙ほ未だ新制の行はれてゐない蘭領の部分に、現に行はれつゝある舊制度の
概略を先づ以て紹介する必要がある。

最近まで(註)爪哇全體は、行政上多數の州(Residantie)に分たれてゐた。而して、是等の州は、小
さいのは五十萬、大きいのは二百萬の人口を包擁してゐた。之に對しては、吾が亞弗利加の保護國に
於て Political officer と稱する英人行政官と同型で、而も略ぼ同一の權限を與へられてゐる、行政上

特別な訓練と學識とを有する蘭人官吏が行政を行つてゐる。州内に於ける此の最高行政官は、重大

なる責任を帯びて居り、蘭領印度總督の直接の命令下に在る。地方長官たる彼は、彼よりは下級なる數多の行政官吏 (Assistant-Resident, Controleur 等を指す) に依り輔佐されてゐる。是等官吏の數は、面積の大小、政治經濟的價値の多寡に依て異なつてゐる。彼等の執行せる職務は、亞弗利加のウガンダ (Uganda) ニゲリア (Nigeria) の郡長 (District Officer) が行つてゐる職務と大同小異である。

譯註。一九二五年十二月末日まで。

右は、主として上級の地方官竝に歐羅巴人の行政について述べたものであるが、對土人行政について、蘭人は間接統治政策の效能を固く信じた。少くとも、過去五十年間、蘭國官吏は、直接手を下さず土侯土酋の手に依て爪哇人を統禦し、彼等自らは、土人官吏の「案内者、相談相手、友人」たるに止めた。只、爪哇マドゥラ以外の廣大なる外領に於ては、人口が非常に稀薄で、無力なる土人官吏では到底力が及ばない程廣汎な範圍に人間が散ばつて居り、尙ほ未だ原始的生活の域を脱し得てゐないので、對土人統治に對する蘭人官吏の關涉する區域が爪哇に於けるよりは遙かに多い。爪哇では土人は、往古より、サルタンとか土侯といふ者に依て統治せられ、其の命令に服従する習慣を持つてゐた。

土人間より生れた者をして統治を行はしむること (爪哇で) が自然であり便利であり、且つ自分自

らに取て利益であることを充分に認識してゐるとは言へ、和蘭人は、土人中の名門なれば何人でも受入れるといふのでは決してなく、土侯酋長等にして土人行政の長官たる者は、和蘭の利益に一致し、和蘭の正朔を奉ずるものでなくてはならぬと考へた。ヂョクヂャカルタ、スラカルタの二土王國及び其れよりは小さい土侯國で、ヂョクヂャタルタ、スラカルタと同じく條約に依て和蘭の權力に服従するものを除き、領主として爪哇各地に散在せる無数の小土酋は、其の獨立を奪はれたるのみならず、爲政者としての立場すらも失つた。即ち、世襲的の土酋は逐次除外せられ、州知事以下蘭人官吏の保護指導下に、中央政府の所望、政策を忠實に實行すべく期待し得らるゝ所の所謂「レヘント」なるものに依て其の位置を繼承せらるゝことになつてゐる (譯註)。

譯註。一九二五年の制度改正 (一九二六年一月一日より實行せられたる) 前に於ける爪哇各州統治組織は左の通りである。



即ち、州知事は副知事を監督し、蘭人たる副知事は同格とは言ひ乍ら、實は土人知事をコントロールして對土人政治を行つてゐる。別にコントロリアーといふ蘭人行政官吏が、副知事に所屬し、地方長官の意志が管内の各部に徹底してゐるかどうかを監視する。副知事以上の行政は歐人に依て行はれ、歐人並に歐人と同一待遇者の事務を取扱ふといふ意味に於て、歐人行政 (Europäisch Bestuur) といひ、其れ以下を土人行政 (Inlandsch Bestuur) と言つた。

土人知事たるレヘントは、小にして十萬、大にして百萬の人口を包擁する地域を統治してゐる。彼等の多くは、往時土酋たりし者の末裔で、從て治下の人民に對しては、少からざる個人的勢力を有してゐる。行政上必要な腕前を所有し、且つ一地方の長官として必要な他の資格を持てさえれば、レヘントの位置を世襲的とすることに就て、蘭人政府は敢て異議を挿まない。又事實、門閥家の爪哇人で、理解力と、自省力と、禮讓とに於て著しく勝れたる者があることは拒めないのである。

爪哇には、由來大地主なるものがない。而して、是等レヘントは、多く名門の出とは言へ、住宅の周圍にある遊び場、家族の必要とする主食物を産するに足る、只僅かばかりの田畠を所有するに過ぎない。彼等の中富裕なる者は非常に少く、其の多くは中央政府より受くる所の俸給に依て生活してゐる。彼等は、其の行政區域を包括する地域を受持てる蘭人官吏に依て綿密なる注意を受け、

多く其の注意に服従すべく餘儀なくされる。同時に、レヘントは、地方人民の經濟的利害に重要な關係を有する新規の企てに於て、州知事の諮問に應じ、諸般の献言を爲す。

爪哇に住する歐洲人に關する事務は、蘭人行政官吏の所管である。蘭領印度では、土人 (Inland) と稱する者の身分と、歐洲人の身分の間に、嚴重なる法律上の區別を設けてゐる。

レヘントは、周到なる注意を以て蘭人官憲に依て待遇せられ、蘭人官吏は、レヘントが其の威望を保持するやう、あらゆる方法を講じてゐる。レヘント間の一般の傾向は、次第に歐式の生活を模倣するにあるも、彼等は、東洋諸國の酋長に特有なる古風の粉飾を施してゐる。然し、彼等は回教徒であるに拘はらず、一名以上の妻を有するものは少ない。彼等の服装は、歐式と爪哇式との調和せる取合せであり、儀式の場合には、時として非常に古く貴重なる爪哇特有のクリスといふ劍を必ず佩用する。上流の爪哇人馬來人中には、往々少からざる行政的手腕を有する者があり、彼等が土人に與ふる待遇は、一般に公平穩當といふことに依て特色づけられてゐる。

レヘントは、パティ (Pati) と稱する、土人官吏に依て輔佐される。パティは、レヘントの總理格で、レヘントの爲す一切の職務を行ひ、或場合にはレヘントを代理する (或分州にては、レヘントを置かずパティをのみ置いてあるのがあつた)。パティの下に、各階級の土人地方官がある。ウダナ (Wadana 土人郡長)、副ウダナ (Ass. Wadana 土人分郡長)、マントゥリ (Mantiri) 等がそれで、其の多

くは略稱してオスヴィア (O.S.V.I.A. = Opleidingschool voor Inlandsche Ambtenaren) といふ土人官吏養成所に於て、五箇年間訓育を受けてゐる。該養成所は、頗る有意義のものであるから、後に至つて一言するの機會があらう。ウダナ以下の官吏は、管内の平和秩序を維持し、諸税の徴收を爲し、地方農民に關する一切の事務を處理する。

以上の如き責任ある位置を有する土人官吏には、其の位置の如何に拘はらず、前述のマントウリを附隨せしむ。マントウリは、地方の名家から出た青年官吏で、彼等の上官と同じく、多くはO.V.I.A.で教育を受け、將來のため各種の行政事務を見習つてゐるのである。彼等は、永き彼等の試補期間を、上官の家庭内に費し、否應なしに上官の命令に服従すべく教へられてゐる。

土人文官は、上述の如く、多くの方面に於て有效なる働きを示してゐるが、舊來の惡癖たる公金費消土人の不當待遇を防止する爲めには、尙ほ怠らざる蘭人官吏の監視と統制とを必要とする。土人行政の問題について、蘭人官吏は、表面には出ないが、裏面に於て彼等は密接なる連絡をば土人官吏との間に保ちつゝある。知事副知事等蘭人側官吏は、可及的レヘントに腕を揮はしめ、レヘントの権限を侵害し、體面を損するが如きことなきやうに力めてゐるが、同時に彼等を導き、彼等に教へ、彼等を援助し、彼等と緊密なる聯繫を保ちつゝある。

大多數の土人の眼には、レヘントは、今も尙ほ彼等の支配者であり、君主である。而して、其れ

相當の敬意が土人側に依て拂はれてゐる。斯くレヘントは名譽づけられ尊敬を受けてゐるけれども、地方統治の實權は州知事たるレシデントが握つてゐる。レヘントの爲さんとする仕事の中、重要なものに對しては、豫めレシデントの承認を必要とする。與へられてゐる實際上の権限を自覺せず、只表面の待遇に眩惑して出過ぎたる行動を敢てするレヘントは、何等かの形で必ずや報ひられるであらう。地方行政に於ては、何事もレヘント並に彼の下僚を通じて爲される。然し、重要な施設について、不可侵の言を發するものは、彼等の上司たるレシデントである。

土人行政官吏の廳舎は、レヘントのそれは勿論、ウダナのも、副ウダナのも、殆んど皆廣々たる公有地に建てられたる寄棟造である。而して、何れの側も明いてゐるから、相當遠くの方を通行する人でも、廳舎中に如何なることが行はれつゝあるかを望見することが出来る。之は東洋諸國に於て昔し見た、官廳の様式を真似たものである。昔し東洋では、モーガル帝國の大王でも、地方の小藩主でも、公衆の見通し得る所謂 Durbar Hall に引見して人民の訴へ (Coram populo) を聞いたものである。而して、往昔に於ては、賄賂の贈り方が最も足らなかつた者に對し、不當の判決取扱が、是等の公屋に於て往々にして與へられたが、平凡ながら現時に於ては、爪哇人の出願者出訴人は、公平なる裁判を期待することが出来る。少くとも、脊後に控へてゐる白人官吏の手に依て、極めて貧乏なる出訴者に對してと雖、公平なる取扱ひと相當なる保護が與へらるゝことを安心して期待し得

る。

蘭人官吏レシデントの土人官吏に對する態度は、多くの場合、深切且つタクトに充てるもので、爪哇土人間に於ては、前者は後者の兄(註)の如くであるかの如くに言ひ傳へられてゐる。身自ら、蘭領印度に於ける政治組織の運用を研究せる者は、蘭土兩國官吏間に、多くの場合に於て存する親切と友情とを見逃さないであらう。兎に角、上記制度の結果、土民の大多數は、彼等と種族宗教を同じくする者に依て統治せられ、歐洲人は只土人官吏の不正不公平を防止し、且つ近代文明の産物たる利用厚生之道―それには土人が漸を追ふて習熟しつゝある―を授けんが爲めに在住するに過ぎないといふ印象を持てゐるのである。

(譯註。著者はレシデントがレヘントの兄の如くであるといふのは、只土人間に言ひふらされてゐるかの如くに言てゐるが、之れは一八二〇年東印度官報第二十二號レヘントの義務を規定せる總督の決定中にある文句が一般に弘まつたものである)。

一九二五年末までの制度に従へば、レヘントスハップ(レヘントの行政區域)には評議會があり、レヘントはそれに依て助けられてゐた。議員は、選舉ではなく總て任命に依り、大多數が土人官吏で、而もレヘントの部下であるから、議員の爲す決議なるものは、要するにレヘントの決定を裏書するものに過ぎない、又州には別に州議會があり、議員は悉く任命の形式に依たもので、其の權能

も只知事の諮問に應ずといふ消極的のことに止まつてゐた。而して、議員中に於ける非官吏の勢力は、概して大なるものではなかつたが、管内の事件に關する彼等の討議は、知事をして州下に於ける諸般の問題、之に對する輿論希望の趨向を知悉せしむるに與つて力あり、彼の施政に裨益する所鮮少ではなかつた。

爪哇の大市街、商業の大中心地は、既に久しき以前より市制を有し、大なる權限と責任とを有する市會に依て統治せられてゐた。市會議員の多數は、身分と財産とを有する歐洲人其他である。爪哇に於ける是等市街の立派なる外觀、賞讃すべき生活狀況よりして、當局が相當進歩した思想を以て善處し、機宜の措置を怠つてゐないことが明かである。只遺憾なのは、市の公課金が不廉なることである。

今迄述べ來つた制度は、最近迄爪哇に行はれたものであり、それに依り、爪哇の住民に、平和と繁榮と、極めて良好なる健康衛生状態とが爪哇の住民に持來された。吾人は、更に進んで此の幸福なる状態が、今回新に輸入せられた所の統治政策上の變化に依て如何様に變化するかを見ねばならぬ

以前蘭領印度の政治を特色づけてゐた強硬なる中央集權主義は、今や軟化して權限を地方に移讓

し、可成り根本的な自治を地方に分與することになつた。即ち、爪哇島は、行政上三つの異なる省（以前は十七州に分たれてゐた）に別たれ、各省（Gouvernement）は更に數箇の分州（Afdeling）に分たることになつた（註）。以前、州といつた政治上の區分は、小さな政治的單位即ち分州に分たれ、其の長官たるレジデントの權限及び待遇俸給も以前のレジデントのよりは縮少減額せられた。分州のレジデントは、東印度總督の直接命令下に立つことなく、省長官（Gouverneur）の監督下に立ち、省長官を経由して書類の申達を爲すことになつた。

（譯註）。一九二五年九月一日西部爪哇省なるものが試験的に設けられ、一九二八年五月中部爪哇省東部爪哇省が設定せらるゝことになつた。新制に依れば、省は分州アフデールンツに分たれ、分州は二、三の土人理事州（Regentschap）に、土人理事州は更に數箇の郡に、郡は分郡に、分郡は村に分るゝことになつてゐる。

以上の如き新制度は、始めより全般的に之を實施するの積りでなく、一部分之を實施し、其の成績を見て次第に之を擴張して行く方針であつた。斯くて、西部爪哇省が一九二五年先づ手始めに設けられ、其の實績が可いか悪いか、悪いとすれば如何なる變更が必要であるか、其の點を見分けなければ急には擴張しないといふのである。然し、和蘭本國に於ける或種の政治的勢力が、蘭領印度政府の上に加へられ、以上のプログラムが、全般的に急速に實行せらるゝことになり、目下實施中

に屬する。

新制の實施と共に、以前の州議會（議員の全部が任命に依る）は廢止せられ、各省に省議會が設置せられた。西部爪哇省議會の創設當時に於ける議員數は四十五名、其の二十七名が選舉、他の十八名が指名に依て定めらるゝことになつてゐる。被選議員中十一名が歐洲人、十三名が土人、三名が支那人其他東洋外國人といふ定めである。任命に依る議員中、九名は歐洲人、七名が土人、二人が臣民たる東洋外國人である。依之觀之、被選議員の數は三と二の割合にて任命議員の數を凌駕してゐる。

選舉と代議的基礎の上に立つ有力なる機關が創設せられたに拘はらず、新制度に不満を持てる批評家は、該機關は充分に其の効力を發揮するに足る對象、地盤を與へられてゐないと主張してゐる。即ち、中央政府は、全國的に適用を見るが如き事項の決定權は、譬へ省内に關係を有すること、雖、政府自らの手に保留し居るを以て、省議會の審議決定し得る範圍は、自ら省内部の土木、灌漑、給水、發電、其他類似の事業に限定されてゐるのである。但し、是等の事業が、全體として相當規模のものであるといふことは、一九二六年に於ける西部爪哇省議會の議定した豫算額が、六百萬盾（約五十萬磅）であつたといふことに依て推斷せられる。斯く、省の收入を定め、租税を決定徴收する權能を與へられてゐるが、然し、省議會の議定する豫算は、省全體の支出の一部に過ぎず、他は中

中央政府より補給されてゐるのである。従て、反對の批評家は、「笛手に金を拂ふ者が曲目をきめる」といふ昔しの諺を引用し、金力を有する者に権力が集まるのは當然だと主張するのである。兎に角、蘭印政府當局は、此の點に就て、蘭人に特有なる用心と警戒とを以て進んでゐる。最初の省議會開會の際に於ける演説に於て、總督は、省議會が其の能力と責任感とを事實に依て證明せば、一層大なる権限が其の上に附與せられるであらうと言ひ、印度政府用意の程を明かにした。

和蘭の諸州に於て見るが如く、省議會の執行機關として代理員團 (Het College van Gedeputeerden) が任命せられ、省務を處理してゐる。代理員は、省議會の議員でなければならぬ。而して、夫々相當の俸給を受けてゐる。各代理員は、行政上、或部門の事務を分擔し、全體としては行政委員會を形成し、省の行政については省議會に對して責任を負ひ、省長官を戴いて會長としてゐる。一九二五年、西部爪哇省議會開會の際に於て、省議會が先づ最初に決定せねばならぬ事柄は代理員の選擇であつた。其の際には、何人を以て、之に當つべきかに就て、頗る辛辣なる議論が行はれた。而して、議長たる省長官が、東印度高等文官たる者の中から五名を指名推選し、漸くにして議會の贊同を得たるの一事は、茲に特記するの必要あるべしと信ず。

爪哇には、中流階級といふものがないといふ驚くべき事實がある。それが爲め、被選議員は勿論指名議員も、其の選擇の範圍が非常に限られてゐたのである。今西部爪哇省議會議員について見る

と、歐羅巴人たる蘭人議員中大多數は事業會社の重役、技術者、商人で、土人議員中九名はレヘント、外に少數の農業者、殘餘の者の中大多數は醫者辯護士であつた。五名の支那人亞刺比亞人議員は悉く商人であつた。

次にレヘントスハブ評議會について一言す。省議會内に、被選議員が、數に於て優越してゐることは頗る重大なることゝは考へられてゐるが、レヘントスハブ評議會に被選議員を入るゝことは、遙かに重大なる結果を齎するのではないか、縁起でもないことと在留蘭人側に依て考へられてゐる。新奇なる今回の試みが、從來レヘントが持つてゐた権力威望に對し、悪い影響を持ちはしないか、といふことにつき悪い豫感がある。レヘントは從來、彼等の義務を忠實に盡し、且つそれに依てレシデントの氣に入つてさへ居れば、土人仲間に於ける彼等の位置勢威は安全であつた。以前のレヘントスハブ評議會に於て、議員はレヘントの指示する柏子に合槌を打つことに全く馴れて居り、從て議員がレヘントに反對したといふことは未だ嘗て聞いたことがない。斯くて、管内の行政は極めて圓滿に進行した。不平不満の徒は、各々の場合に應じて、適當に彈壓を加へられた。要するに、レヘントが、レシデントの指圖に依て何事もしてゐる以上、彼の位置は安定し、名譽あり、羨むべきものであつた。

新制(一九二五年四月一日實施)に依るレヘントスハブ評議會は、主として管内に於ける土人の經

濟的利害に關係を有する問題につき彼等の所見を發表せしむることを以て目的とする。議員の多數は選舉に依り残りの者はレヘントの推選せる者の中より總督が任命する。選舉に依る者は、土民が直接に選舉するのではなく、村民より選舉せられたる選舉民(Kiesmannen)に依りて選舉せらるゝのである。評議會の會長はレヘントである。駐在蘭人官吏(レシデント)は評議會に出席することを得れども發言(Locus standi)の資格なく、議事の進行を左右する何等の權限をも有さない。

余は、過般の爪哇旅行中、新制に依る第一回のレヘントスハブ評議會に出席傍聴し、其の組織の大要、之が將來地方政治に及ぼす影響、議事進行の模様を目睹するこよなき機會を與へられた。今左に其の次第を述べん。

評議會場は、四側とも明け放しになれる、廣大なる寄棟造り(バビリオン)であつた。此のバビリオンはレヘントの官舎の敷地内にある。印度から傳つた、印度特有の大なる謁見所(Darbar Hall)の形式は、此處にも保存せられてゐる。只屋根は、印度に於けるものゝ如く、朱塗の桁柱と、之を飾る彫物とはなく、チークの丸太と何等の風情もない瓦で出來て居た。バビリオンを支へてゐる多くの柱は、印度の昔の建築でもあつたならば、絶妙なる彫刻で覆はれてゐるべきだが、沈鬱なる色の巨材であつた。而して、彼等の先祖ならば、金色燦爛たる玉坐に胡坐をかいてゐるべき筈であるのに、之は堂々たる歐羅巴風のデスクを前にし、椅子に掛け、後ろには、蘭國皇室の御紋章を彫刻せる衝立が立て

られてゐた。

會議室と同じくレヘントの服裝も亦舊時代から新事物への過渡期を徵象してゐる。即ち、彼は頭に舊來の色物の鉢巻を纏ひ、脚部にはバティック模様のサロシを穿ち、體には歐羅巴のデインナー・ジャケットに能く似た上著、金屬製のボタンを付けた白色のチョッキ、白色のハイ・カラー、黒のネクタイをつけてゐた。彼は土著に和蘭の勳章をつけ、坐席の側に、少しく後方に當つて、金縁の傘が三本開いた儘立掛けてあつた。之れは彼の格式を示す國家の表章である。レヘントの右の坐席にレシデントがゐる。彼は會議其の物には何等の關係がない(amicus curiae)といふ風で坐つてゐる。レヘントの左には、總督長官たるバティと書記官とが坐つてゐる。

新舊時代の對照は、議場内部の議員間に於て一層甚だしいやう見受けられた。例へば、昔しならば、土侯土王の宮庭は、此の種會議の際には、燦爛たる土人服を着た多數の臣僚が平身低頭してゐるべき筈なるに、レヘントの前に今集まつてゐる二十九名の評議員は、小綺麗な小卓子を前にし、格好よき椅子に腰を下してゐた。而して、其服裝に至つては、大多數のものはレヘントと同様であるが、レヘントよりは、遙か完全に洋裝にしてゐる。二十九名の議員中、十名が政府の指名に依るもの、其の中の四名が歐洲人であつた。殘餘の十九名が選舉民に依りて選出せられたもので、レヘントの管内にある七、八十の村落を代表してゐるのである。土人議員は、悉くスンダ人であるか、

爪哇人である。議員の大多数が、相當の教育を受け、土語と同一程度に和蘭語を話し書き得ることは、會議進行の模様から想像し得られた。場内に於ける愉快なることで、而も場内の空氣を柔かにし衝突の機會を少なからしむるものは、喫煙である、殆んど總ての議員が會議中喫煙してゐた。議場の後庭では、議場とは大分離れてレヘントのガメラン(Camelang註)音楽隊が、極めて軟かな、極めて幽かな音で、断えず音樂を奏してゐる。恰かも竹藪と椰子の葉蔭の間を、そよ吹く微風の如くである。

バビリオンのある庭の縁邊には、純白にジャケツ姿にサロン一千様萬態に彩れる一の土人の群が場内に於ける議事進行の模様を靜かに見物してゐた。

(譯註。土人オーケストラの樂器、眞輸製の鐘其他よりなる)。

議場にある者は、何人と雖、議長の椅子を占めたるレヘントの人物、態度に依り、多大の感銘を受けずにはゐないであらう。此の種會議に多年議長として難多な事務に鞅掌した歐洲人と雖、レヘントより以上の尊嚴とタクトと、大なる分別とを以て議事の進行を圖り得なかつたであらう。温乎たる彼の態度、耳ざはりの良い彼の聲、議事の方法を一から十迄心得てゐる彼の進行振り、一として彼がより嚴めしい議會の議長たり得ることを示さないものはなかつた。

當日の議事は相當多數に上つた。然し、一々の議題を悉しく説明した書類が、前以て議員の手元

に廻されてゐたから、議事は餘り引掛らず進行した。レヘントは、新しい議題に移る毎に、提案の理由を簡單に、然し明瞭に説明した。而して、議場は只一名の議員を除き、演説らしきものをしなかつた。質問演説をした其の一名は土人で、他の議員と異なり知識慾に燃えてゐたらしく、机上にも堆く書類を積上げ、なにかにつけ質問せんとする氣配を示した。彼は米國製大型のロイド眼鏡を掛けてゐた。彼が學校教師であつたといふことは敢て異むに足らない。

議事は第八番目の議題が上程さるゝまで圓滑に進行した。此の八番目の議題といふのは特別に重要なものでなく、灌漑施設委員の員數に關するもので、レヘントは三名説を主張した。例の學校教師は、急に起ち上り四名説を主張した。之に對し、レヘントは、妥協的口吻を以て、節約の必要を説き必要以上に俸給を支出することの面白からざるを主張した。教師はいつがな承知せず、修正案を提出し其の可否を投票に依て決せんとした。レヘントは、所定の形式を履んで修正案を討議し採決したるに、修正案を可とする者十六否とする者十三といふ意外な結果になつた。政府案が敗れ、レヘント、レシデント、詮じ詰めれば、蘭人政府が敗北した形だ。それは慥かに劇的であつた。異常なる、未だ曾て耳にしたことない事件が起つた譯だ。満足を交へたる愕きの囁きが、後庭に耳を敬てゐる土人の群を小波の如くにさは立たせた。出席議員等は、驚きの眼を以て、臨席の者を見合つた。

レヘントが、此の場合に取つた臨機の状態は賞讃に値ひすると思ふ。困惑不機嫌の様子は、平靜其の物の如き彼の何れの部分にも認むることが出来なかつた。彼は何等の遲滞なく、次の議題に移つた。然し、熟々考へて見ると、之れは容易ならざる出来事である。其處に出席してゐる、どの議員の記憶を辿つて考へて見ても、レヘントの希望と意志とが頭から否認されたのは、之れが始めてあつたであらう。加之、列席議員の誰れもが、敗北したのはレヘントでなく、實は蘭人政府の名代として彼の側に坐つてゐるレジデントであることを承知してゐた。破れた議題其の物はどちらに決つても大したものではない。然し、其處にゐた者は、庭先で傍聴してゐた極めて單純な百姓でも、非常なる變化が彼等の公生活の上につつたこと、端的に言へば、土民の代表者たる評議會議員等は、從來絶對服従を強制してゐたレヘント以上の官憲に對し、彼等の意志を強行するを得ることを自覺したのであらう。

余が傍聴した評議會で起つた事柄は、新制度が爪哇マドゥラ全般に行はるゝに連れ、到處のレヘントスハブ評議會に於ても起り、又より重要な問題についても繰返されるであらう。レヘントは一見頗る平靜で無頓著にさえ見へるが、内心では彼の位置と權力の上に異常なる變化が起つたことに氣が付いたであらう。元來、彼のみならず、全爪哇にある彼の同職は、何が故に政府が今度の如き評議會を彼等の上にあま下したかを了解するに苦しんでゐた。従前に於ける制度の下では、彼等は、

少くとも外觀だけでは、治者としての彼等の權威を示すことが出来た。而して、土民等に對する彼等の勢力の根源に就て敢て疑ひを挿む者はなかつた。彼等は、和蘭政府の希望と政策とを忠實に實行し、尙且つ土民に對しても、土民仲間に依て支配されてゐるものといふ印象を與へることが出来たのである。今回の制度に依る評議會が、爪哇人の政治的生活の上に、結局如何なる結果を齎すであらうか。レヘント等は、和蘭宗主權の直接有效なる手先として充分の勢威を持続することが出来るであらうか。或は又全く權威を失墜し、歐式に統治せられてゐる國家内に於ける舊時代の遺物、時代錯誤の産物として辛くも其の存在を保つであらうか。

爪哇の村落には、共產主義其他破壊的の要素が次第に其の勢力を逞ふしつゝあるが、レヘントスハブ評議會中には、過激思想にかぶれてゐる農民代表がゐないとは保證出来ない。過激思想を懷抱する是等の人々は、評議會に於て、あらゆる機會を捉えて革命思想を鼓吹するであらう。斯くて爪哇土人の大多數には意識せられなかつた所の不滿不安の精神が、一般に瀰漫するやうになるかも知れない。而して、個人的勢力の幻滅を見たるレヘント等の中には、和蘭政府の權威を覆さんとする革命家と氣脈を通じ歩調を合せる者があるかも知れない。和蘭の爲政者から見れば、彼等は從來最も教へ易く、忠實なる蘭政府の共助者であつたのであるか、寢返りを打ち、且つ彼等が傳來的に土民間に勢力を有する所から、今日一部に於て見る惑亂を擴大するに至るかも知れない。

蘭人は、出來得る限り、レヘントの土人間に於ける威望を維持しやうと努めてゐるが、泰西の文物と、それに伴ふ諸般の形式方法は、土人農夫が土會土豪に對して有せる尊敬の感じを破壊せざるば止まないものである。歐羅巴式の行政を支配してゐるものは、呑込み悪い萬般の法規法令である。事務を統裁する土人官吏は、煩鎖なる是等の法令に拘泥束縛せられて、立派な官僚になりつゝある。形式的なる萬般の義務は、土人高官の有する、あらゆる時間を占領しつゝあり、往時上下の間に存せる密接なる交際は到底出來にくゝなりつゝある。土豪が、遺傳的又は個人的威望の結果持てゐた勢力は、以上の如き不可見の理由下に段々に無くなり、遠からざる將來に於て全然消滅するに至るかも知れない。

「直接統治」の政策を主張する熱帯植民地の爲政家は、世襲的土人支配者の個人的權威勢力の失墜を寧ろ歓迎してゐる。彼等は、是等の世襲的土司は、概して思想が反動的であるのであるから、機會さへあれば、進歩的傾向の歐羅巴人又は土人にして、成り上りの官吏をして、是等の土司に代らしむる必要があると考へてゐる。常人も萬事が平穩無事に行つてゐるうちはそれで差支へないと思ふ。然し、原始的文化の民が、世襲的自然的嚮導者を失ひ、而も尙ほ不穩分子に襲はれたとしたならば、結果は困ることになると思ふ。破壊的學說、共產主義的理想、革命的宣傳が無知な大衆に浸潤し、猜疑と不満とが善良なる秩序と紀律とに代り、平和と靜謐とが暴動と流血とに化するの時、

外國輸入の「直接統治者」は、民衆に對する彼等の勢力が如何に微弱で、一人勝手に決めた彼等が政治上のドクトリンを理解する方に乏しいかを覺知するに至るであらう。土豪會長の數は、擾亂の際、社會の平和秩序を維持する爲め、彼等が傳來的に有する勢力を用ふることが、彼等の利益でもあり、彼等の傾向にも一致することを屢々見出す。個人的自由の發達、中間勢力の排斥を主張する所の政治論者も、一朝有事の際には、かゝる重寶なる中間勢力の亡失を惜むであらう。勿論、普通熱帯植民地に於て見る叛亂は、強力なる兵力の背景を有する政治的權力を以てすれば容易に壓抑することが出来ゝ。然し、非常なる困苦と流血の慘を招かんとする政治的紛擾が、世襲的傳來的支配に基礎を有する土人有力者の個人的斡旋盡力に依つて、未然に防ぎ得られたやうなことは能く吾人の見る所である。

爪哇の進歩的分子と保守的分子の政治上の意見に、實に大なる開きのある所を見ると、最近に於ける政治の變革が、保守進歩雙方の満足を買はなかつたことは何等不思議でない。爪哇に於て、永年間に實際政務に干與したものは、今回の改革は餘りに弘汎で根本的である。時期尙早であると主張してゐる。比較的小數ではあるが、可成り勢力を持てゐる爪哇のインテリゲンチアは、右と反對に、中央の民選議院と、省及びレヘントスハブ評議會とに、新制に依つて與へられた權限は、全く見掛倒しで、和蘭人官憲は、寛容の假面の下に、實權實力を自己の掌中に收めてゐることを示してゐるで

はないかと言てゐる。

稍々中間に立つ政府部内に於ては、今次の制度改革は健全であり實質的であるから、物の分つた土人側には不平のありやう等がない。他面蘭國政府の權力を保持するために設けてある各種の保障は、現在に於ては止むを得ないものと思惟してゐる。蘭人は、これからは土人に對し、政治に關與する權限を漸増的に附與せねばならぬと腹を決めてゐる。然し同時に、政治に對する土人の政治上の責任は、政治的能力の發達と並行して行かねばならぬと蘭人は考へてゐるのである。而して、土著人民に與ふる政治的權力の爲め、數萬に上る蘭人歐羅巴人が、是迄合法的に得た權益が脅かされる如きことあつてはならぬといふのが動かすこと出来ない蘭人の主張である。蘭人歐羅巴人は其の先見の明と、旺盛なる企業心と、絶倫なる努力とを以て蘭領東印度の人民が目下享受しつゝある所の高度の文明と、平和と、繁榮とを作り出したのである。

第三章 東印度文官と其待遇

蘭領東印度の蘭人文官は、英國若くは佛國の熱帶植民地に於けると略ぼ同様の制度規律の下に服務してゐる。文官任用の標準は頗る高く、行政部は高度の教育を受け、剛直廉潔の士を以て組織されてゐる。

然し、之れは現在の狀況を言つたもので、以前の東印度文官は、決してそんなものではなかつた。和蘭東印度會社の統治時代には、財産もなければ道義心もない、無耻無謀なる青年が、東印度に於て暴富を蓄えやうといふ一心で (To shake the pagoda trees) 本國から送り出されたのであつた。其の狀恰もジョン・カムバニー (英吉利の東印度商會を蔑稱して斯く言つたことがある) 時代に於ける東印度行きの青年と何等擇ぶ所なかつた。主として不正行爲に依つて生計の途を立てるといふことは、會社に於ても當然のこととして認めてゐたことは、社員の中の者に拂はれてゐた年俸が僅かに百磅に相當するものに過ぎなかつたことでも察せられる。而かも其の百磅でも、其の半分は、雇傭契約満期の曉、和蘭本國で支拂はれるといふことで、仕拂ひを延期したのであつた。和蘭東印度會社時代に於ける社員の生活振が如何に放漫で、道徳が頹廢してゐたかは、爪哇に於ける會社役員が、一般的に陥つてゐた贅澤を防止する爲めに、在海洋本社重役の發せる節約命令に依つても窺知することが出来る。即ち、本社重役は、會社の役員が高價なる貴金屬寶石を身に著けることを禁じ、馬車用として使用する馬匹の數を制限した。

現在の制度に依れば、蘭領東印度の行政は、爪哇ボイテンツォルフ (Buitenzorg) に本據を有する總督の監督下にある。東印度總督は、事實上副王バイスロイであつて、自らの行動に就いては本國の主權者に對してのみ責任を負ふ。彼は、和蘭本國の上院に於ける總督彈劾案が成效したる時に於てのみ、彼の

意志に逆つて其の職を免せられる。

總督は、立法行政上の事務を執行するに當り、蘭領印度評議院(Raad van Indiën)と稱する諮詢機關に依つて補佐せらるゝ。該評議院は五名(副議長を入れて)の議員より組織せられ、是等議員は、概して蘭領東印度其他に永く行政官として在職せる者の中に於て、手腕と年功とに於て他に勝れたる者より選擇せらるゝ。總督が自らの行政上の取極めを外部に發表する時は、必ず「印度評議院に諮問し其の同意を得たるもの」と、決定書の終末に附加するを要し、總督令(Ordonnantie)を公布するときは「印度評議院並に國民參議院の協賛を得たるもの」と附記するを常とする。

東印度に於ける總督の位置は、著名にして有力なる蘭國政治家に依つて占領せらるゝを常例とす。而して、總督の行ふ所の政策は、概して彼が本國に於て屬する所の政黨のそれと一致するものである。但し、此處に注意すべきは、東印度に於ける蘭國の統治政策には、統一と連絡の嚴として存在することである。蘭領東印度に於ける今日の繁榮は、其の大半を、此の統一ある政策に負ふこと多いのである。

總督の位置に附隨する俸給手當は、巨額ではある(註)が適當である。彼の官邸も亦位置の重要な點と釣合つてゐる。ポイテンツォルフに於ける官邸は、輪奐の美を備へ、バタビアに於けるバレイも、威容と釣合の美とを以て有名である。何れも、大部分冷たい純白なる大理石を以て建築され、

灼熱なる熱帯の氣候には誠にふさはしい思付である。總督の行往坐臥共に相當の威嚴を保つ様に鹽梅されてゐる。

(譯註)。總督の年俸は、十八萬盾(十四萬四千圓)、五年勤務後の恩給は六千盾(四千八百圓)、官邸費は六萬二百三十盾(四萬八千八百四十四圓)である(一九二八年度)。

領内の行政は數個の省(Departement)に依つて分擔され、分掌の原則は諸外國の植民地に於けるものと大同小異である。是等の省に於ける執務官吏の數は可成り大で、歐羅巴人文官の俸給費其他人件費は、英領印度其他東洋に於ける英國の植民地に於けるよりも比較的大である。

地方行政の組織は、亞弗利加に於ける英國の保護領、熱帶地に於ける英國の屬地に於けるものと相似てゐる。州行政部の幹部には、州知事たるレジデント、分州の長官たる二・三の副知事、五・六名のコントロリユア、一・二のコントロリユア補を含んでゐる(註)。茲に記載した行政官吏は、行政官吏たるべく、和蘭本國に於て特別なる訓練を受けたるもので、官吏の中堅分子である。官吏のタイズ、其の外見、教育、社會的立場等に於て、是等の蘭人官吏は、彼等と同等の英國植民地官吏と略ぼ同じである、と余が言つても、和蘭人官吏の間に於ける余の友人は感情を害せらるゝことはいであらう。

(譯註)。著者は、地方制度が漸く改正せられんとする頃爪哇を視察せるを以て、此處には舊制度

(本書第二十八頁の譯註參照)の下に於ける行政部の組織を紹介せるに過ぎない。新制度に依ると、爪哇マドゥラは東、中、西三つの省に分れ、省にはガバーナーを置き、省は十内外の分州(*deeling*)に分れ、分州の長官としてレジデントを置き、其の下に二・三名の副レジデントが置かれ、彼(レジデント)を補佐してゐる。コントロリヤは、外領地に多く、爪哇に於ては、私有地事務局(*Kantoor voor de particuliere landerijen*)に二・三あるに過ぎない。資格あるものは新制度の實施と共に副レジデントに昇進した。

蘭領印度の行政官が如何なる方法で任用されてゐるかに就いて、此處に一言を費すことは不必要でなからう。蘭領東印度文官たることを希望する者は、健全なる體軀を有する二十一歳以下にして、文官候補試験に及第せざるべからず。而して、後ライデン大學に於て五年の課程—植民地官吏の養成の爲め特に設けられたる—を履修せねばならぬ。大學の課程は、大體に於て、普通大學に於て見るものと大差ないが、普通の科目の外に、蘭領東印度の歴史、地理、人種學、法律、制度、習慣に關する講義を含んでゐる。馬來語爪哇語も學習せねばならぬ。植民地官吏の養成に關する此の特別教育は、巴里にある植民學校(*Ecole coloniale*)に於けるものに能く似てゐる。巴里植民學校は、佛國の植民地保護領に於て官吏たらんとする者を養成する所である。

ライデン大學に於て、五箇年の課程を修了し、且つ任用 驗に登第したるものは、アドミンストラチヤ行政官吏と

してバタビアに送られ、缺員あり次第コントロリヤ補に任命さる。是等高等文官試験に及第したる者の報酬は、充分に支拂はれてゐる。コントロリヤ補は、始め一年四百七十五磅を受け次第に昇給して五百五十磅に至る。コントロリヤは初任五百五十磅最高九百磅に達す。副レジデントの俸給は最低九百五十磅最高一千二百五十磅である。レジデントは一年一千五百磅の俸給を受く。是等の俸給は吾が亞弗利加の或植民地に於て、同様の位置にある者に仕拂はれてゐるものに比較して、幾分多い。

(譯註)。蘭領東印度の行政官は、技術官とは異なり、多くは官舎を與へられる。

文官の受くる恩給は、吾が植民地官吏のそれと異なり、屈伸法に依つて支給される。即ち受くる所の俸給の額に反比例して支給される。恩給の俸給に對する割合は退職當時の俸給が少ない場合に於て比較的多くなつてゐる。今假りに退職の際一年一萬盾(盾は吾が八十錢に相當す)の俸給を受けてゐる文官ありとせんか、彼の受くる所の恩給額は一萬盾の中、最初の四千盾に對しては割合に多く、次の二千盾に對しては最初のよりは幾分少なく、次の二千盾は更に幾分か少ないといふ風になつてゐる。右の如き制度の結果、英國の植民地官吏と同額の俸給を受領せる和蘭の高給植民地官吏は英國のそれよりは比較的割の悪い恩給を受くることになる。

ライデン大學の植民學科を卒業して蘭領印度に送らるゝものゝ外に、次の如き方法にて採用せら

る、文官がある。是等の官吏は、色々の理由に依り、ライデン大學に入學し、其の課程を履修すること能はざるものである。彼等は和蘭本國に於て行はるゝ高等文官試験に登第したる後、爪哇バタビアに送られ、行政學校(Bestuurschool)に於て、二箇年の教育を受く。在學中、彼等は一箇月三百盾の俸給を受く。行政學校に於て授けらるゝものは、土語、蘭國法律、回教法律、其他行政官吏に必要な學科である。上記の如き純粹學術の外、行政官吏が、不便未開發の地に勤務する際に於て所有しなければならぬ實際的知識が、彼等が是等の地域に於て逢著する諸種の問題、例へば土地測量、道路修築、簡單なる建築、小橋梁の架設、灌漑工事、熱帯衛生初步、土人看護法等について與へられる。是等有用なる知識は、英國の熱帯植民地に於ても、郡長等地方官を遠隔の地に赴任させる前に與へたならば誠に好都合であらうと考へられるのである。

以上述べた行政官とは異なり、ライデン大學の課程を了せる者に比較して、下級なる行政官にして、指揮官(Gezaghebber)と稱する、主として豫後備軍人中より採用せらるゝものがある。此の種の行政官は、地方官として外領に派遣駐在せしめらる。指揮官にしてコントロリユアと同一の責任ある位置に就かしめらるゝものもある、文官の系統上コントロリユアとして任用さるゝことはない。地方に在勤する總ての歐羅巴人官吏に對し、政府は官舎を與へる。官舎は概して宏壯なるものである。上級行政官の官舎は、概して輪奐の美を有し、立派なる家具を備付けてゐる。政府は官吏の

妻帯を奨勵し、妻帯者有家族者に對して特典を與へてゐる。灼くが如き炎熱は爪哇に於ては稀なりと雖、兎に角氣候は歐洲人には合はない。三・四年毎に一回の休暇は絶対に必要である。本國に休養せる官吏中、神經衰弱に罹れるものは、決して少くない。而して、是れは、マラリア、熱帯赤痢に對し根本的治療を加へず豫後の經過が良くなかつたことに原因することが最も多いと言はれてゐる。爪哇には、歐洲人子弟の教育に適する學校が多數あるに拘はらず、歐洲に於て教育するだけの資力ある者は、健康其の他の理由に依り、多くの場合子弟を本國の學校に入學させる。

地方に於け蘭人行政官の任務は、殆んど全く土人官吏の指導者相談相手たることに存する。彼等の目的は、彼等が従前行使したる權限をば、土人が自由に使ひこなせる限り、成るべく多く土人官吏に移讓するにある。彼等は、いつも彼等自らを役立たせやうとしてゐる。彼等は土人官吏に對し忠告し、指示し必要と信ずる場合には警告を發し命令を與へてゐる。而して、爪哇人官吏は、蘭人行政官吏の軟いベルベットの手袋中には、固い鐵拳が隠されてゐることを知悉してゐるが、大體に於て間接政治の主旨を了解し不逞の舉に出ることはない。行政權の移讓が漸を逐ひ、且つ周到なる用意を以てなさるゝ限り、自治權の附與は、安全に且つ軋轢なしに成就せらるべしと信せられてゐる。

地方勤務の蘭人行政官は、間接の監督は無論之れを行ふが、直接關涉事項は歐洲人及び非土人事務に限つてゐる。但し、管内に於ける公安の維持、經濟的利益の増進、傳染病豫防其他管内在住

者全般に關係を有する方策については、注意を怠らない。而して、爪哇全體に關する事業、例へば鐵道、電信、電話、灌溉施設、鑛業取締、土地租借、地上物處分其の他のコンセッションに就いては、地方政府は直接關係しない。是等は皆中央政府の所管事項である。

爪哇土人行政官吏能率の最近に於ける向上は、一部彼等が官立の官吏養成所に於て受くる所の教育の賜物と言つて差支ない。蘭領政府は土人官吏養成の爲めに、特に學校を設置してゐる。是等學校の總數は八で、中六校は爪哇に他の二校は外領に存す。校名を土著人官吏養成所 (Opleidingschool voor Inlandsche Ambtenaren) とし、略稱して OSVIA とす。

OSVIA に入校する生徒は、蘭語を教語とする土人小學校(七年程度)、又は普通中學校(註)のミューラー部と稱する學校の最初三年の課程を修了したもので年齢は十四歳内外である。入學志願者は入學試験に應じ、若し爪哇人であれば、爪哇語の外に、馬來語和蘭語に通曉すること、其の他本校に於て教育を受くるに必要な豫備知識を有することを證明せねばならぬ。該校の課程は五年にて終了す。最初の三年は、一般普通學の爲めに、後の二年は行政官に必要な特種教育の爲め、即ち土地測量法、法律、經濟、蘭領印度重要法規其の他に關する教授の爲めに費される。生徒は又、衛生、農業化學、物理、機械、土木に關する初歩的知識を與へられる。

(譯註)。蘭領印度には、HIS と稱する、和蘭本國の中學と全く同一の中學校と、蘭領印度特有の

AMS と稱する中學校とがある。AMS は上下二部に分れ、下の部をミューラー・アフデーリングといふ。日本の高等小學にも比すべく、此處を出て、更に上三年の課程を終り、大學に進むことも出来れば、此處でやめて實業に就き或は特種の學校に入學することも出来る。

OSVIA で、上級に進級せんとするには、毎年學年の終りに於て試験を受け、之れに及第せねばならぬ。五年修業の後卒業試験があり、之れを通過して初めて、文官中の土人行政部に仕官する都合になる。但し、各地の OSVIA を卒業せる者の數が、實際の需要に超過する場合には、在學中優秀なる成績を示し、且つ身分の點から言ても他に勝る者を優先して採用する等の手加減が加へられる。

バンドゥン(Bandoeng)市に在る OSVIA は、百名の生徒を收容し、經常費六萬盾(五千磅)を必要とす。して見ると、政府が、各生徒等に支出する金高は一年五十磅になる。而して生徒から徴収する月謝は、學校の收入としては數ふるに足らぬ。即ち、月謝は、父兄の年收が百五〇乃至二百五十磅の場合には二盾半(約四志二片)、父兄が相當の財産家なる場合には最高三十志に迄達する。即ち、父兄の經濟上の能力に従つて月謝の高を異にする。同一の父兄が、二人以上を OSVIA に送る場合には月謝を減免する。生徒は又別に醫療スポーツ其の他學校の提供するものに對して少額の仕拂を爲す。在學生は、其の衣服調度を自辨し、食費の一部として毎月十三盾を仕拂ふ。或特別の場合、生徒は是等一切の費用を免せられ、更に一月十五盾の小使・學用品費を受く。

食費は、事實與へらるゝ所の食料に比し非常に少額である。即ち、生徒に與へらるゝ食物は、簡單ながら質に於ても分量に於ても申分がない。OSVIAの一を參觀の際、余は晝食の爲めに準備されてゐる生徒の食卓を見た。食卓は、純白の布を以て覆はれ、各種の硝子製品を以て飾られ、竝べられてゐる料理も食慾を促進し、英國の私立中學校の寄宿舎に於て見る所と較べて遜色がない位であつた。食卓の中央には、瀬戸物製の飯鉢と、水菓子皿とが竝べてあつた。生徒は、飯と一緒に、諸種の魚肉、獸肉其の他の菜を食す。爪哇人は、和蘭人に似て、餘りパンを食さない。

余の參觀せるバンドゥンOSVIAに於て、生徒の占有する寢室は立派である。室には、鐵製ベッド體裁善き莫塵、蚊帳の外、二・三の家具が備付けられてゐる。デスクには適當に選擇されたる圖書、寫眞、良好なる趣味を以て擇まれたる部屋飾り等が竝べられてゐるのを見た。此の部屋の主人公が腰にサロンを穿ち、頭にバティックの頭布を戴いてゐる爪哇人青年であると信ずるのは寧ろ困難で、英國中學の五年生が占領してゐると考へた方が一層自然に見えた位である。浴場の装置も宜しく、別に小型の游泳池があつた。設備の整つた室内運動場、野外運動場が、此の賞讃に値する學校の體育の爲めに設けられてゐる。

余が訪問せる當時見たる生徒は、健康に且つ聰明に見えた。而して彼等の行狀は、概して良好であることを話された。聞けば、生徒等の中、最初の二・三年間位、過激な政治思想を辯護する新聞を紙耽讀する者あるが、上級に進むに連れ、精神上的のバランスを恢復し、將來に於ける土人官吏としての彼等の利害は、現制にして變化せざる限り、蘭人官吏と共に不可離のものであつて、決して妄動すべきでないと思念するに至るといふ。

以上述べたるが如き良好なる成績を見たる者の中には、OSVIAが、今度の政府の方針により五年制より二年制(註)に改まるといふことを耳にし、其の結果につき懸念を有する者ありといふ。新制に依れば、OSVIAの卒業生が任官する場合は、以前には其の生徒の父兄の地方に於ける立場等を考慮したのであるのは、全く競争試験の成績に依つて任否を定める。政府の此の如き決定は、和蘭本國の政治界に於ける民本主義的思想運動が成功したる爲めであるといふ。然し、是れは爪哇に於ては全く謂れなきことで、爪哇に於ては、土人青年文官試験に落第したるものは、商事又は農業會社に於て、いくらでも適當な職業を見付け得るのである。

(譯註)。OSVIAは、一九二七年五月三十一日、同八月十七日附教育宗教局長官の決定を以て、漸次三年程度(二年程度といふは著者の間違ひ)に変更し、更にAMS中學校のミユロー部に連絡することゝせられた。

土人行政官養成に關する前記の制度は、在亞弗利加英國植民地行政官に參考になるものと思ふ。OSVIAの組織に關する一層精細なる知識を、讀者は、土人教育法規輯覽を取寄せることに依つて得

ることが出来る。余が教育について爲した各種の質問に對して、教育當局者が、親切に且つ根氣良く説明したる所から想像すると、OSVIAに關する諸般の質問に對し、蘭領印度官憲は、欣んで知識を與へるであらうと信ずる。バタビア駐在英國領事も亦、該校に關する部分の規則を英譯することにつき盡力を惜まないことと信ずる。

爪哇青年が、OSVIAに於て五年間の生活は、彼等の品性陶冶の上に偉大なる影響を及ぼすこと、及び、在學中に於て彼等の學ぶ嚴從、規律、秩序が、將來に於ける彼等の行政官としての生活に好結果を及ぼすに至るべきは、全く疑ふの餘地がない。

オスヴィアに於て五箇年の課程を了り、土人文官資格試験に及第し、文官として任用せらるゝものは、先づ手始めに、補助としてレヘント、ウダナ、否時としては蘭人たる副レシデントの事務所に於て事務の見習ひをなす。彼等は初任一年約一百磅の俸給を受け、二・三年勤務の後副ウダナ(分郡の長)に任命され、百七十五磅の年俸を受くることも出来る。彼等の中或者は更に昇進し、ウダナ(郡長)となり、年俸三百磅乃至五百磅を受く。ウダナの中、事務上最も優秀の成績を示せるものは、レヘントの事務總長たるバタイに昇進し、多大の権力と報酬を受くることが出来る。

蘭領印度の統治につき、蘭人當局者が、可及的多くの責任をば、誠意を以て分擔させんとしつつあることは疑ひを容るゝの餘地がない。而して、土人官吏にして、識見手腕人物思想等の點に於て

他に卓絶せる者は、細心に注視せられ、機會ある毎に必ず陞進せしめられる。土人行政組織中に於て高級なる位置を占むるに足る資質を有する者は、拔擢せられて、蘭語を教語とする在バタビア行政學校(Bestuurschool)に送られ、二箇年に亘り専門の教育を受く。該校に於て學生の履修する學術技藝は、蘭領印度法、經濟學(特に蘭領印度に關係を有する)、農業、飼畜法、簡單なる建築、水利事業、道路修築法、測地術、衛生、應急手當法等である。在學中、土人學生等は、本官相當の給與を受く。此の如き制度が、土人行政上大なる効果を有すべきことは、敢て説明を必要としない。

第四章

村落行政村民生活狀態、土人を農業移民として外國及び蘭領印度の外領に移住せしむることの必要

往昔より、村落は、蘭領印度に於ける行政の最も根本的なる單位であつた。全人口の約九割が、全領土に亘つて散點する、がつしりした村に生活してゐる。而して、生活の資料をば、彼等を圍繞する村の土地から得てゐる。蘭印の土人は、所詮都會人ではない。爪哇の村落は、何れも、村長と村會に相當する長老會議とを有する各獨立の自治的實體で、他の村落との關係は共同して推戴せる土會土司に依つて結び付いてゐるに過ぎない。

蘭人は、區切りのはつきりした、一點に凝集した政治單位としての村落の價値を認識し、其の個

性をどこ迄も維持させることに努め、一面破壊的性質を有する外來的影響を極力防止し、其の古風の單純性を喪はざらしめんとした。即ち蘭人は、村民が自らの頭目を選擧し村會を組織する權利を有することに對し、疑義を挿み、横槍を入れるやうなことを敢てしなかつた。村民が無滞に租税を拂ひ、衛生規則を遵守し、村道を修理し、公益的義務を怠らない以上、各村の人民は、村内の問題をば、彼等の尊重する古來の法律と習慣とに依つて處理することを決して妨げなかつた。爪哇に於ける此の村落の制度は、英領印度に於けるパンチャヤトの組織に似てゐる。只印度の多くの地方に於けるパンチャヤトは、自然消滅に委せられてゐることを憾みとする。

爪哇各省、特に中部爪哇に於ては、村内の土地は共有制に依つて維持保存されてゐる。而して、村内の家長に對する土地の指定割當は、村長村内長老會と合議して之を決す。家作の存する土地の部分は、其の部分の土地を占有する家主の永久的所有物たることを得るも、村内の農業用地は、適當に耕作し、その他與へられたる條件に一致するやう之れを使用する場合に於てのみ、保有を許可せらる。適法の相續人なきか、又は土地を適當に使用せざる時は、其の土地は村(爪哇の村は法人である)に還元し、使用許可を申請せる者に對し、先願順に使用を許可す。爪哇の或地方、殊に完全なる灌漑施設を有する地方に於ては、農業用土地の分配換へは、毎年行はれる。此の方法は、土地の取扱につき、地方人民をして利害の一致共通を痛感せしめ、監督を嚴重にするの利益があるので

他の方法に比較して有利であると言はねばならぬ(譯者曰く、爪哇の農業を研究する者は、異口同音に、著者とは全然反對に、頻繁なる土地の分配換へは、農民をして土地に對する執着心を失はしめ、之れを粗略にし、土地の生産力を減殺する結果となる。爪哇の土地が、概して良好なるに拘はらず、倒へば英反當り米の生産額が非常に少きは、全く土地分配換への制に原因せりと主張す)。

爪哇の村長は、單に行政事務に執掌するに止まらず、裁判官ジャッジとなり、收税吏となり、爭議の仲裁人であり、往昔の族長政治時代に於て族長の有する多くの屬性と資格を一身に擔つてゐる。村内に於て彼の有する權力は、法律上彼に與へられてゐる諸般の權力に職由するのみならず、村長の椅子に附隨せる歴史的勢威に基いてゐるのである。彼は多く村民に信用され、尊敬されてゐる。而して、彼が管内の人民は、村の維持改良に關する彼の命令を蔑にする時は、村長のみならず、村民の全部が監督歐人官吏の忌諱に觸るゝことを知つてゐる。村民は、多くの場合選舉せる彼等の首長を擁護し、尊嚴を保たしめんとしてゐるから、進んで彼の位置を冒瀆するが如きことはない。

村長は、いつでも人が見得るやうな所で(Coram populo)職務を執ることになつてゐる。そこで、大抵の村では、公共廣場に小さな草葺のバビリオン(寄棟造り)が、稍や土盛りした地盤の上に建てられ、八方から内部の様子が窺はれるやうになつてゐる。バビリオンの設けない村では、樹の蔭で、訴訟事件の審判、村務の處理をなすことになつてゐる。村内に於ける重大問題を處理する際には、

長老會が之れに立會ふ。何れにしても、村會村長の事務は、事務取扱ひの模様を質見することを好む村民の面前に於て行ふことになつてゐる。

村長の裁判權には、勿論制限が設けてある。而して、重大なる犯罪は、地方にある上級の裁判所（郡裁判所、レヘントスハブ裁判所、ランドラード）に於てのみ取扱はれる。村長の裁判權内にある事件は、竊盜、輕微なる毆打創傷、土地爭議、家畜に加へたる損害、財産相續、夫婦喧嘩其の他輕微なる刑事民事である。民事訴訟に關しては、訴訟費を仕拂はねばならぬ。此の訴訟費を卓^{テーブル}錢^{マネー}といひ、普通訴訟の目的たる金額の一割である。村立裁判所では、職業的な辯護士代言人といふものを認めない。従つて村落の裁判では、テーブル・マネー以外何等の費用がかゝらない。而して、村落裁判には、訴訟法其の他面倒なるテクニカルの問題がないから、大抵の場合に於て、人民の腑に落ちる公平な裁判が行はれてゐる。

爪哇に於ては、アダト(Adat)なるものがあり、是れは習慣法と普通翻譯されてゐるが、該法律は、村落裁判所及び之れ以上の上級土人裁判所に於て取扱ふ、殆んど總ての事件をカバーしてゐる。勿論、別に回教法典があり、回教徒間では、アダトは回教法規のカバーせざる事件に對して適用せらるゝものである。アダトは、不文法で、土人の家族生活、財産の移轉、又は之れと同様の事件に關係を有す。近年蘭領印度のアダトの特質に關する精細なる調査行はれ、海牙の一學術協會に依つて出

版されたる二十四冊物の叢書が、之れについて出版されてゐる。興味ある研究としては、一九二七年中に於ける Asiatic Review 中の一論文がある。

村落に於ける租税の徴收は、相當に正直に行はれ、正當に受くべき手数料以上に金錢を著服せる村長の發見せらるゝ者稀なり。

爪哇旅行中、余は今將に村長選舉を行はんする一村落に廻合せた。而して、其の光景は、爪哇の村落竝に村民の生活の特色を甚だ能く説明すると思ふから、煩を厭はず、其の次第を述べて見やうと思ふ。

選舉は、例に依つて、大なる三方明け放ちたる寄棟造りの屋内に行はれてゐた。此の村屋は、裁判所であり、村役場であり、村民の一般集會場である。床を地上高く上げたる相當堅固な建築で、四方にはチーク材の丈夫な柱があり、瓦葺の屋根を支へてゐた。家は三方共思ふ存分に陽光と空氣を入れ、四方共立籠めたる家に於ては到底見られなかつたであらう所の、公平公明の感じを與へた。奥の方、板壁に面してブラットフォームの設けがあり、其の上到一个の卓子と、頑丈なる二・三脚の椅子があつた。極彩色を施せる和蘭女皇の畫像が上座なる後ろの壁に掛つてゐる。

バビリオンの中央、ブラットフォームの前面には、男子有權者が、床上階級順に胡坐かいてゐた。而して、ブラットフォームの兩側には、誇り顔なる投票權の所有者(土婦人)が、同様に胡坐かいて

ゐる。後庭には、燃えるが如き陽光を浴びて、青年男女並に選挙の様子に鋭い興味を持ってゐる村人の群が騒いでゐた。

選挙場に到着した余の一行は、土人郡長、彼が直屬の部下、此の界限の行政に携はつてゐる二名の土人行政官吏に依つて迎へ入れられた。彼等は、爪哇の國民的服装ともいふべき、更紗模様の綿製の頭布、サロン(腰布)、熱帯に住む和蘭人の一般に著くる、銀色金色製ボタンを付けてある、白のテュニック(脊廣服)の上衣で、腰裏の當りに飾りを付け引締めたやうな形になれるものを纏ふてゐる。

余等はプラットフォームに席を占め、先づ選挙民の様子に一瞥を與へた。而して、彼等の多數が、何れも相當の暮しを立てゝゐる者であるといふ様子を見て感銘する所あつた。爪哇土人固有の風ではあるが、何れも奇麗に且つさつぱりした服装をしてゐた。純金製の時計鎖、美麗な金屬製洋服のボタンなどから察し、彼等は幾分かの資産を持つてゐるものであることが分つた。然し、聞く所に依れば、此處には村内の金満家を集めたといふのではなく、此の恵まれたる島(爪哇)の大部分に於ける村人の様子は先づこんなものであるとのことである。

婦人有権者は、大方は中年又は老年者であつた。即ち彼等の多くは、寡婦である。寡婦であるが爲めに、家主であり、名義上土地の耕作人となり、投票權の所有者となつてゐるのである。婦人有

権者中、少數は年尙ほ未だ若く、容貌めでたく、髪には相當價值ある金製の飾りを著けてゐる。

本選挙には、五名の村長候補者が現はれ彼等は選挙民の方に向いてプラットフォーム上に起立させられた。各候補者は、手にピカ／＼光る、別々の色を有する旗を持つてゐた。斯くて準備が整ふと、ウダナ(土人郡長)が出て、一場の演説をなした。通譯者を通じて余の聞く所に依れば、ウダナは、村長の任務の容易ならざるものであること、斯かる任務を果す上に於て最も適當なる者を候補者中より選挙することの必要を説いたのである。ウダナは、演説上手であつた。彼の演説には抑揚があり、波瀾があつた。又決してユーモアにも缺けてゐなかつたことは、時々會衆中に起る静寂を破る笑聲に依ても推斷することが出来る。頗る賢明なる行方であると思ふが、候補者は、何人でも投票間に演説することを許されなかつた。彼等は、只黙然として佇立し、自らの名聲、又は過去に於て開拓した地盤、蒔いた種子に依つて、當選の有無を決せらるべく只管待つてゐた。

ウダナの演説が終ると、彼が直屬の部下が、列を作つて胡坐してゐる選挙民の列間をば、長さ一吋位の竹片を、一人に一箇づ配りながら歩いた。之れは投票紙に相當するものである。プラットフォームの卓子には、別に各村長候補者の持つる旗と同一色に塗れるトタン板製のばけつがあり、選挙民は、自ら選挙せんとする候補者の持つる旗色に相當するばけつ内に竹片を投入せねばならぬのである。

總ての準備行爲が整ひ、愈々投票といふ段になると、例のばけつはプラットフォーム上の卓子から、眼隠しに依つて遮蔽された部屋の一角にある一小卓子上に移される。是れは、どの選舉人がどのばけつに投票したかを、人に知らしめない爲めである。

結論まで見届けることが、余等に取り、必ずや興味あることならんと考へたるものか、臨監の一蘭人官吏は、余等を眼隠しの後ろに案内し、投票の模様を見物するやうにとすゝめて呉れた。最初に投票した者は婦人有権者で、一列になつて這人つて來た。彼等の素振りから考へて、彼等は、彼等の目指す人の何人なるかを定めてゐたやうである。即ち、婦人連の殆んど總てが、其の竹片をば綠色のばけつ中に投入した。其のばけつの色に相當する色の旗を所持したのが、丈のすらりとした好男子であつたといふことは、敢て異むに足らない。男子の有権者は、遙かに多く頭のある投票の仕方をした。

投票場を一瞥した人は、選舉が始めから終りまで、秩序正しく、靜肅裡に行はれたことを識認せずにはゐられまい。其處には何等の喧騒も、何等悪感情の爆發も、何等無作法の行爲も認められなかつた。而して、總てが大人しく、落付いて行はれた。是等は、此の偉大なる植民地に於ける政治的特色を象徴してゐるものと言つて差支ない。村民は、村役人指導の下に村長の選舉を自分自らの手に依つて行つてゐる。臨監の副理事官(和蘭人)は、選舉其の物には何等容喙しない。彼が臨監し

てゐるのは、選舉が適正に行はれてゐるか、請求に依つて注意を與ふるやうなことはないか、彼の裁決を必要とするやうな問題が起りはしないか等を、消極的な態度で見んが爲めに外ならない。

最近に於ける政治組織改革案に依れば、爪哇の村民は、レヘントスハブ評議會並に省議會内に於ける非官吏議員選舉人を選擧することを得るやうになつてゐる(註)。而して新制に依る國民參議院の議員は、主として是等地方會議の議員中より選舉又は選任せらるゝのであるから、少くとも理論に於ては、村民の聲は、或程度まで、中央議會たる國民參議院に於て聞かれてゐるものと言ひ得るのである。それが實際上、どれ位の程度まで實現するかは、今後に於ける事件の推移に依つて知るの外はない。

譯註。著者は、村民の選舉せる選舉人(Kisnannan)が、レヘントスハブのみならず、省議會の議員をも選舉する如くに記してゐるが、之れは誤りで、一九二七年蘭印官報第五二八號で發表された Provincie-kiesordonnantie に依れば、省議會の議員は、レヘントスハブ評議會議員並に市會議員に依つて選舉される。

爪哇に旅行する外人は、彼の眼に映る景色中に散點する村々が、賞讃に値する程清潔に保たれてゐるのを見るであらう。一體、熱帯に於ける土人の住宅を畫題にするとき、土人住宅が畫題になる程美しいといふときには、其處には何等かきたないもの、よごれたるもの、原始的なものが必ずあ

る。爪哇は熱帯國であるが、爪哇の場合に於ては決してさうでない。かの美しき爪哇の村々の、平和にして掃除の行届いてゐることは、熱帯衛生に關係せる英國官吏に見せたならば、欣び且つ羨ましがることであらう。

事實、亞弗利加土人の不潔なること、掃除に無頓著なること、東洋人のやりばなしの點のみ知つてゐて、爪哇を見たことない人に、爪哇土人が如何に清潔にして秩序正しいかといふことを説明しても結局は解らないであらう。爪哇人(狹義の)、馬來人、スンダ人、其の他の土人は、元來清潔を愛好する人間ではなかつた。是等諸民族中に、清潔の念と釣合の觀念—是等は和蘭人の天性である所の—を注入することに於て、和蘭人は甚だ成功してゐる。恰も地方巡視の爲に用意してゐましたと言はぬばかりに掃除してゐない村は、全爪哇中一も見當らない。土人の家の周圍には、一枚の枯葉も、一片の芥も等閑に附せられてゐない。木材を以てフレームとし、竹をはぎ編んだ疊を壁とし、光澤ある赤瓦を以て屋根を葺ける彼等の住宅は、殆んどいつも衛生上最上等の狀況に保たれてゐる。荒廢し、よろめいてゐる家は、只稀にのみ見られる。

余が爪哇旅行中、又特に印象せられたのは、本道の縁邊にある垣根が雅致に富み、而かも秩序井然としてゐることである。垣根には些の凹凸なく、完全に整理されてゐる。垣根には、石煉瓦を用ひてゐるものもあれば、木造の寒柵もある。然し其の多くは、竹を色々に組合せて作つてある。爪

哇人の間に於ける、此の如き善良なる秩序と清潔の觀念は、先づ第一に、ふしだら不潔は、主婦の耻辱である、といふ彼等の意氣地から自然に發達したものである。次に、村長が、村内の衛生掃除といふことに拂ふ不斷の注意も之れが原因をなしてゐる。村の管理を等閑に附し、不潔不取締に陥らしむるが如きことあらば、村長は首になることなきを保し難い。監督官たる和蘭人地方官は、土人村長の此の如き問題に關する懈怠不都合を容赦しない。昔から、國王よりも國王に忠實といふ諺があるが、爪哇村長の中には、必要の程度以上に取締りを嚴にする者があるので、一般村民の利益の爲めに、彼等の熱心を抑える必要すらある位である。

和蘭人は、彼等が土人に向つて加へる壓力をば、藝術品と言はれる位までに美化してゐる。例へば、峻烈なる條項を有する衛生上の規則が設けられても、之れを強行することは寧ろ稀有で、強行しないで其の目的を達するといふのが平常の遣口である。老巧なる和蘭人官吏が、土人官憲に對する遣口手心を示すに最も適當なる土語がある。それは、プリンター・アールス(Printah aloss)といふ馬來語で、英語に翻譯すれば Gentle Order (優しい命令)といふ意味になる。蘭人官吏の對土人官吏關係は、總じて鐵の拳と、それを包む絹の手袋とに依つて象徴すること出来ると思ふ。彼等の與ふる命令は、大方は只一の「希望」に過ぎないといふやうな叮嚀な形で言ひ現はされる。而して、爪哇土人官吏は、言外の意を汲んで、命令に背けば不利益になる、指圖希望の通り事を運んだ方が、彼

等の利益でもあると普通考へるのである。

最近まで、公役(Herendienst)と言つて、土民に無報酬で勞役に課した弊風は廢止され、今日では、政府の土木事業は、總て有給勞働者に依つて遂行されてゐる。其の代りに、以前公役に従事した者からは、一年二盾の割で人頭税(Hoofdgeld)が徴收されてゐる。無給公役の習慣は、蘭領東印度の外領には残つてゐる。然し、外領の土人が無報酬で政府に提供する公役は、一年三十日以上に出ることを得ない。而かも收護期には、土人を引張出さないことになつてゐるし、勞役に服する區域は、土人の住宅より約八哩以内に限られてゐる。

村内に於ける共同の勞務、例へば道路の改修、共用地の手入等村内共通の事に關しては、村長は、仕事の分量を明示せず、成年男子を徴集し、其の勞務に服せしむることを得。但し、村長が時期の當否を辨へず、且つ不當に多くの勞務を要求するが如きことあれば村長は村長の不當の要求をば、歐人官吏に訴へ出るを常とす。

約十年前までは、土人が領内に於て移動するときには、「パス」を所持することを必要とした。十年前からは、其の必要がないとせられてゐる。然し、最近共產主義的運動の跋扈跳梁と共に、爪哇に於ける土人の移動に、相當制限を加ふることの必要を生じた。今日は、十年前とは異なつた形式の「パス」制が行はれてゐるが、それは、亞弗利加にある或英國の植民地に於けるものゝ如くに嚴格

なものでなく、一種の旅行券制度の如きものである。即ち總督は或省又は或土侯領につき、印度評議院の協賛を得、官報に公布することに依りて、許可證又は旅行券なくして、土人が是等の地を通過する能はざるものと宣言することを得。

アルコール性飲料は、少なからず輸入され、又別に多量に領内に於て製造せられてゐるが、爪哇に於て多く消費されてゐる實狀を見ない。余は、爪哇に旅行中始めから終りまで一全行程は一千五百哩餘に上つたが、酒類又は阿片の影響を受けてゐるらしい一名の土人にも邂逅しなかつた。一般土人間に於ける節酒禁煙の風は、驚嘆に値ひするものがある。

基督教宣教師の活動は、只外領に於て顯著に認めらるゝのみである。而して、爪哇及び外領を通じて只僅かの成功を收め得てゐるに過ぎない。即ち、五千萬以上の蘭領印度の住民中、僅々七十五萬弱の土人が基督教的信仰を告白し、而かも其の大部分は外領に住んでゐるのである。爪哇人の多くは、自ら回教徒なりと號し、イスラム教の形式の多くを恪守してゐるが、それは只外面的のことで、實は宗教學上萬有精神論的(Animistic)信仰に伴ふ、價値なき無数の迷信を有してゐる。只然し、聖地メツカに巡禮したる富裕なる土人は、同胞土人間に於て特別の尊崇を受けてゐる。其の爲めに、是等の人々は、千里を遠しとせず、旅行をするのである。汎イスラム運動は、時々爪哇に於ても其の勢ひを逞ふし、先年一時爪哇官憲を憂慮せしめたることもある(註)。

(譯註。サレカット・イスラム *Sarekat Islam* の運動を指して言へるものならん)。

過去五十年間に於ける蘭人政治が、上述の如く賞讃すべきものであるに拘はらず、領内に於ける人口の配分を均一ならしむることに、今一層の努力を試みなかつたのは一奇といふべきである。爪哇に於ける人間のどよめきと、近傍の諸大島に於て、棲む人もなく、價值ある廣大なる土地が自然の爲すが儘に放任せられてゐる所とを比較すると、コントラストの烈しいのに一驚を喫する。政府の本據地たる爪哇に於ける土人の勤勉と、歐人資本家の企業心が相俟ち、驚くべき經濟上の結果を生んだのを見ると、同じく勤勉なる、而して有り餘つてゐる爪哇人の勞力を爪哇の隣島たるボルネオ、スマトラ、セレベスの諸島に適當に入れたならば、是等の島々が大に開發せらるゝであらうといふことに就いて、或者へが得らるゝと思ふ。勿論、蘭領政府も、爪哇に於ける過剰の農民を導いて群島の他の方面に移住させやうとする努力を惜んではゐない。然し、其の努力たるや、是等の方面の實際上の必要に應ずるものとしては、餘りに微弱で、物足らぬやうに思はれる。

政府は最近爪哇農移民部落をスマトラ島の諸所に設置してゐるが、同時に、南米にある蘭領たるスリナーメ (Suriname) にも、爪哇から契約移民を送ることに努力してゐる。然し、元來スリナーメに於ける農業的企業は大きいものでなく、従つて同地に於ける栽培業者の必要とする苦力は、數に於て限りがある。然るにも拘はらず、一艘の汽船をチャーターして、送るだけの頭數を揃へること

は容易でなく、爲めに一旦其の爲めに募集した苦力を永くバタビアに止めて置かねばならぬことが能くある。

一方スリナーメに接壤せる、吾が英領ギアナは、勞力不足の爲め、氣息奄々たる現狀である。而して、一時輸入した印度勞働者は、最早輸入出來ない。其の爲めに、勞働不足問題が極めて重大性を帯びつゝある。然るに、爪哇人は往昔よりして、英領ギアナの二大産業たる米、砂糖の耕作を熟知してゐる。加之蘭人政府は、管内土人が外國に移住することを嫌はない。其の事實は、蘭領政府は、或條件と保障の下に、多數の爪哇苦力を、佛領印度支那、ニウ・カレドニア、海峽植民地、馬來聯邦州、英領北ボルネオに供給してゐることに依つて證明される。して見ると、英領ギアナも今日最も必要としてゐる所の勞力の補給を、爪哇から受けることが、強ちに不可能ではなからうと考へられるのである。

英領ギアナに爪哇移民を送ることは、隣國スリナーメに移民を送らんとする和蘭に取つても利益である。何となれば、英領植民地 (ギアナ) に爪哇苦力を運送する汽船は、何程かの頭數の苦力をスリナーメにも下すことが出来るからである。斯くするときは、苦力運搬に要する費用を雙方で分擔することになり、而かも和蘭は、一回では少數であるかも知れないが、今日より遙かに頻繁に勞働者を輸入することが出来る。一方契約満了した苦力は、雙方の協定に依り、今日よりは一層容易に本

國に送り還すことが出来るやうになる。

民族の移動移住に依つて、好結果を生せることは、世界各方面の事實に依つて明かなること、人口の移住を殊更奨励するが如き專斷的行爲は、到底許すべからずと言つた机上の空論は、寧ろ後悔する位なものである。英領印度の土人政治家は或理由—其の理由では、移住に依つて生ずる印度人全體の利益を打消すには足りないが—の下に、以前、貧乏に襲はれ、人口の密集せる印度の地方から、何萬となく、西印度諸島、ナタル、モーリシアス、フィジーに出掛けた移民をびたり止めることに成功した。然し、是等印度の政治家は、本國を出る時には、困窮の餘り、半ば死に掛けてゐた同胞の多數が、移住先に於て、貧窮より裕福へ、無智より聰明へ、虐遇より政治的平等へと變化したといふ事實を如何にして拒み得やう。而して、移住を奨励した政府當局者を攻撃したことを後悔せず居り得やう。年期契約移民の時代に、印度其他英領の植民地に移住した憐むべき苦力は夫々の出先に於て、精神上に於ても、事業の上にも、祖國に於ては到底夢想だもすること出来ない向上進歩を遂げた。其の一例としてモーリシアス島を見るに、其處では、印度人—モーリシアスで生れた者、新に輸入せられた者—が、最良の蔗作農園の四十五パーセントを所有し、歐洲人に對しては土地を賃貸し、選挙場裡に於ける彼等の勢力は、如何なる政治問題の場合に於ても今や將に壓倒的ならんとしてゐる有様である。

支那人はどうか。印度支那、馬來半島に移住した支那人は、貧苦の中に育つた。彼等でも、進歩的政府の下に統治せられてゐる、のびくした豊饒なる國に連れて來て貰へば、如何に良く力を伸し、生治を改善し得るものであるかを證明してゐる。屈強にして精力に富める日本人も亦、入國を許されたる少數の國に於ては、其の節制と勤勉とを以て、それ等國々の經濟的開發に大に貢献することを得るの事實を立證してゐる。

惟ふに、世界に於ける人口の不平均不満足なる分布は、主として、世界の大部分を領有する列強の利己心、自負心、人種的其の他の偏見に起因するものである。是等世界の部分には、人間の足跡を印したることなき、廣大なる沃土が不生産的に放任せられてゐる。然るにも拘はらず、爲政者の側に於ける利己的、猜疑的態度の結果、幾千億の勤勉有爲なる人間が、老朽にして生産力に乏しき國に於て、飢餓に瀕せる状態に於て、閉込められてゐるのである。

そこで、今茲に神聖不可侵の一權力者があり、其の權力者が、地球上に棲んでゐる一般人民の利益をのみ眼中に置き、或特別なる國民の得てゐる特殊利益といふものを全然無視して事を決するとしたならば、彼は爲すべき多くの仕事の中、先づ第一著手に、世界の人民を地球上の豊沃なる土地に、隈なく、等分に行亘る様分配し直すであらう。彼は、世界の或國が、中に棲息してゐる原住民族を以てしては當分開發し得る見込みもないのに籬を廻して、植民地にいつまでも他國民を入れない

やうにすることを絶対に許容しないであらう。彼の治下に於ては、宗教的信仰、皮膚の色、人間の種族の如何に拘はらず、移住は自由に行はれ、地球上に於て、人の未だ占據せざる豊沃なる地域は、生れ故郷に於て生業に有付くことを得ざる多くの人民に依つて占領せらるゝことになるであらう。而して、熱心に働くことを希望する労働者、大に利益を擧げやうとする資本家とが、協心協力して是等地域の開發に當り、其の結果は、大に世界の富を増加し、文化を向上せしむることにならう。勿論、無人の境地でも、白人が好んで住み、手工業を營み子供を生産し得る所は、久しからざる中に、英國其他歐洲各地の過剰人口を以て填め得るかも知れない。然し、黒色、褐色、黄色人種のみが労働に堪へ子孫の繁殖を爲し得る大面積の熱帯地を見る時には違つた頭で考へねばならぬ。

現に稀薄なる人口を有する熱帯地に於ける原住民族の將來の利益は、素より充分に擁護せねばならぬ。而して、其の爲めには、合理的に考へ得る、あらゆる保障が必要である。然し、這般の問題を考へる時には、程度釣合を考へる必要がある、熱帯亞弗利加、南亞弗利加、濠洲、蘭領印度には、人煙稀なる面積の土地がある。是等は、原住民族が、現在の率を以て増加しても、到底二百年や三百年に植民開發し得ない。従つて、他民族の移住を此處に許しても、原住者の利益が害せらるべくもない。否是等大面積の土地に住んでゐる原住者の道徳上産業上の進歩は、稍や開化した民族が側に來て住めば、接觸作用に依つて却て促進せらるゝかも知れない。宏大無邊なる吾が亞弗利加の保護

領に住んでゐる土人は、大方は廣大なる地積内に僅かばかり、散點してゐるに過ぎないから、適當に管理することも出來なければ、地方を開發することも出來ない。男女老幼合せて二・三千人に過ぎない一小部族が、實に大なる地方に跨つて生活してゐる。而して、事實彼等に依つて耕作せられてゐる面積は、其の數十萬、數百萬分の一に過ぎない。一政治區劃で、數十萬平方哩もあらうと思はるゝものが、僅かに三・四百萬の住民を有するに過ぎず。是等は、收約的に開發すれば、右の數十倍の人民を支持し得るものである。今現に粗放なる生活を營める土民をば、地味氣候の點より見て、特別なる長所を持つ小面積の地に移したならば、彼等は、もつと大に進歩するであらう。政治も大に簡單有效になり、運輸交通の便も開け、土人文化の向上は、依つて以て大に促進せらるゝであらう。

土人をして集團的生活を營ましむるには、打勝ち難き實際上の困難がある。さる主張は、要するに時務を辨えざる者の空論に過ぎないといふ者あるかも知れない。然し、余は此の如き人々と所見を異にする。即ち、政府は、租税減免、地權の授與、強制勞役免除、其他土人が特に重きを置ける諸般の事柄につき優先的特典を與ふるならば、集團的生活に彼等を誘ふことが可能である。現に、一九〇六―八年中、ウガンダに於ける睡眠病退治の際、十萬に垂んとする地主と百姓とが、大湖水の縁邊―其縁邊には睡眠病菌の媒蟲たる「*mosquito*」が多數に棲息してゐる―に於けるバナナ園其他貴重

なる栽園を捨て、他の地方に移住せしめられた。此の一事に依つて見るも、少くとも、多数の亞弗利加人を、各地方から他の地方に移植することは、論者のいふが如く、打勝ち難い困難な問題でないことが分る。

適正なる賠償、公平なる取扱、目的が公益的であることに關する充分なる理解を土人に與ふることに依つて、吾人は、現に亞弗利加に於て最も不經濟的に散住する多くの土民を集團的生活に導き、結局彼等をして大なる受益者とならしめ得るものと信ず。斯くの如くにして明けられたる大面積の土地、土人人口の増殖に依つて必要とせられない土地は、世界の他の部分に於て、食ふに食物なく、飢餓の爲め半死の状態にある數百千萬の勞働を厭はない、黃、褐、黑色人種の爲めに開放せらるゝことが出来る。

有色人農業者の移住は、農業者自身に取て大なる利益であるばかりでなく、大多數の場合に於て、彼等を受入れた國の利益でもあるのである。而して、一面に於て、彼等外來者が如何に迅速に移住地に同化するかを示すのである。無論、移住後最初の數年、數十年間、外來者は外來者として別箇の存在を保ち、外來者原住民の間に、融合同化は行はれない。然し、年を閲するにつれ、雜婚が行はれ、原住民等の習慣が外來者に採用され、地續きの土地を所有することから共通の利益が生れ、移住者の子孫が、遂に土地の兒となる。斯くて、三・四代を経過すると、外來者の子孫は、地元の

人種と何等の相異なきまでに土地に同化するに至る。西印度諸島今日の繁榮の如き、亞弗利加土人、印度人移住の賜物といふも決して過言でない。亞弗利加土人の如き、強制的に連れて來られた者であるが、結果に於ては、大に彼等自身の利益になつてゐる。

以上は主として農業移民について言つたものであるが、小商人階級の移民は決して歓迎すべきものではない。小賣商人は、社會生活の上にて必要なる役目を勤めてゐるものには違ひないが、彼等は大體に於て植林地産業の根本たる農業農民の寄生蟲である。熱帯植林地政府は、是等小商人を歓迎し援助する必要はない。小商人の原始的社會に對する侵襲は、利益も齎せば、大害をも伴ふ。殊に、印度人支那人小賣商は、あらゆる機會を捉へて、素朴なる原住民の利益を搾取することを以て習慣とする。

第五章

蘭領印度の産業、土地法、勞銀、製糖業、各種の農事試験場、官營質舗其他

蘭領印度の大にして、且つ不斷に増加しつゝある富は、地味が非常に良好なること、人間生活に必要缺くべからざる食料、溫帯居住者の必要とする原料の生産に好都合なる諸種の條件を備へ居ることに基因することは疑ひを容れざる所である。其の此處に生産せらるゝものには、砂糖あり、煙

草あり、護謨あり、米あり、茶あり、椰子油あり、纖維あり、熱帯地に特有なる温熱と豊富なる雨量を必要とする産物は、一として産出せられざるはなしと言ふも可なり。それで、輸出品の總價額は、輸入品に比し、一年四千萬磅の超過を示してゐるといふ有様である。東印度が、輸出貿易の結果として、本國の資金勘定に多大の貢献を爲し居ることは、之に依て察知することが出来る。蘭領東印度の輸出貿易の總高は、過去三十年間に於て、一千二百萬磅から一億一千三百萬磅にまで増加したと言はれてゐる。

此の如き産業上の進歩と、東印度の繁榮は其の根本が、土地の膏沃なること、土人農民が一般に勤勉なることに存するから、和蘭人は、最大の關心事として、是等の點を維持保存することに力めてゐるのである。

爪哇に於ける土地保有の形式に就て一言せん。爪哇に於ける土地保有の形式は、蘭領印度の多くの他の部分に於けると同じく極めて簡單で、馬來人種には共通の形式といふも差支へなく、管内の土地は、表面上總てサルタン又はラヂヤの所有になつてゐる。ラヂヤは、彼の支配下にある總ての土地を所有し、任意に之を處分し、貸與へたる土地に産せる物産の一部分(普通一割)を徵收する權利を持つてゐた。又別に借地人たる農民より、無償にて勞力を徵發する權利を持つてゐた。一方農民

が、物税を納め、土地の耕耘を怠らず、領主に對し其の必要とする勞務を提供する限り、彼の土地保有權は侵さるゝことはなかつた。新に土地保有權を獲得せんとする土人は、嘗て何人かに占有せられたるも、現に之を保有するものなき土地、又は處女地の保有權を彼に與ふることに依て開墾耕作を許すやう領主に請願し其の許可を得ればよいといふに止まつた。

和蘭は爪哇の統治權を自らの手に收むるや、右に述べた土地制度を其の儘採用した。只土人統治時代に於ける物税穀税の代りに地租を徵收し、勞役徵發は、爪哇に於ては之を廢止し、外領の或部分に於て、道路改修工事に或日數間に亘つて之を行ふに過ぎない。即ち、爪哇の土地は、名義上總て國有—往昔 Freehold—として與へたる土地が、一種の Eigendom—として例外的に此處彼處に存する—で、農民は土地の所有權を持たないが、彼等並に彼等の家族が、良好なる状態に於て土地を維持し、耕作してゐる限り、保有權を沒收されることはない。

爪哇内部の土地は、一小部分を除き、他は悉く農民に依て保有せらる。各農民の保有する面積は、一英反の三分の一(一反三畝十八歩)に過ぎない。最大の保有面積と雖、百英反(四百八反)を越ゆることは稀である。而して、爪哇農民が、個人的に保有する土地は、東西部爪哇にあるのみで、中部爪哇に於ける土地の大部分は村民の共有に屬するものである。之れ爪哇に於て有名なる共有地 (Common land) と稱するものである。

然し、個人的に保有せらるゝものでも、共有のものでも、苟も灌漑を施してある水田であれば、管理上共同の性質を帯ぶることを免れない。灌漑せる水田は、山の斜面などに等高線を利用して設けたる階段耕地で、水は斜面に設けられたる溝渠を通じて上から下へと流れて行くのである。故に今若し斜面の或部分にある耕地が適當に手入れされてゐない場合には、水は豫定されてゐる途順を軽く流れず、爲めに其の以下の耕地は不慮の損害を蒙む。茲を以て、政府は爪哇のあらゆる部分につき、周到なる土地測量をなし、副理事官のオフィスに行くと、個人占有の土地村有地を地區毎に示した精密な地圖が備付けてある。

土人は、土人相互間に地権の賣買をなすことを得るも、地権を非土人(和蘭人をも含む)に賣買譲渡することが出来ない。土地の賃貸借は自由であるが、それでも地方長官の許可が必要であり、非土人(和蘭人を含む)は、土人保有地の三分の一以上は賃借すること出来ぬなどいふ煩瑣なる法令を定め、經濟觀念乏しき土人を保護してゐる。

政府は、斯く土人農民の保護、彼等が土地保有權の安全を保障する方針を眞向に振舞してゐるが、外資輸入に依て土地の開發を爲すことの利益を認めてゐる。而して、爪哇では、今述べたやうな理由で、農業上の目的の爲め大面積の土地を獲得賃借することが出来ない。一體、外國人の支配下にゐる大多數の熱帯植民地に於て、會社は、茶、砂糖、煙草、其他の重要物産の栽培をば、大面積の永

租借(Freehold)内に於て行つてゐる。蘭領政府は、英法に所謂永租借なる權利を人民に附與することを極力避けてゐる。其の代りに、一種の永借權(Erfpacht)——國有地を年々若干の借地料を拂ひ、七十五箇年契約にて租借するもので、契約は任意に更新せらるゝから、實質的にはFreeholdと異なる所がない——を企業家に與へ、爪哇に於ては餘り澤山ではないが、スマトラ、ボルネオ等外領の諸島では大面積の土地を拂下げてゐる。此の如き法律的基础の上に、英國其他の資本が蘭領印度に投下され、砂糖、護謨、煙草其他重要物産のプランテーションを經營せるは、周知の事實にして細説を必要としない。租借料、借地料、事業經營法其他に關し詳知せんとする者は、ポイテンツォルフ農工商務部發行の Handbook of the Netherlands East Indies を一讀せられんことを請ふ。

前述の事情で、爪哇に於て、大面積の土地を購入、租借(政府より)することは不可能といふの外ないが、同地にある砂糖工場、歐式煙草栽培家は、土著農民との一時的契約に依りて、企業上必要な面積を使用することが出来る。

是等砂糖、煙草工場は、地方農民が自ら消費する食料品を生産するに必要な土地以上に、餘分の土地を所有する場所に位置を占むるを通則とす。工場に於て土人より農業用地區を賃借せんとする場合は、土地賃借令(Grondhuur Ordonnantie)の規定に依るを要し、土人との契約は、歐人地方官の認可を得るを必要とす。土地賃借令に依ると、資本主義的栽培業の爲め賃借し得る土人の農業用

地(重に村有地)は、其の總面積の三分の一を超ゆることが出来ない。政府が此の如き法令を設けたのは、製糖工場其他歐人經營者が、仕拂ふことを承諾する地代は高率なるが爲め、土人の之に迷はされ土地を手放さんとする者多く、爲めに土地兼併の弊を生ずるのみならず、土人食料品の缺乏を來す恐れあるからである。而して、砂糖業者が、甘蔗耕作の爲め賃借し得る期間は、一回の蔗作期(十八箇月内外)のみに限られてゐる。従て、英領蔗糖産地の多くに於て行はれてゐるが如く、株出法(Ratoning)は、爪哇に於ては行はれない。従て、爪哇製糖工場は、一回の蔗作より、出來得る限りの利益を擧げねばならぬ。之れ、爪哇の糖業者が、農業方面に力を盡す所以である。甘蔗が收穫するゝとすぐ、土地は再び農民の手に戻り、米其他土人作物栽培の爲めに使用される。

聞く所に依れば、此の迅速なる輪作の方法は、各作物に取て甚だ有利だといふ。即ち、甘蔗は灌溉の設備を充分に持てゐる水田に甚だ能く生長し、土人の作る米、玉蜀黍、落花生等は、蔗作の際に於て與へられた手入、肥料等に依て非常に能く出來るやうになる。地味良好なる水田に對し、製糖工場が十八箇月間(一作業)に仕拂ふ地代は、一英反に付六十乃至八十盾(三磅乃至四磅?)である。此の金額は、農民が同一の水田を稲作に用ひた場合に於て得る利益と大略一致するから、彼等は製糖工場の附近に生活することを幸運の一つと心得て差支へない。蔗作期間に於て、彼等が蔗園に於て日傭人として勞働し、相當な収入に有付くことを見ると、特に其の然るを覺ゆるのである。土地

利用に關する上記の方法は、今日まで極めて圓滑に活用されて居り、歐人資本家を土地の持主たる土人と結付けるに、大に與つて力あつた。即ち、資本家は資金、工場に必要な組織を供給し、土人は資本家の科學的指導下に、契約其他につき何等の懸念なく土地を耕耘することが出来る。

男子勞働者の受くる賃銀は、一日六片乃至十片である。工場に於て働く熟練職工は、勿論之れ以上の賃銀を得る。植付、手入れ、耕作は、總て製糖工場使用人の手に依てなされる。爪哇蔗産地の土地は實に膏沃、耕作法は極めて進歩して居り、爲めに、一英反當りの蔗産額は、平均四十五噸、之れに依て生ずる砂糖は五噸内外である。斯の如き成績は、少くとも英國の産糖植民地に於ては、滅多に見ない所である。然るにも拘はらず、肥料は寧ろ控へ目に用ひられてゐる。使用されてゐる肥料は、窒素、硫酸安母尼亞が重で、加里肥料、石灰等は、余の見たる所では、餘り使用されてゐなかつた。爪哇に於ける蔗作面積四十萬英反の中、灌溉の施設なきものは、二萬五千英反以下に過ぎない。爪哇は、周知の如く、雨量に恵まれてゐるが、栽培業者は、上方の山野から降りて來る多量の水、カナルを通つて來る―に使つてゐる。灌溉水利に關する施設は、實に行届いたもので、山から出て來る貴重なる水で、農業上利用されず、出た儘で海に注がれるものは一滴もないと言て可なる程である。

爪哇の製糖業が、最近如何に急速なる進歩を遂げたかは、次記の事實に依ても窺知される。即ち、

過去三十年間に於て、爪哇の蔗作面積は十萬八千バウ（一バウは吾が七・一六反）より二十五萬バウに増加し、耕作製糖に關する科學的指導の結果、砂糖の産額三十年前は、一バウ當り八十擔であつたものが、一九二三年には百四十八擔に増加した。

余は、余の旅行中、蘭領印度の或農事専門家が、爪哇に於ける砂糖の一バウ當りの産額と、他の産糖國に於けるものとを、比較的に擧げたる數字を左に列記して見たいと思ふ（單位 擔）。

比律賓（一九二三年）	五二
英領印度（一九二四年）	三三
モリシヤス（一九二三年）	五五
玖 瑪（一九二三年）	五七
布 哇（一九二三年）	一二三
濠 洲（一九二三年）	五八
亞爾然丁（一九二三年）	二五
臺 灣（一九二三年）	四三（一九二八年は七三擔）
爪 哇（一九二三年）	一四八

右に擧げたる數字は、爪哇で行はれてゐる集約的耕作法が如何に有效なる働きをなしてゐるか、

株出しに依らず、植付けた甘蔗の中から出來得る限り多くの砂糖を收穫しようとする農法が、爪哇に於て如何に有效なるか（爪哇で有效であるからと言って他處でもさうであるといふことは言はれない）を示すものである。而して、又同時に、バスマン糖業試験場の如き試験機關が、如何に有益であるかを、最も能く説明するものである。バスマン（Paseroean）試験場は、科學的耕作法のみならず、製糖機械及び製糖に必要な化學的研究に就て、製糖業者間に最新の知識を供給することに努力してゐる。

糖業試験場は、精神的には、政府から幾多の援助を受けてゐるが、爪哇糖業者が、集まつて一體（Algemeen Syndicaat voor Suikerfabrikanten in Ned.-Indie）となり、自力で作り自力で維持してゐる機關である。糖業者は、自らに對し、蔗作面積一英反に對し、約五志の會費を掛け、以て糖業試験に必要な建築物の造營修理を行ひ、多數の幹部技術員其他を維持してゐる。試験場は、内容外觀共に能く整つてゐる。

バスマンに於ける糖業試験場が、如何に尨大にして且つ整備せるものであるかといふことは、次の數字でも略ぼ想像がつく。即ち、歐羅巴人が四十五名、支那人四名、土人が百三十名、都合百七十九名、場長のドクトル・ファン・ハーレフェルド（Dr. van Harreveld）、及び其のアシスタント・ドクトル・コイパー（Dr. J. Kuiper）は何れも糖業界に於ては世界的名聲を有する技術者である。

其他是等多數の同僚等も、何れも夫々専門の研究に於て深い造詣を持てゐる。

バスルアン試験場(副支部をチェリボンに置き病理學的研究を爲す)は、重なる製糖會社の代表者を以て組織する委員團(Commissie van Beheer)に依て管理されてゐる。試験場の事業は、農業、機械、化學の三部に分れてゐる。試験場の目的とする所は、土壤の準備から、最後に造つた砂糖が積出さる迄に起る重要な問題をば、或は部分的に、或は統一的に研究調査して、糖業の發達に必要な各種の方法を案出するにある。試験場は、中央試験場に於て右の如き問題を研究する外、團體顧問(Groepadviseur)と稱する十五名の野外研究員を、各蔗作中心地に派遣して、會員工場に於て起る諸般の問題につき、實際的のアドバイスを與へしむると共に、各會員工場が蔗園及工場に於て爲す各般の試験に就て中央に報告せしめ、一般的施設の参考にしてゐる。

糖業試験場の組織、研究問題の配置は、此の種試験に吾人の期待するエフィシエンシーの標本、研究法の最高標準を示すものと言て差支へない。余が特に深い印象を受けたのは、土人技術員クラス階級の爲せる仕事の仕振りである。百三十名の土人所員中、十八・九歳以上と思はるゝ土人は殆んど稀であつた。中には、十五歳以下の者も、相當あつたであらう。百三十名の土人と言っても、大多數は爪哇種の青年(俠義の爪哇人)で、極めて少數の支那人と馬來人とが其の中に混入してゐたに過ぎない。土人青年の多くは、或種の統計事務に従事してゐたらしく、彼等の各々は、側に電力で

運轉する最新式の計算器を持てゐた。此の事に依て見るも、試験場の仕事が、新しい頭で遂行されつゝあることが解る。

余が耳にしたる所に依れば、試験に雇はれてゐる是等の青年は、頗る勤勉で、クラス階級の人間としては、容易に他に比類を見ないといふことであつた。然し、爪哇の青年が勤勉であるといふのは、器械の勤勉さで、自發的に仕事するのではない、といふことである。彼等は、眞似ですることならば、大抵の事ならば出来る。然し、創造力の方は、頗る缺乏してゐる。彼等は、歐羅巴人の監督下に仕事してゐる中は、忠實に間違ひなく仕事をする。監督の手が幾分でも緩むと、不注意になり間違ひが多くなつて来る。糖業試験場の植物研究科に於て、余は一爪哇青年が、硝子器の中に入れてある植物標本を寫生してゐるのを見た。而して、其の植物の繪が、此の青年の手に依て、微細な點まで、實に精確に寫し取られてゐるのを見た。彼が描いた畫は技術上の見地からして、世界の何れの國に於ける此の種の畫にも匹敵する程の價値を持てゐたであらう。然るにも拘はらず、余の聞ける所に依れば、此の青年—十六才以上の年齢に達してゐるだらうとは逆も思はれぬ此の青年—は、畫を書くことに何等永續的の興味を持てゐるのではない。教へられた通りに覚え、覺えた通り機械的に描いてゐるに過ぎないといふことであつた。若し假りに彼が試験場を辭めるといふやうなことがあつたならば、彼は恐らくは、田舎なる彼の故郷に歸り、今迄の仕事とは些の關係を有さな

いことに従事し、科學的研究などに關係してペンや鉛筆を走らせることは、絶對になからうと言ふことであつた。仄聞する所に依ると、爪哇人と支那人との雜種は、エネルギーの旺盛なること、勤勉なることに於て、遙かに普通の爪哇人に勝るといふことである。

糖業試験場と共に、蘭人が世界に誇ることを得る機關は、ポイテンツォルフに於ける一大農事試験場である。該試験場は、爪哇の首府とも稱すべきバタビアの南二十五哩の地點に位し、其の植物園には、熱帯に於てありとあらゆる有用樹木、大なる價值と美觀とを有する植物が植込んである。政府は、從來、此の一大試験機關に對して充分なる經費を供給し、其の賢明さを示した。此の試験場の研究員に依て爲された各般の研究は、其の價值頗る大にして容易に他の追從を許さぬ。農業上のあらゆる方面に關し、最も根本的なる研究が、最少の生産費を以て最大の生産高を得るといふ目的を以て鋭意繼續されてゐる。

譯註。著者は、農商工務部附屬農事試験場の系統に屬する農事試験園 Cultiurtuin と植物園の系統に屬する植物園、腊葉館、トレーニング實驗室等を同一官署なるかの如くに考へてゐるやうであるが、農事試験場と植物園とは、同じく農商工務部長官の監督を受けてゐるといふに止まり、別に關係はない。

最少の生産費を以て最大の結果を生む一例として、興味ある護謨樹の芽接試験—余が參觀の當時實施しつゝあつた所の—について一言すべし。此の試験に於て、實驗者は、異常に多量の液汁ラテックスを浸出する護謨樹の芽を、苗床に於て育てた一年生の護謨樹の株に接木してゐた。此の如くにして得たる無数の苗木を、政府は全蘭領印度の護謨園に分配してゐる。是等の護謨樹は、普通の樹木に比し、遙かに多量の樹液を産し、爲めに護謨事業界に一大革命を起しつゝありといふ。

蘭領印度は、世界に於ける護謨需要高の約三分の一を生産する。各方面に資本的に經營せる護謨園の外、スマトラ島には、土人が、自らの保有地に栽植せる無数の護謨樹がある。一九二三年に於ける土人護謨の産額は五萬噸に達した。土人が護謨の栽培の爲めに使用し得べき土地は、殆んど無限と稱するも不可ならず。従つて土人護謨の産額は、將來益々増加するものと見られてゐる。只土人の栽培法は幼稚不經濟である。さり乍ら、土人護謨が、資本家生産の護謨を、量的に壓迫するのは、恰かも亞弗利加ゴールド・コーストに於ける土人産のカカオが、西印度、南米に於ける資本家生産のカカオの市場を脅かしてゐるのに異ならないであらう。

蘭領印度産煙草の如何なるものであるかは周知の事實で、特に説明を要しない程であるが、余は其の製造法を目撃するに及んで、其の簡單なるに一驚を喫した。煙草生産地に行けば、天を壓するやうな煙草の納屋が到る處に散見せらるゝが、其納屋は、所謂見掛け倒しで、坪當りにして是れより安價なる建築は他に無いであらう。家のフレームだけが丈夫な丸太で、壁も屋根も屋内の隔壁も何

も蚊も、お手の物の竹材か蔗葉で作つてある。又其れで充分事足るのである。蘭領東印度の煙草業は、力を入れるべき所にうんと力を入れ、節約出来る所は極力節約する。エフィシエンシーと經濟とを旨としてやつてゐる。英國の領土で、煙草其他類似の事業を開始獎勵せんとする政府は、農業部の官吏を爪哇スマトラに派遣し、其の單純にして經濟的な事業經營法の研究をさせたならば得る所多大、少額の旅費位は償ふて餘りあることと思ふ。英國の植民地政府は、調査とか研究とか言つて、他處の「經驗を買ふ」ことに少からざる金を浪費してゐる。机上の調査に代ふるに、他國に於て成功してゐる事業の實地檢分を以てするならば、多額の浪費を免るゝことが出来やう。

スマトラは、爪哇と異なり、新に拂下開墾すべき土池を無限に持つてゐるから、新しい土地が煙草栽培の爲めに、どしどし開墾されてゐる。此處女地に栽培することが、スマトラ煙草の優良なる性質を説明するかも知れない。余の耳にせる所に依れば、七年に一回以上同一地に煙草を栽培すれば、品質が最良でなく、且つ栽培期間中虫害に罹り易い。併し、ミモサといふ荳科のカバープラントを植えて三年間放置し、四年目に煙草を植えれば、其の煙草は、其の品質殊の外佳良なりと。

蘭領東印度は、農業を有利に經營する爲めに必要な一切の條件を具備してゐるやうに見える。雨が多量で、而もそれが年中等分に分配されてゐる。土地は膏沃無比である。暴風は全然なく、高温度が年中続く。作物の生長に必要な濕氣は充分に空中に含まれてゐる。旋風サイクロンの害など全くない。

人口は稠密、而も是等は往昔より農を以て生業としてゐる。爪哇の收約農業は有名である。然し、此の如く、農業に必要な、ありとあらゆる條件を備へてゐる。面積の廣からざる國に、集約的農業の行はるゝに至つたことは、決して不思議ではない。

米は、土民の主食物である。従て、大面積の土地が米作の爲めに使用されてゐる。一年に只一回のみ耕作する他の米産國と異なり、爪哇の農民は、一年中間斷なく、彼等の好む米作を行ふことが出来る(註)。金色に實つた稻田があるかと思ふと、其の傍らに泥水を引込み、土婦達に苗を植付けさせてゐる田がある。二・三碼向ふには、百姓が水牛を叱咤し、チョコレート色した深い土の地ならしをして、水を引込む準備をしてゐるといふ有様である。

譯註。此處で、著者は、爪哇土人が一年數回米作をしてゐるかの如くに書いてゐるが、之れは誤りで、爪哇でも外領でも、米は理論上一年一作以上作り得るが、事實に於ては、一年一回以上作つてゐる所は稀有である。

爪哇には、灌漑の恩澤に浴せる廣大なる面積の土地がある。其等は、家鴨を飼養するのに最も都合のよい場所である。そこで、右へ行つても、左へ行つても、何處へ行つても、土人少年が無数の家鴨を一本の棒片を携へて追廻してゐる光景が見られる。家鴨は、勿論最近植込んだばかりの水田には近付けてならない。然し、濁水を引込み、今や將に犁鋤を加へんとする水田では、彼等は歡迎

すべきもので、其處で彼等は、多量の食物を發見する外、蚊の幼蟲を喰ひ殺すから、マラリア病豫
防者として重要な役目を果すといふ。爪哇産の家鴨は、可成り大型で、淡褐色を帯びてゐる。毎
年數百萬の家鴨が新嘉坡に輸出され、支那人に賣られる。ジョン・チャイナヤンは、肥えた豚を愛
するが如くに肥つた家鴨を愛す。

爪哇村落に於て最も興味ある特色の一は、水溜り、池の類が到る處に發見されることである。是
等は、魚類を養はんが爲に設けられたもので、此處に養はれてゐる魚類は、地の持主に對しては食
料を供給するのみならず、一種の財源ともなる。臺所で出た食物の餘り、其他苟くも食料品として
價值あるものは、人糞までが池中に投入され、魚類の飼料となる。殆んど完全なる廢物の利用であ
る。斯くて、年一回池を乾し、漁獲すれば、それが相當額の金になつて返つて來る。

魚池に關し調査を爲し居る際聞込みたることにて、支那人が如何に勤勉にして天然物を利用する
かを説明する證左となるものあるから、參考の爲め、一通り之れを説明する。此處に記載する養魚の
方法は、爪哇に於ける支那人が實行してゐる譯ではない。然し、餘りに面白いから次の一節を之が
爲めに費したのである。

支那の生絲業は、悉く農家に依て行はれ、地方農民は、桑畑の桑に依て蠶を養ふといふ。蠶を養
はんとする時、彼等は之が爲めに利用せんとする土地を二分し、一方の部分を約三尺堀下げ、堀下
ぐることに依て得たる土地を他の半分に積上ぐるときは、積上げられた半分は、排水状態良好にし
て、桑樹の生育に好適せる耕地に化す。農夫等は、堀下げられたる部分に生長速かなる二種類の仔
魚を放つ。隣りの凸地には、桑樹を植え年中間斷なく養蠶を行つてゐるから、其處で出来る蛹、排
泄物、其他苟も魚類の食物にならうと思はるゝものは、一方の魚池中に投入されることが出来る。
斯くて、一年の終りには、魚池を乾かし、魚を引上げるが、元來生長の非常に速かなるものである
から、引上げられた魚の賣上高は、養蠶の利益に匹敵することが往々にしてあるといふ。池中の泥
土は、魚類の生活中、絶えず排泄物に依て肥されてゐるから、桑樹の肥料としては少なからざる價
値を持てゐる。二・三年間同一場所を用ひて魚と蠶とを養ひ、今度は位置を轉倒し、高い方を低く
し低い方を高めて桑畑を池とし、池を桑畑として同一の事を繰返す。集約的事業經營法としては、
之れに勝る例は多くはあるまい。

英領印度に於て見るが如き組織の信用組合は、爪哇には存在しない。然し、同一の目的を有し、
且つ未開國に於て、土人を窘める高利貸より彼等を救ふ爲めの金融機關は別に存在する。政府も土
人金融機關の働きに注意し、今日は爪哇に於て、穀物銀行村落銀行、分州銀行 (Afdelingsbank) を有
さない村落、レヘントスハブは殆んどないといふ迄になつた。

爪哇の地方(殊に中部)中人民が金錢を得るの途なく、米を以て殆んど唯一の食料とせる所では、

差當り必要ない粃を、米倉内に貯藏する。粃は、一乃至一以上相隣接せる村落の住民が漸次に預入せるものである。而して、此の粃は、窮乏の際、相當の利息を支拂ふことを條件として、農民に貸與へられる。爪哇に於ける穀物銀行は、皆悉く人民の選定する代表者に依て經營管理されて居る。而して、其の經營状態は概して良好にして、常に地方的に起る饑饉窮乏に堪え得るだけの貯蓄を有するのみならず、多額の現金を保有し、一時的に金融難に陥れる農民に對し現金の貸出をもなしてゐる。銀行の經營は、前述の如く、出來得る限り農民に一任されてゐるが、蘭人地方官が脊後に於て、之が監督をなしてゐる。爪哇の米倉は、一方に於て米價を調節し、他の一方に於ては、狡猾なる思惑業者の流す害毒より一般地方民を救ふの利益がある。

前記米倉、竝に村落銀行―主として農民に信用を與ふる所の―に對し、政府は組織的の援助を與へてゐるのであるが、蘭領政府が如何なる基礎の下に是等の信用機關を援助しつゝあるかの問題は、吾が英國の植民地行政家の研究に値ひすと信ず。爪哇の地方銀行の組織、中央金庫との關係に關する法規の翻譯は、僅少の費用にて、爪哇駐在英國領事に依て供給されるであらう。

市街地に住んでゐて、而も一時的に少額の資金に困つてゐる土人等に取ては、官營質屋は非常に便利なるものである。官營質屋は、稍や人口の稠密なる所には、何處にも設けてあり、見た所頗る巧妙に經營されてゐる。小價値の身邊具、家財道具でも質草として預り、一盾十日間に對し政府は

二仙の利息を徴收す。一盾以下の貸出に對しては、一日一仙の利子を徴す。利息の支拂は九十日まで許可され、其の以上になると流質の惧れあるが、流質の期間を五箇月にまで延長することは許されてゐる。

土人は官營質屋に對し、多大なる信用を置いてゐる。それで、メッカに巡禮に行く者、其他長途の旅行をする者で、家財一切を官營質屋に預入するのがある。それは、決して資金が欲しい爲めではなく、官營質屋に預けて置けば、叮嚀に保管せられ、心配を免るゝことが出来るからである。質屋は資金難に陥れる者に、極めて簡便に金融の途をつけてやるばかりでなく、高利貸の毒牙より單純なる土人を免れしむる。加之、政府に取ては、一の大なる財源となつてゐる。デョクヂャカルタ市に於ける一官營質舖は、一年一百萬盾(八十萬圓)以上の利益を擧げた。

全爪哇に於ける官營質舖は、總數三百七十五以上である。而して、一年四千萬件以上の取引、二千萬磅以上の貸出が此處に於て行はれてゐる。英國の植民地に於ても、官營質屋設立の議が屢々起るが、それに對し何等謂れない反對論が繰返されてゐるのは、吾人の了解せざる所である。

中央政府の重なる財源の中に、吾々は鹽及び阿片專賣の收入を擧げねばならぬ。阿片の方は、其の製造販賣共に嚴重なる政府の監督下に行はれ、之が使用は出來得る限り制限する方針に出でゐる。鹽の方は、富裕者の使用するものは外國品であるが、土人の使用する食鹽は、土人の鹽田より買

上げたるもの、官業者が自ら鹽田に於て製造したるものに、政府の工場に於て加工せるものである。官業としては、別に鐵道、郵便、電信、電話がある。而して、是等の事業に依て收むる政府の純益は一年三千萬盾に達す。蘭領東印度官業部の徴收する料金は、何れも非常に高直にして、殊に電信料金の高いことは驚くの外ない。それが爲め、爪哇に於て歐風の生活をする爲めには、多額の生活費を拂はなければならず、此の方面からの文句は絶えない。無論、生活上の快樂も缺如してゐる譯ではない。

爪哇を訪問する者の必ず受くる最も明白なる印象の一は、萬事萬端清潔で物に秩序があるといふことである。爪哇の首都バタビアの附屬港たるタンジョン・プリオク(Tanjong Priok)に這入る者は、先づ此の印象を受くる。瀟洒たる其の埠頭、きちんと行儀よく整列せる倉庫、一絲紊れざる形に並んでゐる舢舨、總てあるべき所に物が置いてある。遣り放しにしてある物は一もない。總ての物が餘り秩序よく並んでゐるので、爪哇の大輸出入港として、此處でも澤山の貨物が毎日揚げ卸され、そのかを疑はれる位である。上陸して見ると、どこの家も輝かしいペンキで塗り、屋根は赤瓦で葺き、純白の壁を之に配し、短い綠草のローンが家の周圍を取巻いてゐる。其の様和蘭の住宅區域に異ならない。熱帯地の都會ではどこでも見られる、非衛生的な陋屋といふものは、爪哇の町では餘り見當らない。「善良なる秩序」といふことが、東印度に於ける蘭人政治のモットーであり、スロー

ガンでもあるのか。

バタビアの舊市街は、商館、倉庫、群立する支那人住宅(商舖を兼ねたる)に依て、殆んど全く占領され、新市街にして、優美なる郊外住宅地を有するウェルテフレードンが内陸の方へと發達しつつある。ウェルテフレードンは、極東に於ては稀に見る雅致と繁榮とを示してゐる。此處にも、和蘭人は、特有の風習を傳へ、最も繁華なる市街の區域に美しき運河を設けてゐる。而して、廣濶なる通路には見事なる街路樹を植え、往來する者をして熱帯の苦熱を忘れしめてゐる。

斯く、繁榮と發展の跡が歴然たるものあるに拘はらず、吾人の旅行は、建築物の小規模なるに驚かされる。政府の廳舎は、小綺麗で、しつかり出來てはゐるが、概して小造り控え目である。個人の住宅を見ても、成程有福に氣樂に暮してゐるらしくは見えるが、大建物だと思はれるのは至つて稀である。ウェルテフレードンの住宅區域内にある住宅の大多數は一階造りで、英米にて所謂バンガロ(假の別荘)式である。周圍の庭園の小なる所を見れば、地價が不廉なることが解る。高級な住宅地の地價は非常に高直にして、「賣地」「貸家」等の看板を見ることは稀有である。

第六章

財政、重税、英國の對蘭印貿易、支那人の勢力、人種と其待遇、土人の教育其他

最近數年に於て、蘭領東印度が、經濟的に如何に大なる發達を遂げたるかは、次記の數字に依つて察知せらるゝことと思ふ。單位盾。

歲 入

歲 出

一九二〇年	三二二、〇〇九、〇〇〇	四三六、七一〇、〇〇〇
一九二六年	七九二、五五四、〇〇〇	七四七、一七五、〇〇〇

爪哇の繁榮は、歐羅巴の甜菜糖に對して與へられたる人爲の保護が撤廢され、爪哇糖が自然の發達を爲し得るに至つた時から始まつたものと言つて差支へない。歐洲大戰前の十年間に於て、否歐洲大戰中に於てすら、蘭印の砂糖、茶、護謨、珈琲其の他熱帶的物産に對する需要は頓に増加し、國內に於ける富は著しく増加した。同方面に對する歐米人の投資額は、其の頃よりして著増し、栽培業者等の擧げ得たる利益も鮮少ではなかつた。貨銀の平準も一般に高まり、其の爲めに土著農民の位置も幾分か改善せられた。諸物産の増産、價額の騰貴に依りて、土著人民大多數の利益が、大に増進せられたとは決して考へられないのである。爪哇の勞働者は、知識幼稚、且つ勞働者として組織せられてゐないから、歐羅巴亞米利加に於ける無産階級者が嬴得せるが如き、貨銀の増收、勞働時間の短縮を、資本家に向つて強制し得ないのである。

大戰後に起つた俄か景氣の際、蘭領印度政府は、歐羅巴人のコントロールの下、或他の熱帶植民地

政府の如く、植民地物産に對する需要の増加、價格の暴騰に眩惑して、放漫なる財政上の計畫を樹つるに至つた（前記の數字でも分る通り、一九二〇年に於ける歲入三億一千二百萬盾に對し、歲出四億三千七百萬盾といふ、無謀不釣合な計畫を樹て、國債が彌が上にも増加した）。政府は、即ち官吏の定員を増加し、物價騰貴を理由として職員の大増俸を斷行したる爲め、政費は大膨脹を來すことを免れなかつた。

然し、平和克復後、中立諸國に吹き荒んだ不景氣風、反動的動搖は、蘭領印度をも震撼せずにはゐなかつた。通貨たる盾の換算價は、猛烈に動搖し、一時慘憺たる暴落を演じた。一方、種々高壓的手段を弄したるに拘はらず、國庫の收入は、支出に追隨することが出来なかつた。それが爲め、國家の債務は著しく増加するに至つた。茲に於て、數年前（即ち一九二一年）總督に任命せられたフォック（Mr. Dirk Fock）氏は、其の任に著くや、東印度政府の財政が頗る不満足なる状態に於て推移せるを見、一大決心を以て是れが整理に當り、強硬なる政策と、斷乎たる手段とを用ひ、漸くにして收支の均衡を保たしむることを得るに至つた。フォック總督の採つた政策が、如何に賢明にして時宜に適つてゐたかといふことは、蘭領東印度の財政の現状を見る者の親しく首肯する所である。即ち、財政は、フォック氏の莅任以來非常なる膨脹を示せるに拘はらず、能く收支の均衡を保ち、加之、年々相當額の剩餘を出し、最近に於て國債の一部をも償還するに至つた。

然し、以上の如き財政の膨脹收支の均衡は、何等の犠牲なくして獲得せらるゝものでない。即ち、租税の増徴といふことは、此の如き財政の膨脹上、當然の原因をなすものである。蘭領印度では、租税を増徴したる結果、住民間に由々しき不満の念を醸成した。而して、此の如き不満は政府が豫定以上に収入を収てゐるといふ事實に依つて、秋毫も減殺せらるゝものでない。盾の換算價值は、租税の増徴後間もなく平價に復したが、人民に對する諸税の率は爲替相場の恢復に正例して増加したるかの如き觀がある。ホングリップ氏(Mr. Gonggrip)は、一九二七年七月發行のエンシアティック・レビュー誌上に於て Economic Position of the Indigenous Population of the Netherlands Indiesなる題下に這般の消息を詳述してゐる。

爪哇の土人に對する重なる租税は、人頭税、所得税、地租の三つである。此の三種の租税中、土人間に最も評判の悪いのは人頭税である。人頭税は著しく人民に強制した公役(英佛の熱帯植民地に於ける *Corvée* に相當するもの)の代りに賦課さるゝに至つたものである。一九二四年には、四、三四二、〇〇〇人の土人が一〇、九三〇、〇〇〇盾の人頭税を支拂つた。土民の立場よりすれば、地租の外に前記の如く多額の税を支拂ふといふことは、負擔が過重なのである。余が爪哇を訪問したる時に於ける人頭税は、地方に依つて異なるが、一人一盾十仙から二盾六十五仙までであつた。現行税則に従へば、人頭税は、村長選舉の資格を有する満十七歳以上の男子、又は獨立の財産を有する婦人に於

て仕拂はるゝことになつてゐる。政府は、不人望なる此の税金を撤廢することに就て目下考慮中であるとの噂を耳にした(譯者曰く、人頭税は、一九二七年より廢止せられた)。

地租 (*Tandrente*) は、政府財源の重要な科目の一で、税額は毎年村長立合ひの上地方官之れを評定す。即ち、税額は、土人の保有する土地の性質(例へば水田陸畑といふが如き)、土地の良否、作物の種類數量に依つて定めらるゝものであるが、灌漑の便を施さるゝ地面に對する地税たる一英反約一志から、最少量の米を生産する地方に對する約其の四倍(即ち一英反四志)に迄及んでゐる。爪哇の或地方の如く、村民が土地を共有する所では、其の土地の廣狹良否に應じ、全村より纏めて税を納付せしむ。斯かる場合に於ては、各人の負擔額は村長村會と協議し之れを決す。一言にしていふと、蘭領印度に於ける地租負擔の形式精神は、英領印度其他英國の東洋に於ける、植民地に見るものと大差がない。

寒村僻地に至るまで、爪哇が高度の開發を遂げてゐるといふことは、一面に於ては、爪哇島經營の經費が、鮮少にあらざること物語つてゐる。即ち、政府は、あらゆる財源を求めて、搾れる限りの税金を搾ることの方めてゐる。市場に動いてゐるものは、物でも人間でも、一として課税の目的物たらぬものはない。輸入税こそ印度や錫蘭に於けるものに比較して高くないが、商業其他產業に加へらるゝ所の負擔は頗る重い。例へば、二割五分の利益を計上せる事業會社(外國籍の場合に

於て)は、所得税、超過利得税、特別利得金合せて、一磅につき三志となり、利益金が二割五分以上であれば、是等の諸税は累進して一磅につき五志餘となるが如し(註)。

(譯註)。一九二五年の會社税法の結果、會社は籍の内外を問はず、純收入の一割の會社税、其の一割の二割に相當する附加税、都合一割二分を社會税として仕拂はねばならぬことになつた。別に家屋及び動産税といふ國税がある。即ち家屋に對しては、家賃の五分(借家人家主の別なく、家を使用する者之れを拂ふ)、家具に對しては其の見積價額の二分を納む。此の如き税金は他國に於ては、減多に見られない。

商業的企業に對して賦課せらるゝ上記の諸税を以て満足せず、政府は、一九二一年中、「利益分配税」と稱する一種の新税を是等の事業に課せんとし、銳意攻究中であつた。利益分配税は、株主の爲せる拂込みの六分に相當する金額、及び利益金に伴ふ前記の利益税を差引き、尙ほ剩餘あらば其の二割を國税として政府に上納せしむるものであつた。而して、此の税の目的は、商事其の他の會社が、事業を經營せる土地に隣接せる地域に住する土民の幸福を増進せんが爲めに使用せんとするにあつた。資本家を迎へて地方農民に屈服せしめんとする本税に關しては、頗る非難多く、政府が遂に本税案を撤回するに至つたことは異しむに足らない。

和蘭は、蘭領印度に於て特惠關稅々率の制を設けてゐない。そこで、世界の諸國民は、國領に於て、公平同等なる條件の下に商業上の競争をなすことが出来る。而して、余の見たる所では、英國人の事業は、商業でも其の他の企業でも頗る寛大なる取扱ひを受け、或他の領土に於て受けてゐるやうな窮屈にして面倒なる制限を受けてゐない。然し、蘭領に於ける雜多にして高率な税金―それは、總ての階級總ての國民に一率に掛けられてゐるとは言ひ乍ら―は、之れをすぐお隣りの海峽植民地、馬來聯邦州のそれに比較すれば多過ぎるし、高過ぎる、對照が餘りに甚だしい。是等英國の植民地には、所得税なく、二・三の贅澤品に對するものゝ外何等の輸入税もなく、直接税に脅かされるゝことなく、ゆつくとしてゐる。護謨、錫等一二重要物産に課せらるゝ輸出税が、是等の速かに開けつゝある植民地に於ける重なる財源である。

爪哇に於ける英國系の商館は、數に於て多いとは言はれないが、他の外國人の事業會社中に於ては、嶄然頭角を現はしてゐる。是等商館の或者は、古くから事業を營んで居り、經營狀態頗る良好にして、爪哇事業界に於て勢力を有し、尊信を博してゐる。彼等の活動は大規模であり、極東に於ける、吾が貿易發展の根本たる高度の信用を擔つてゐる。

然し、英國製造家輸出商人の爪哇を相手とするものは、徒らに舊慣を墨守し、同方面の事情に適合し、要求に一致するが如き手段を取てゐない(此の批評は、英國の商人製造家について、爪哇のみならず、世界到る處で聞く所であるが)。彼等の商法には積極性がない。福は寢て待つといふ遣方であ

る。輸入地の貨幣でいくらといふやうな、需要者に取つて最も必要な知識を與ふことを怠つてゐる。旅商を用ひず、新品を賣らむる努力が兎角不足勝ちである。それに、吾人が英國の製造家に就いて認むる共同の缺點は、彼等が今日になつても、英語のカタログを送り、常に積出港に於けるFOB値段を示すことである。米、獨の商人は、こんな買手に取て不便なことはしてゐない。彼等は、商品の説明書を、消費地の言語にて書く。而して、土地の商人が、卸値いくら、小賣いくらと直ちに計算出来るやうに、輸入港に於けるCIF値段を掲げること力めてゐる。

爪哇では、人口が過剰であるが爲め、政府は移民を歓迎せず、新入國者に對し一名一百盾の入國税を課してゐる。此の國税がなかつたならば、陸續渡來すべき筈の支那人も、是れあるがため其の勢ひを殺がれてゐる。蘭領印度に於ける支那人の數は、國の大きさの割合からいふと、海峽植民地馬來聯邦及び之れに接壤する國々に於けるものに比較すると物の數ではないけれども、然し、今日では相當の數に上つてゐるし、其の勢力は日一日に増加しつゝある。

蘭領印度では、小賣は全部支那人の手にある。大資本と大なる頭腦とを必要とする商業の部門でも、支那人の關係してゐるのが到る處に見出される。彼等は、其の伶俐、勤勉、果敢なる企業心に於て、熱帯植民地の何れの土民にも勝り、土民との競争に於て常に絶對の勝利を占めてゐる。稍や例

外を爲せるものは、英領印度あるのみ。柔和な爪哇人、懶怠な緬甸人、暢氣な印度支那半島の土人等は、支那人の産業界に於ける優越を、到底動かし難き事實として承認し、支那人の壓倒的勢力を覆す何等の努力をも敢てしない。雜多なる人種の中でも、多分純型の馬來人のみは、狡猾なる外來者と競争して行かうといふ氣概を以てゐるが、持て生れた無氣力と懶惰性とは、反抗運動に於て、力強き試みをなさしむるに至らない。自分の國として、競争し得べき多くの好條件を備へてゐるに拘はず、馬來人は支那人と輸贏を決するには、其の行き方が餘りに紳士的である。馬來人の心構へと、支那人のそれとが、如何に異なつてゐるかは、次の例に依つても窺知られる。魚獲に出掛けた馬來人は、三匹の魚を獲れば、一日の食には事足ると考へ、すぐ様歸路につく。然るに、支那人は二・三十匹の魚を手に入るゝ迄は歸らうとしない。二・三十匹の魚を獲れば、二匹を食物として残り、残りの魚は賣つて金にする。

土著人民の商賣は、支那人に獨占されつゝある。然かるにも拘はらず、公然と支那人に對して反對の態度に出る者の少ないのは、一奇と言はなければならぬ。支那人は、多數土著人民の冷酷なる債權者である。然るにも拘はらず、支那に對し憎惡、嫉視の念の露骨に發表せられたるを見ない。否、支那人は、其の富力と、勤勉と、節制とを以て、却て土人の尊信を博してゐるかの如くである。支那人全體に對する組織的反抗運動などいふものは今日では絶無である。然し、之れは今日の狀況

を物語るに過ぎず、和蘭が爪哇を占領して間も無い頃——其頃でも、支那人は多数在住した。は、支那人は、土人・和蘭人に少なからざる迫害を蒙つたものである。

和蘭人も亦、蘭領印度の開発に關する支那人の貢献の大なることを認容することに於て人後に落るものでない。支那人の全部が、一攫千金をのみ夢みて、儲けた金は、悉く之れを故國に送るといふのではない。否、其大多數の支那移民は、爪哇其の他外領の島々を永住の地と定め、直接間接地的に貢献してゐる。今日爪哇にゐる支那人の中には、四代目五代目の者も少なからず。是等は、今日と雖、尙ほ祖先に特有な思想、習慣、風俗を維持してゐるが、大方社界と、利害共通の點を多分に持てゐる。

爪哇の市街地に於ける華麗なる住宅は、殆んど皆支那人の有である。彼等はそれ等の立派な住宅の主であるばかりでなく、貸家の持主である。殊にスラバヤ市の郊外にある支那人の邸宅と別荘とは、世界何れの國の紳商のものと比較しても耻しからざるもので、單に結構が雄大であるばかりでなく、卓越せる趣味と上品さを示してゐる。彼等は今や、市會、地方議會、商業會議所は勿論、中央の國民參議院に於ても、蔑るべからざる勢力を有してゐる。彼等が、其の勢力を擴張し、彼等の同胞が海峽植民地に於て贏ち得たると同等の勢力を蘭領東印度に於ても得んと、竊に冀望しつゝありと想像するのは決して無理だとは言はれない。

南東亞細亞諸國で、支那人は、黙々暗々裡に其の羽翼を伸しつゝあるが、今や發展は頗る憂慮すべき規模にまで達しつゝある。東京地方に於て、安南に於て、柬埔寨に於て、暹羅に於て、緬甸に於て、將又英領馬來に於て、支那の貧乏にして人口過多なる地方から群來する、不屈なる平和の戰士は、裸一貫で、或は勞働に、或は商業に其の勢力を伸長しつゝあり。海峽植民地及び英領馬來の他の地方に於ては、政府も、護謨園、錫山經營者も、方針として支那人の渡來を奨励しつゝあり。斯くて、是等の地方に於ける支那移民の數は、土著人民を凌駕するやうになつてゐる。浸潤性に富む布片に擴がる油のしみと同じく、支那人は、是等の國々に、不知不識の間に擴まりつゝあり、いつ何處で此の民族的大運動が休止するとも分らぬ。現今印度支那、馬來半島及び更に其の南に位する總ての國に於て、醉生夢死しつゝある土人等が、いつの間にか數に於ても、富力に於ても、將又滲透力に於ても、壓倒的に優勢なる外來支那人の爲め其の位置を奪はれ、主客轉倒の悲哀を経験するであらうといふことは、吾人の合理的に想像し得ることである。

蘭領印度、特に爪哇の人民は、大體に於て、(イ)白人種 (ロ)白人と土人との雜種 (ハ)支那人 (ニ)馬來・ポリネシア及びバプア系統の四種に分類することが出来る。而して、政府の統計を見ると、蘭領印度には、他の東南亞細亞植民地に比し、遙か多數の白人種を有するかの如くである。即ち、一

九二四年農商工務部の發表せる Handbook of the Netherlands East Indies に依ると、一九二〇年に於ける同地の人口は

歐洲人

一六九、七〇八

東洋外國人

八七六、五〇六

土人

四八、三〇四、六二〇

となつてゐる。然し、能く聞いて見ると、此處にいふ歐洲人は、勿論原則として白人種及び白人種を父とし、且つ白人の父に認知された混血兒を意味するのであるが、蘭領印度政府の取扱ひでは、白人とは人種の意味合の外に法律上の身分 (*Wit*) を指すのである。であるから、白人中には、今述べたやうな人種の外、歐洲人と同一の教育を受け、彼等と同一の習慣を有し、生活法に於ても歐洲人と異なる所なき或數の土人支那人をも含むのである。然り而して、此の歐洲人としての身分は、土人支那人が生活法さへ歐洲人と同じであれば、何等手續を要せずして獲得するものではなく、例へば、土人 (*Inlander* と稱す) は總督に請願書を提出し、總督に於て歐人と同一待遇をして差支へないと認めれば、之れを附與するのである。而して、普通請願を爲せる土人の住する區域の理事官の推薦に依つて與へられ、官報 (*Javasche Courant*) に依つて發表さる。歐洲人としての身分は、土人に於ては一種重要な特權と認められてゐるから、容易に附與せられず、従つて膚色の青黒い歐人待遇

の土人は、非常に少ないのである。

東印度群島に住する日本人―次第に數と勢力を擴張しつゝある所の―は、蘭領印度に於ては、歐羅巴人としての待遇を贏得した。支那人には此の特權が與へられてゐない。日本人支那人の間に差別待遇をするといふのが、支那人が最も不満に思つてゐる點である。然し、蘭領に住する支那人で、其の金力と、公共事業に對する寄附と、和蘭に對する忠誠の事實とに依り、特に總督より歐人待遇者たることを認許せられたのが多數にゐる。

歐羅巴としての身分に有付くことの重なる利益は、此の如き身分を有する者は、土人裁判所の管轄を離れ、和蘭本國法の運用を掌る歐式法庭に出訴審判を受けることが出来るといふ點に存する。然し、歐洲人扱ひであるが爲めに、土人の受くる各種の特權、例へば特惠條款に依つて、土地を獲得保有するといふやうなことが出来ないばかりでなく、歐人同様に高率の諸税を賦課せらるゝ。蘭領に於ける歐人的待遇は、佛蘭西が、其の植民地土著人民で特別待遇を施す必要ある者に、佛國市民 (*Citoyen Français*) たることを認許すると同じやうである。然し、兩者の異なる所は、蘭領の歐人待遇は、選舉の際に歐人を選挙し、歐人に選舉せらるゝこと出来ないといふ點に存する。中央、地方に於ける評議會、議院に對する議員の選舉は、矢張り民團的基礎の上に行はれてゐる。即ち、歐羅巴人は歐羅巴人に依つて選舉せられ、支那人は支那人種に依つて選舉せらる。以下之れに倣ふ。

和蘭人と土人との雜婚、其の他不規則なる男女關係は、是等不規則なる男女關係に依つて生ぜる多くの雜種を有する他の熱帶植民地に於けると同じく、困難なる問題を惹起しつゝある。所謂歐亞混血人は、爪哇に於ても其の數非常に多く、彼等の社會的位置は、頗る不愉快なるものである。純型の爪哇土人は、あいの子として彼等を尊敬しない。混血種は、歐洲人として意張りたがる。然るに肝心な和蘭人は、人種問題には頗る無頓著であるに拘はらず、歐亞混血種を輕蔑する。

正式の結婚に依て生れ、和蘭人を父とする歐亞混血種は、歐羅巴人としての身分を必然的に獲得す。而して、歐羅巴人を選擧する資格を持てゐる。反之、和蘭人の父に依つて法律的に認知せられず、且つ土人部落に住める者は、其の膚色が譬へ如何に白くても歐洲人としての待遇を受くること出來ず、且つ選舉に際しても土人のみ選擧する。然し、事實上歐人と全く同一の生活法を採用せる是等の混血私生兒は、總督に請願することに依つて、法律上歐人待遇者となり、其の旨官報に依つて發表せらる。口善惡ない爪哇の連中は、是等を冷笑して「官報歐羅巴人」と言つてゐる。

或人が、スラバヤの大通りを、自動車に乗つて通る客種子から、爪哇に於ける各人種の社會的位置に關し、面白き一種の觀察をなした。數分の中に四十臺の自動車が或處を通過した。其の中十六臺の搭乗者は純型和蘭人であつた。他の十二臺中、或車は全部歐亞混血人をのみ乗せてゐたが、混血の奥様と混血の子供を連れてゐる純型和蘭人もあつた。六臺は支那人が乗り、四臺は印度人亞刺

比亞人が乗り、残りの二臺には、日本人の家族が乗つてゐた。馬來人、爪哇人の乗つてゐる自乗車は其の中に一臺もなかつた。

此處に擧げた例は、偶々、爪哇四千萬の土人が、富力の點に於て、如何に低いレベルに低迷してゐるかを説明するものである。世界の他の國に於て見る、社會の中堅をなせりと言はるゝ中産中流階級に匹敵するものは、爪哇には存在しない。土人地方長官たるレヘント、其の他の地方官、學校教師、學生など、稍や中流階級に似てゐる者はある。然し、是等は比較的少數で、大多數の土民は、悉く營々として働き、辛ふじて其の日暮しをしてゐる、勞働階級である。彼等は、小部落を作つて住める百姓で、單調無味な生活をなし、日用の食料を生産することを生業とする貧民に過ぎないのである。

爪哇の地方でも、今日では段々に高級なる教育を授ける學校が、次第に殖えて來てゐるが、是等は、爪哇土民の社會的經濟的位置を高めるには違ひない。然し、譬へ少しばかりの教育を授けても、天性悠長で暢氣で、而かも徹底的におとなしい爪哇人が、エネルギーと勤勉と旺盛なる精神の働きたるを必要とする生活又は事業の方面に於て、歐亞混血種、殊に機敏なる支那人と競争して行けるやうになかかどうかは、今遽かに斷言出來ない。

爪哇土人と其の生活の種々相、蘭印政府との關係について熟々觀察してゐる或有名な和蘭人が、余の爪哇旅行中、其の所信を披瀝して、凡そ十四・五年前迄の爪哇は長期に亘る平和と繁榮と而して漸進的な進歩とを以て、東南亞細亞に於ける歐米植民地政府の羨望の的となつてゐたが、歐式の教育を土人に施すやうになつてから一般の傾向が非常に惡化したと言つたが、果して然るか否か。政府が、東印度群島の政治を、守舊的保守的傾向の下に行つてゐる中は、土人の教育も、極めて簡単な読み書き算術を教授する、低級な村立學校程度に止めてゐた。土人の這入り得る、複雑高等なる科目につき和蘭語を以て教授する中等學校は、其の數至つて少なく、此處に一校、彼處に一校といふ風に、離れ々々に、辛ふじて其の存在を保つたに過ぎなかつた。而して、蘭領以外に起る事件については、成るべく知識を與へないやうに、倚らしむべし知らしむべからずといふ方針を取つた。而して、それが土人の好みにも適してゐるらしく見えたのである。佛國の著述家カバトン(Cabaton)は、蘭領印度に關する其の有名なる著述中に述べて「ごく最近まで、政府は和蘭語並に洋式學術について知識を土人に與へないやうにしてゐた。それは、土人等が主人たる和蘭人と同格又は同格以上であると考へることを惧れたからである」と言つてゐる。

一九一六年東印度總督の任に就いたリムブルフ・スタイルム伯(Mr. Johan Paul, graaf van Limburg Stirum)は、土人教育に關する從來の方針を一變した。同伯の就任は土人教育開發に關する限り、東

印度に於て一新時期を劃したものと云ふことが出来る。卓越せる此の政治家は、一には感傷的に有する土人に對する先天的同情から、他の一には、和蘭本國に於ける進歩主義的運動の刺戟から、前任諸總督が土人教育に就いて踏襲せる方針を根本的に覆し、初等教育を整備し、全領内に中等學校を設け、大都會には専門學校を設けて、高等教育を旺んにし、蘭語を普及することにした。かくて、一九〇八年に於ける國庫支辨の教育費は、六百四十萬盾に過ぎなかつたものが、十年後の一九一八年には二千三百五十萬盾に上り、一九二八年には四千萬盾に上つてゐるのである。

教育に加へたるリ伯の改革に對しては、其の後數年間、感謝の言が各方面から浴せかけられた。一般社會は、蘭領印度の爲めに、多大の恩惠を施せる伯に、神の恩寵の裕かならんことを祈つた。彼等は、リ伯のお蔭で高給を食らんとする支那人其他外國人の要求を勿付け、教育ある、然し給料の安い爪哇土人を番頭クラリリとして雇入るゝことを得るやうになつた。

然し、不幸にも、需要供給の法則は、世界の場末ともいふべき蘭領印度に働いてゐる。官廳商館などの土人クラーク、番頭に對する需要は幾もなく充足せられ、適當なる職業を得ず、ぶらぶら遊びしてゐる教育ある青年が年々増加しつゝある。是等の青年は、資格ありと信じながら、適當の位置に就くを得ず、退いて祖先が無始以來爲し來つた仕事に従事することも潔しとせず、故山に歸農することなど此の上もない恥辱なりと考へ、悶々の情やるに處なく、共產主義其他破壞主義者の運

動に参加しつゝあるのである。

斯くて、爪哇の世相は、過去二十五箇年英領印度に於ける事情に刻々に接近しつゝある。歐米の主義に則れる高等教育が、極めて大膽に土人青年に與へられつゝあり、英領印度に於て騷擾の根源をなせるB.A連、B.A試験失敗連と同様の高等遊民が、旺んに製造されつゝある。熱帯諸國に於ける他の青年と同じく、爪哇の青年は、學問の爲めに學問するにあらず、知識を愛するが爲めに知識を求むるにあらず、或は政治的勢力を得んが爲めに、或は大なる金銭上の報酬の伴ふ位置に有付かんが爲めに學校を卒業するのである。爪哇青年の此の態度は、勿論決して悪いとは言はれない。

要之、爪哇に於て教育の普及に力めたことは、輕率で躁急であつたと、保守的立場の人からは非難出來るかも知れない。併し、蘭領印度の現行教育制度が非常に有效なる働きをしてゐることは何人も拒めない。學校の多く、殊に地方にある學校は、秩序と清潔の點に於ては、田園學校の模範と稱するも過言にあらず、宗教團體に依つて維持經營せらるゝ學校も、之等の點に於て、負けないやうに官公立の學校と競争してゐる。

余は旅行中、爪哇の中部ボロブドゥア(Borobudur)有名なる佛蹟の所在地に於て、田舎の一小學校を參觀した。此の學校の教育法・設備を記載することに依つて、爪哇に於ける此の種學校の教育制度が頗る健全なものであることを示し、英國熱帯植民地當局の参考にしたいと思ふ。

ボロブドゥアの此の小學校は、加持力教の僧侶に依つて維持せられ、熱帯に於ける地方小學校の模範と言つて宜しい。校舎は、半分木材を用ひた煉瓦造で、屋根は瓦を以て葺いてある。建物は四つの高い、廣々とした教場に仕切られてゐて、採光の具合等申分なく、見る者をして氣持よい感じをせしむる。周圍の壁は、高さ十二呎位で其の頂とのきじやばらとの間には、金屬が張詰めてあつて、小鳥や蝙蝠の闖入を防いでゐる。窓口は、扉の反對側に設けてあるが、生徒が其の外を見て注意を散亂することは出來ぬやうに造つてあつた。

教室には、しつかりした机と腰掛とが、各兒童が次の兒童より四呎位隔たるやうに並べてあつた。各教室には、和蘭女皇の肖像が掛けてある。而して、黑板の頂には、各級の生徒數及び缺席者數が示されてゐる。

教室内の生徒は、年齢の割には皆小柄に見えた。然し、余は、彼等が健康なる體軀と利口さうな顔付の持主であること、特に彼等の纏ふてゐる衣服が清潔であることを感せずにはゐられなかつた。余の聞ける所に依れば、爪哇の母親達は、しみや垢の附著せる着物を着て、子供が學校へ行くことを許さないといふ。身の廻りを清潔にするといふことは、英領土の熱帯小學校では、大に注意せねばならない事項の一である。

生徒の手習帖は、清潔の標本と言つて可い。汚れ一つなく、しみ一つない。彼等の机も同様だ。

書風は一般に非常に良好で、最上級の生徒は羅馬字と爪哇特有の文字とで書いてゐた。余は讀本が特に氣に入つた。中には繪を入れ、主として熱帯生活に關する興味ある記事、殊に蘭領印度に關する讀物を掲げ、爪哇の子供用としては、特にふさはしいと感じた。兎に角、余の見たる爪哇の小學讀本は、英吉利の熱帯土人小學校に使用せられてゐるのは大違ひだ。英吉利の讀本中には、蕃人生活から漸く脱却した位の土人の兒童等に、アルフレッド大王の嚆を讀ませるかと思へば、洋菓子の説明をなし、木に竹を接いだやうなことのみに書いてある。

此の學校の兒童は、悉く爪哇土人(狹義の)子弟であつたが、教語として馬來語が使用されてゐた。馬來語は、人の知る如く、蘭領印度諸種族間の共通語として、政府が荐りに獎勵せるものである。

余は、何等の豫告なしに學校を參觀した。それでも學校の内容は以上の如く能く整つてゐる。譬へ偉い身分の人が検査參觀するとしても、秩序と清潔との點に於て、余が參觀した時以上のものを見ること困難であらうと思ふ。

爪哇に於ける初等教育は、三年程度の庶民學校(Volksschool一名村立小學校Desschoolともいふ)、標準學校と稱せらるゝ四又は五年程度の小學校(Inlandsche Scholen der 2e Klasse)前記の庶民學校に甘んぜず、五年程度の小學校に於て見るが如き、一層完全なる初等教育を受けんとする者の爲めに設けられたる二又は三年程度の接續學校(Vervolgsschool)に於て授けられる。是等學校の維持費は、

一部は生徒の父兄に依つて、一部は政府に依て醸出せらる。之等は皆土人學校で、土語を以て教授するから、其の卒業生は和蘭語を使用する中等學校に進んで行くことが出来ない。そこで、土人學校、殊に前記標準學校の三年修了後中等學校へ進んで行かうとする、學術の才ある土人子弟の爲めに和蘭語を教語とする五年程度の連鎖學校(Schakelscholen)がある。是等の土人初等學校に於て仕拂ふ月謝は輕少である。

中等學校に入學することを、就學の當時より希望する、地方有力者の子弟の爲めには、和蘭語を教語とし、和蘭本國の小學校に型取れる和蘭土人小學校(Hollandsch-Inlandsche Scholen)がある。次に、同じく中等學校に進まんとする支那人子弟の爲めに、矢張り和蘭語を以て教授する和蘭支那人小學校(Hollandsch-Chineesche Scholen)がある。最後に和蘭人の子弟が、或は爪哇より和蘭に、或は和蘭より爪哇に自由に轉校出来る組織になつてゐる、本國の小學校と全然組織を同じくする和蘭人小學校(Hollandsche Scholen)がある。要之、小學教育に於て、政府は、成るべく劃一的教育を避け、各民族の要求に一致するやう各種の學校を設け、同時に中等學校(和蘭語を教語とす)に進んで行ける途を開いてゐるのである。

政府は、蘭印の大都會に續々中等學校を新設してゐる。中等學校の中には、和蘭本國の中學と全然同一なるHBSと稱する五年程度の中學校(Hoogare Burgerscholen)があり、別に蘭印特有のAMS

と稱する中學校 (Algemeen Middelbare Scholen) がある。AMS 中學校は、六年程度で、上・下二部よりなつてゐる。上部も下部も同じく三年、下部をミューロー部 (Mulo-afdeelingen) とし、高等小學に於けるが如き教育を施し、該部の卒業生は、女ならば、他に縁付くことも出来れば (熱帯地で早婚であるから) 男子ならば、其の儘官公私設のオフィスに奉職することが出来る。更に學問することを希望するものは AMS の上部に進んで行くことも出来る。AMS 中學の上部を VHO 部 (Vorberide-nd Hooger Onderwijsafdeling) と稱す。ミューロー部 (下部) の卒業生は、又商業、農業其の他の専門學校に進んで行くことも出来る。

専門學校には、師範學校、醫學校、法律學校、商業學校、農學校、鑛山學校、化學専門學校、航海學校等がある。小學校以上の學校には、私立の學校も多數にあり、官立と目的を同じくし、且つ政府の要求する條件に一致するものには、夫々補助金を與へてゐる。

大學 (何れも官立) は、バタビア法科大學、同じくバタビア醫科大學、バンドゥン工科大学の三あるが、バンドゥン工科大学は、其の建築を、スマトラ島バタク人種の住家に型取り、壯美言はんかたなし。有能なる多數の教授と完全に近い設備とを有し、和蘭が如何に雄大なる氣宇を以て領土の經營に當りつゝあるかを窺ふに足るものがある。規模の大より言へば、勿論ユニバーシティと稱し得るも、目下の所は、只單に土木工學を教授してゐるに止まる。何れは、他の學科にも擴張さるゝ

豫定である。

政府は最近又女子教育に多くの注意を拂ひ、是れが爲めに各種の學校を新設した。人類の進歩は、男女兩性の教育を、並行して進めねば達成せられないものといふことが、回教信者の爪哇人、馬來人に依てすら認めらるゝに至つた。従つて、女子教育運動には、援助が各方面から漸増的に與へられつゝある。

蘭領東印度を訪問する者は、土人の宗教的感情の外面的顯現が、如何にも微弱なるに一驚を喫するであらう。他の東洋熱帯諸國に於て多く見るが如き堂々たる堂宇もなければ、モスクもない。爪哇土人の宗教心は、恐らくは、甚だ強烈なるものではないであらう。

元來、爪哇人間に於ける宗教は、色々の變遷を経験した。中世紀にヒンヅー教が這入つて來て、以前の萬有精神論的信仰を追ひ、其の跡に坐つた。然るに、ヒンヅー教は、中世紀の末葉に近い頃、當時東洋を風靡した回教の爲めに征服された。ヒンヅー教は、爪哇内陸の片田舎、竝に附近の諸島に於て、漸くにして餘喘を保つてゐるが、其の他は全く消滅したと言つて差支へない。併し、回教の全盛時代に建てられた殿堂の壯大なる遺跡が、今尙ほ爪哇各地に存在し、其の或物は和蘭官憲に依つて見事に復舊せられた。就中、ボロブドア及びブラムバナ (Prambanan) に於ける雄大無比の石塔は、觀る者をして歎賞措く能はざらしむると同時に、佛教的信仰が、一時土民間に、どれ程の

勢力を有したるかを示すに足る。

土人間に於ける基督教の傳道は、大した進境を示してゐない。従つて、蘭領全體としては、該教は何等の勢力を持ってゐない。土人の大多數は回教信者と號してゐる。併し、それは只表面だけのことで、回教的信仰を固く守つてゐる譯ではない。教會の禮拜所は、何れも小規模で、見苦しい。眼につくやうなモスクとてはない。土人回教徒中、裕福なる者は亞刺比亞の聖地を訪問するが、其の結果信仰を厚くするといふよりは、寧ろ汎イスラム運動にかぶれて來る。

第七章 土王國、道路と自動車、巧妙なる

電線の架設、病院、市場

爪哇の大部分は、多數の小土侯州に分たれてゐるので、十八世紀には、早既に蘭人に平定屈服さるゝに至つた。然るに、二三強大なる王國は、和蘭の正朔を奉ずることを肯んせず、屈服せんとする和蘭の努力に對して執拗頑強に抵抗した。爪哇の中部に勢力を揮ひ、最後まで頑強に戦へるマタラムが、和蘭に屈服したのは一七七五年のことで、マタラムは、其の後ヂョクヂャカルタ(Jogjakarta)スラカルタ(Soerakarta)の二王國に分割さるゝに至つた。然るに此の二王國は、其の後更に夫々二つ宛の土王國に分割されたから、結局は四つの國が爪哇の中央に出現した譯である。是等四つの國は、名義上の獨立國で、其の獨立は、是れ迄蘭國との間に締結されたる諸般の條約協定に依つて保

障されてゐる。現に此の四つの國を支配しつゝある名目上の王は、何れもマタラム帝國時代の帝室の流れを汲んで居る者で、非常に丁重に取扱はれてゐるのである。

獨立國とは言へ、四國中、最も大にして代表的と目さるゝヂョクヂャカルタ、スラカルタ二國の社會的事情は素より、政治的事情でも、爪哇の他の部分と實質的に餘り違はないのである。王國內に於て、或重要な取極めを爲す時、サルタンは、必ず諮問を受けるけれども、最高政府(蘭領政府)の意見が決定的のものであると了解されてゐる。公布せらるゝ法規命令は、悉くサルタンの名に於てせらるゝが、同時に必ず「知事の同意を得たるもの」といふ語句を附して發表せらるゝ。

ヂョクヂャカルタ、スラカルタに於ける政府の歳入は二部よりなる。即ち在留する歐人の納付せる一切の租税並に領内に於ける官業収入は、國庫收入として蘭領東印度政府に收納せられ、其の他一切の収入は王國の金庫に收入せらる。是等租税其の他を基礎とする歳計豫算は、サルタン、駐在蘭人知事、總理大臣(Rijksoverste)其他數名の土人高官を以て組織する評議會の議に附し、一應の決定を見ることになつてゐる。然し、該評議會の決定は、決して最終的ではなく、蘭領印度支那總督に提出せられて始めて決定を見るものである。評議會には、前記議員の外、王國內に駐在する蘭人官吏が出席するも、技術的専門的質問に應ずる爲めで、議事に參加するのではない。

ヂョクヂャ以下の王國の豫算面に於ける最大の支出科目は、王室費である。最大の王國たるヂョ

クヂャカルタに於ては、是れが爲めに年々一百万盾以上を支出する中、約半額は王の私用に充當せられ、他の半分は、所謂クラトンに於ける宮廷の維持に充當せらるゝのである。

サルタンは、トゥアン・スルタン (Toan Sultan) なる尊稱を以て呼掛けられ、特にヂョクヂャカルタに於ては、威容を保つため、其の行性坐臥について複雑なる儀式が行はれる。宮廷は、其の面積廣大にして、近衛兵駐屯し、歐式に訓練された音楽隊が、側に待立してゐる。ヂョクヂャの現サルタンは、普通の人間としても、賞讃に値ひする多くの特徴を備へ、一般の尊信を得てゐる。彼が持金の大部分は、宮中に維持する舞踊手團の爲めに使用さるゝと言はれてゐる。由來、爪哇人は舞踊に巧みであるが、是等宮廷舞踊手は、宴會儀式の際に、得意の藝術を人に示す。王宮中でも、ヂョクヂャカルタの舞踊が最も有名で、或ヂョクヂャの舞手は、歌舞妓役者として申分がない。或國祭日の際に行はるゝ舞踏は、四日に亘り、宗教的儀式の如くにさへ見ゆることがある。サルタンのガメラン・バンド (ガメランは、爪哇固有の樂器を集めたるもの) は、舞踊の際に於て優美にして魅力ある一種の音樂を奏する。

爪哇のサルタンは、或點に於て、英領印度内に於ける蕃邦の王、又は馬來諸州の土王に似てゐるが、彼等の生活法殊に彼等の隱遁的生活は、到底彼等をして印度蕃邦の王等に比肩する能はざらむ。土民の間に於ては、彼等は尙ほ相當の勢力と威望とを持てゐるが、其れも土王國內に於けるの

みで、政治的勢力は、日一日に減退しつゝありと言つても過言でない。印度蕃邦の王等が活潑元氣なる生活をなしつゝあるに反し、爪哇の王等は、如何にも因循姑息である。彼等の私用に充當せる豫算額は、多きに過ぐるとさへ非難され、ヂョクヂャ王の有する豫算の如き、五箇年毎に、年額六萬盾宛削減されつゝあり。

爪哇王國に於ける蘭人行政官の俸給は、中央政府より支給せられ、其の他の官吏の俸給は、王國の支辨に屬す。王國行政廳に於ける要職は、悉く和蘭人之れを占め、領内の土人を使役して政務を行ふ。他の地方行政は、レヘント、ウダナ、副ウダナに相當する者に依つて行はれ居るも、爪哇の他の部分に於ける土人地方官の如く、組織的な訓練を受け居らず、従つて成績概して不良である。然し、OSVIA(前出)に於て養成されたるものゝ如く優秀なる土人官吏が、近來次第に多く使用さるゝやうになつた。

爪哇の他の部分を視察して後、ヂョクヂャカルタ、スラカルタ等の王國を旅行する者は、是等間接統治の國が直接統治の部分に比較して發達が遅れ、繁榮のスケールに於て低く、何となく見すばらしく感ずるのである。土人の身の廻りも、爪哇の他の土人に比較して清潔でなく、一般衛生状態も他に比して劣つてゐる。農民の衣服は特にまづ、顔付は不機嫌憂鬱である。是れは、一には衣服の色がはへないのに依るのかも知れない。隣地ブレアンガー(爪哇の西部高地)の住民は、普通晴

れやかな色彩の衣服を纏ふてゐるに反し、ヂクヨヂヤ、ソローの住民は黒ずんだ濛い色の着物を著てゐる。余が、此の問題について特に注意したのは、爪哇の他の部分に於ける農民が、概して、自己の保有する土地、又は村有地を耕作し、其の所産に依りて生活し、或は産物を賣りて衣食するに反し、土王國の人民は、附近にある煙草、砂糖等の大農場に日給者として勞働し、賃銀に依つて衣食してゐることである。

賃銀に依つて衣食する者と、獨立して小農を營める者との間には、本人の衿持其の他の上に大なる相異を示すものである。毎日、毎週給金を得て生計を立つる者の心持は、手から口への生活である、其の日暮しである。彼等は、小農者が、其の收穫について心配するやうな、杞憂から免るゝことを得るが、其の代りに、獨立の小農家を鼓舞するやうな、健全な刺戟を持たぬ。余の知れる一米人も、布哇及び彼の觀察した熱帯植民地に於て、同様の事實あることを余に語つた。日給者の得る報酬は、小農が土地を耕して得る報酬よりも遙かに多いかも知れない。然し、後者は到底前者の持ち能はぬ、意氣と自負心と理想とを持てゐる。

所謂外領と稱せらるゝスマトラ、ボルネオ、ニウ・ギニア、セレベスの大島及び其の他無數の諸島に於ては、文物が爪哇に比して甚だ幼稚である。従つて、土人に對する行政も一般に幼稚である。

即ち、土人の生活状態が、未だ原始的の域を脱せず、自治の基礎となるべき精神的、物質的の要件を備へてゐない所では、和蘭の地方官(Resident, Assistant-Resident, Controleur, Gezaghebber)が直接治めてゐる。然し、有力な土酋が永く治めて居つたとかいふ、歴史的其の他因縁のある所では、簡單なる土人自治を認めて居る。土人自治領と稱せらるゝものが、外領に約二百七十箇所ある。而して是等自治領に於ける統治の形式は、亞弗利加の吾が保護領に於けるものと大差ない。即ち、自治領の土侯は、一定の俸給を中央政府より受取り、領内の収入支出は、中央政府の認可せる會計規則に依て實行されて行く。

次に爪哇の道路について一言すべし。爪哇の本道路の優秀なることは、和蘭が爪哇の經營統治といふものに、實に尋常ならざる努力を爲しつゝあることを證明してゐる。島の西端から東端に貫いてゐる二本の幹線道路、主なる人口の中心地を互に連絡せる大道路は、皆悉く理想的に勾配付けられ、常に最良の状態に修理せられてゐる。主道路にはアスファルトを用ひ、自動車旅行を最も愉快なものにしてゐる。

爪哇に於ては、一九一二年に根本的なる道路計畫を樹立し、今尙ほ實行中に屬する。將來に於ける擴張工事は、該計畫を中心として行はるゝ譯である。政府は、スマトラ全島及びボルネオの部分

に對しても、根本的な道路計畫を樹て同じく實行中である。是等の島は、周知の如く、人煙稀薄にして諸事原始的の域を脱してゐないが、道路建設のプログラムは堂々たるもので、スマトラの道路工事だけでも六千萬盾を使用する豫定である。政府は、一九二二年までに、既に其の半額を費してゐるのである。

爪哇の多くの部分、殊に煙草、砂糖工場の所在地で、斤量重い荷物を運搬する所では、大道路は三つの並行せる部分に分たれてゐる。中央の線は、乗用自動車及び餘り路面を傷けない車の爲めに保存せられ、片方の線には、煙草園、甘蔗園専用の鐵道を敷設する爲めに使用されてゐる。而して、殘餘の一線は、牛車其の他重い貨物を運搬する車の爲めに使用されてゐる。而して、會社専用の鐵道は、或時は道路の一側に、或他の場合には其の反對の側に敷設せられてゐるから、文字の讀めない土人に、何れの線路を取りて牛車を驅るべきかを知らしむる爲め、荷車の繪をかいた札が、夫々必要な場所に樹上に釘付けられてゐる。世界の何處に行つても、爪哇の大道ほど、自動車の運轉手を警戒する高札の多い所はない。少し曲り悪いやうな場所、前途に危険を豫想さるゝやうな所に標札が立てられてゐる。是等は悉く爪哇モーター俱樂部の設けたるもので、吾々は其の義捐的行爲を多とせねばならぬ。

爪哇の大道は、通路として卓絶せるばかりでなく、佳趣に富むを以て有名である。其の大部分は、威風堂々たるタマリンドの老樹に依つて兩側より陰影づけられてゐる。村落の附近で、タマリンド植込みのない部分は、趣向を凝した竹の四目垣か、花咲く灌木の籬で縁取られ、旅行者の眼を樂ませる。最近まで爪哇の大道は、中央政府に於て新設補綴してゐたのであるが、制度改正、地方分權の結果、民本的性質を有する地方政府に於て、之れが維持に關する責任を持つことになつたから、道路行政上の缺陷が出て來はしないかと心配されてゐる。

次は爪哇の鐵道だが、爪哇の面積から考へると、鐵道の哩數一千七百哩そこ／＼は少きに過ぐるとも言はれる。然し、重なる鐵道線路は政府の所有である。狹軌式及びスティーム・トックラム鐵道は、私營であるが、其の延長は少なからざる哩數に達してゐる。

世界の他の部分に於けると同じく、爪哇に於ても、自動車に依る交通は、鐵道の向ふを張つてゐる。今日では、鐵道の停車場と、遠方の町村と連絡する乗合自動車、大型貨物自動車が、到る處に見られる。雨除けの屋根と腰掛とを備付けた五噸積貨物自動車があらゆる大道路に往復し、爪哇全島を通じて、五日毎に開催されるマーケットに、百姓と彼等の産物を運搬して來る。重量八十封度の荷物三十哩の運搬賃二十五仙(約五ペンス)、乗客は五十仙である。貨物自動車は、多くは英國製で、見る吾々には心強く感ぜられた。

爪哇の農夫は、荷物運搬の爲め、割竹編みの蓆又は防水布を以て覆へる巨大なる二輪車を用ふる。

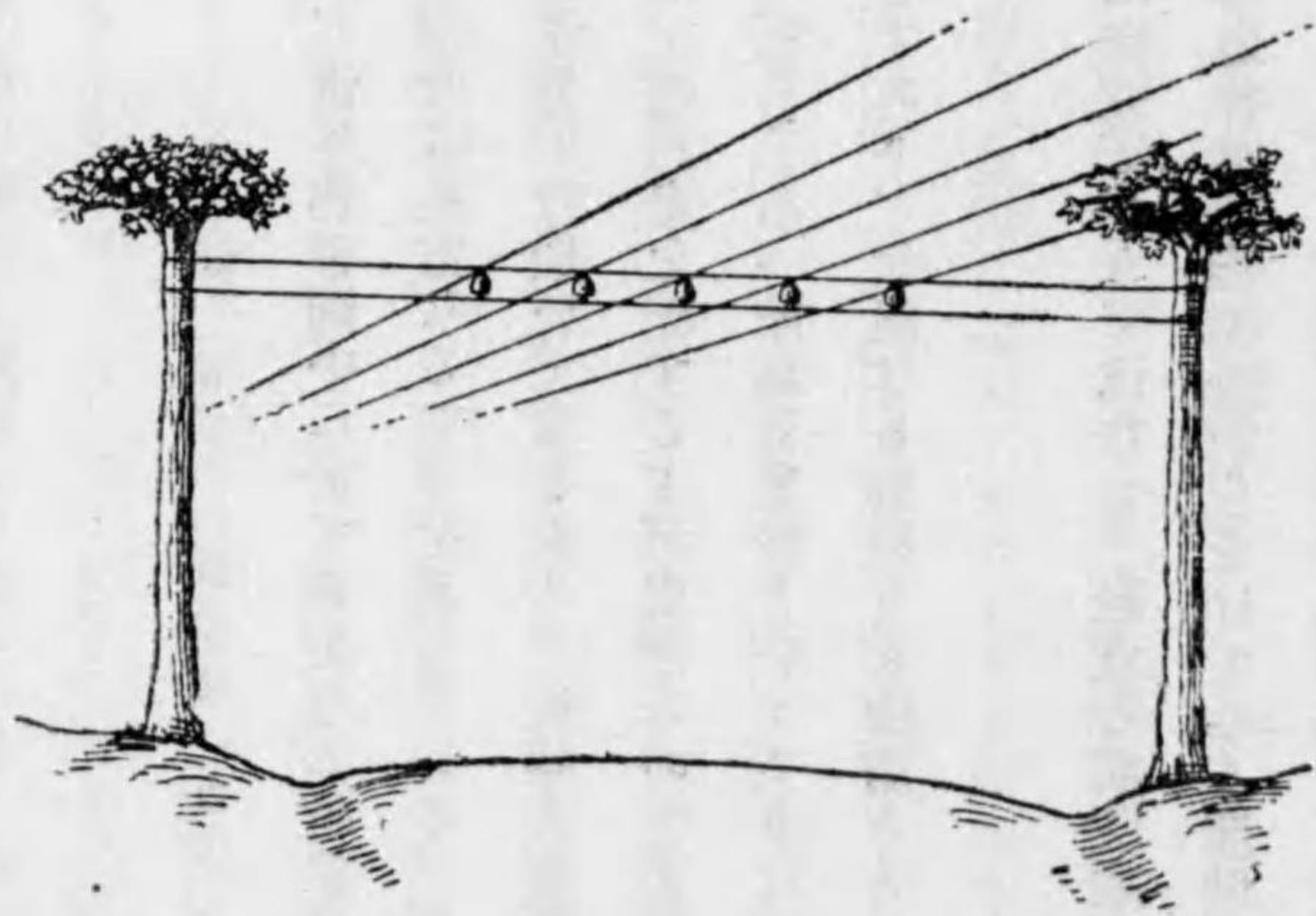
而して挽用として、小スンダ群島スムバ(Sumba)島産の小馬を使用す。此の馬は小造りであるが頗る頑健で活動力に満ちてゐる。爲めに鞭の必要はない位である。

人力車は爪哇には一臺もない。爪哇人は、人力車を挽くに足るだけの體格を持ってゐない。東洋到る處支那人の車夫を見ない處はないが、爪哇では、支那人の先輩が、支那民族の立場を保護する爲め、貧乏なる支那人が車夫の如き賤劣なる稼業に従事することを好まず、之れを止めてゐる。爪哇では、どうゆうものか、運搬用として驢馬を使用しない。

他の總ての熱帶國に於けると同じく、爪哇に於ても、白蟻は其の害實に甚だしく、電信、電話架設用として木製の電柱を用ふることが殆んど不可能になつてゐる。爪哇に於ける和蘭官憲は、木製電柱の代用品として最も面白いものを使つてゐる。此の物は、亞弗利加、英領西印度に於ける電信電話局の参考になると思ふから、少しく詳しく述べて見たいと思ふ。

爪哇の或處では、木製や鐵製の電柱を使用する代りにカボック樹(Bombax Ceiba)を用ふ。即ち、カボック樹が尙ほ未だ生長してゐない時に、適當の距離を見計らつて、道路の兩側に相對立して植える。稍や生長した時に、兩側の樹に、丈夫なるワイヤーの一對を渡し、其の中にインシュレーターを取付ける。インシュレーターの數が多くて、上下一本宛の線で不安と思はれる場合には、更に多くの金屬線を上下に張る。

電柱としてカボック樹を用ふることの長所は、植込みの際、高さ漸く二間内外に過ぎなかつたものが、植付と同時に根を張り地上堅く固定する。而して、カボックといふ樹は枝が極めて行儀よく且つ少なく、従つて葉も少ないから、便利の點から言つて普通木製の電柱と變りない。カボック樹は、生長が頗る迅速であるから數年を出でずして可成りの大木となり、風の力に依つて震搖せらるゝことがない。加之、カボック樹の實から生産せ



之れと直角に架設してあるから、農園に植込んである植樹の枝などにぶつかることがない。余はカ
電柱としてカボック樹を用ふることの長所は、植込みの際、高さ漸く二間内外に過ぎなかつたもの
らるゝ棉は、非常に重要な
商品で、余がボイテンツォ
ルフ農業當局について聞いた所に依ると、反當りのカ
ボックの収益は反當りの護
謨樹の収益に匹敵するとい
ふ。
生木を用ふると、木柱や
鐵柱の如く交換の必要がな
く、手間と失費がそれに依
つて省かれるのみならず、
電線は、普通の場合に於け
るが如く、道路に並行せず、

ボック樹の如きものを電柱代用に使用してゐる國を見たことないし、爪哇の此方法は白蟻の害に窘める英國の在亞弗利加植民地その他に極めて適當してゐると思ふから、更に圖解に依つて此の方法を説明したのである。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

熱帯病の研究に關し、爪哇は、世界熱帯國中に於て重要な位置を占めてゐる。流行病の豫防、一般衛生施設の改良について、政府は異常なる努力を爲してゐる。爪哇では、普通鐵道、輕便鐵道、バス營業線、其の他交通運輸の設備が行届いてゐるから、醫療の設備が一中心地に設けてあれば、放射的に多數附近の住民に醫術上の恩恵を施すことが出来るのであるから、爪哇には、英國の熱帯植民地にあるやうな、Cottage Hospitalsとか、簡易施療所といふやうなものが、多數に設けてない。大都會には政府經營の大病院が必ずあり、活潑なる働振りと清潔さに於て、此の種施設の模範とするに足る。

爪哇に於ける病院、治療所は官立ばかりではない。私立の病院療養所等が澤山にある。是等の方面に於て、政府が、基督教の傳道會社慈善團體から受けてゐる援助の大なることは驚歎するの外はない。大仕掛けで、而も内容の充實せる傳道會社經營の病院が領内の各方面に設けられてゐる。政府が、此の方面に於て受くる財政上の利益は、蓋し大なるものがある。余は、滯爪中、私設病院の

一たる Paton-ia Mission Hospitals を參觀したが、該病院は吾が熱帯植民地に於て模倣するに足る價値を充分備へてゐるものである。此の病院は、和蘭本國に於ける或州の新教々會(Dutch Reformed Church)に依て全く維持されてゐる。病院には四百のベッドを備付け、三名の頗る有能なる醫員を保持してゐる。病院内に於ける施設の新式なることは、普通熱帯植民地に於て見ざる所である。特に余の注意を惹いたのは、賄所の設備で、食物は總てスチームで料理されて居た。最新式の機械洗濯、丁寧なる消毒法、汚布を其の出所に依つて印付け各別に保存すること、熱氣に依る乾燥消毒等々、一として近代文明の精華を徴象せざるはない。病棟は東西に延び、各室とも二重戸を設け、窓口には防蚊装置があつた。小規模なる熱帯病院の建設を計畫中なる、英國植民地政府又は英國慈善協會は、余の參觀せる此のペトロネラ病院の設計圖を同病院より貰受け研究したならば、得る所少なくないであらう。該病院は、建築費四萬五千磅、一年の維持費一萬五磅なりといふ。

政府及び傳道會社經營の病院の外、蘭領印度では、大なる煙草、ゴム、砂糖國等に於て、小規模ながら、夫々病院を經營してゐる。金は掛つても農園労働者の健康を完全に維持することが、資本的立場から見ても、結局有利であるといふことが今日充分に解り、労働者に衛生上申分なき家屋を給し、適當なる衛生上醫術上の注意を與へることを競争的に行ふやうになつた。即ち、諸々の農園支配人達は、自らの農園に於ける罹病率を他農園に於けるものより低くすることに力めてゐる。彼

等が、支配人として有能であるとかないとかいふ資本家側の評判は、直接には、農場經營振りの良否に依ること勿論であるが、間接には、病院に安く入れ早く活し、急いで働かせるといふこと、換言すれば、醫療施設の良否にも依るのである。元來、數千人の苦力を使役せる熱帯農場で、苦力中に二バセントの罹病率ある場合と四バセントの罹病率ある場合とは、企業利潤の上に非常なる相違を生ずるのである。病院で一人の苦力を世話する費用は、身體壯健な苦力に仕拂ふ一日分の給金に相當するのである。

蘭領衛生當局は、領内の大きな都會には、必ず設けてある市場建築の優秀なることを誇りとしてゐるが、其誇るのには決して不當ではない。余の見所では、蘭領に於ける市場の建築は、熱帯の氣候に最も能く適合するやうに出来て居り、清潔なること、出入に便利なることに於ては、市場建築の模範たることを得。此の種の施設に就て目下考慮中の熱帯植民地が、英帝國の範圍内にあるならば、建築設計圖を蘭領印度から取寄せたならば、利益する點が多々あらうと思ふ。市場は、頗る嚴重なる規則に依て管理せられ、賣店の賣子は、只店の内外を清潔に保つのみならず、身に着けてゐる衣服でも、汚れたるものは許されないといふ程である。店の臺其他木造品は、毎朝熱湯と石鹼とを用ひて掃除せられ、イソール、カーペレット等の消毒液を以て消毒せられる。それが爲め、熱帯地の市場には附物の銀蠅の群は、蘭領の市場では、殆んど見られない程である。魚市場では、

魚槽中にある流水の中から生魚を買取ることが出来る。

以上述べたるが如く、衛生當局は、一般人民の保健衛生について多大の注意を拂へるに拘はらず、大都會に於ける死亡率は非常に高く、バタビア、スマラン、スラバヤに於ける死亡率は、人口千に付四〇乃至六〇である。地方に於ける死亡率は、右よりは甚だ低く、人口千に付二〇の割合である。歐洲人中に於ける死亡率は、之れよりも尙ほ遙かに低率である。然し、爪哇方面の氣候は、極度に多量の濕氣を含んでゐるが爲め、純粹の白人には、決して適してゐない。病氣賜暇で休養してゐる蘭人官吏が澤山あるが、神經衰弱が其の重なる原因で、其の神經衰弱は又、熱帯赤痢、マラリア等に原因することが多い。

多數の人命を取るマラリアを別にする、土人を苦める重なる病氣は梅毒と梅毒とである。前者は特に土人間に多く、數萬數千萬の人間が之れが爲めに苦められてゐる。一九一九年から行はれてゐるネオ・サルバルサンの注射は、此の病氣に對して特效があるやうだ。土人も今日其の效力を認め、一回の注射に喜んで一盾仕拂ふ者を續々生ずるに至つた。

梅毒及び其の他の花柳病は、土人間に非常に多く、土人の九割は、多少の程度に於て何れかの花柳病に罹つてゐると言はれてゐる。他の熱帯地住民からは、容易に抜けない花柳病は、適當なる治療術をさへ施せば、爪哇人馬來人からは、割合に容易に抜けるといふのは、不幸中の幸である。

威風堂々たる建築、是れは、英領印度、錫蘭、英領馬來、其の他東洋に於ける英國領土の一大特徴であるが、蘭領印度に於ける官廳の建物は、概して規模も小に威嚴も足りない。蘭領印度爲政者の考へに依ると、官僚の爲めに華美雄大なる廳舎を建築し、それが爲めに多額の費用を掛けるよりは、交通機關、衛生施設、一般人民の教育の爲めに豫算を使ふ方が、國家全體の利益に一致するといふのである。

余は、爪哇旅行中、或地方に於て、他處では見たことない、其の地方獨得の「レインフォースド・コンクリート」建築の建て方を見たから、此處に之れが爲めに數言を費したいと思ふ。此の「レインフォースド・コンクリート」は、大建築には用ひられない。倉庫とか、小別荘とか、自動車々庫とかいふ小さな建物の建築に使用される。其の場合に於ては、非常に經濟的で、然も其の割には非常に永持する。コンクリートの心には、普通の場合に於けるが如く、鐵棒とか、金屬製の網を使用しない。其の代りに、平に削つて割竹(其の幅約一時)の網蓆を用ふる。此の網蓆をコンクリート壁の心として用ふるときには、之れを家のフレームに取付け、割木で押へ、其の割木をフレームに釘付けて此の竹蓆を固定する。而して、セメント一、石灰二、砂三の割合にて作つたコンクリート・モルタルを、竹蓆の兩方に、厚み各一時位に塗付ける。斯くの如くにして出來たコンクリートの

壁は、普通のレインフォースド・コンクリートの壁と、外觀何等の變りがない。加之、此の竹筋コンクリート・ビルは、なか／＼丈夫で、一九二五年に於ける地震連續の際には、もつと丈夫さうに見える建築で、大損害を蒙つたのもあつたが、竹筋コンクリート建築は、それよりは遙かに少い損害を蒙つたといふ。竹筋は、鐵筋よりは彈力多く、恢復性に富んでゐるから、壁に龜裂が出來ても、尙ほ能く壁を支へた。

第八章

爪哇・スマトラに於ける政治的不安、過激派のプロパガンダ、西洋活動寫眞の惡影響、和蘭統治の評價

永年間、蘭領印度の一大特色をなした所の平和と悅樂とは、爪哇・スマトラの諸處に於て起つた所の叛亂暴動に依て、大なる打撃を蒙つた。而して、此の暴動騷亂は、主として共產主義者の指金に起因するものである。最近まで、極東諸國民間に、殆んど皆無とまで言はれた種族意識が、突如擡頭し、迅雷の如き速力を以て擴延するに至つた。大體、此の汎亞細亞的思想は、最近の發生に係り、曖昧模糊其の正體を捕捉すること能はざる底のものであるが、白人の跋扈に對して反抗することを以て其の共通的色彩としてゐるのである。

鈍感で、苦痛な生活を自らの宿命と考へてゐる、展望が何千年となく自己の村境以外には出な

つた所の百姓に、今や前後左右から、自由幸福に對する觀念が旺んに注入され、之れに對するぼんやりした睡れが、彼等の腦裡に醸成せらるゝに至つた。莫斯科政府が、亞細亞民族の種族的覺醒といふ覆面の下に行ふ秘密のプロバガンダは、プロバガンダの本来本元に於てさえ意外とするほど大なる速度を以て、無知矇昧なる人民の間に蔓延しつゝある。最近蘭領印度に勃發した騷擾は、仕掛けも小さく、散發性のもに過ぎなかつたが、爪哇スマトラ其の他外領の諸島に瀾漫しつゝある所の不平不滿のインデックスであるといふことに想到すると、決して樂觀してはゐられないのである。元來、爪哇といふ國には、大地主小作人の關係なく、百姓の九割は、小さい乍ら自分の土地を持ち(共有又は分有の形式で)、其の土地から生活の必需品だけは得てゐるのであるから、猛烈なる毒性を有するボルセビズムの教説でも、容易に土人を魅惑することは出来ない筈である。換言すれば、ボルセビズムは爪哇の適作物ではない筈である。爪哇には、前にも一言したやうに中産階級といふものがない。従つてブルジョアジといふものがない。加ふるに村の制度は自治で、村民一般に發言權を持てゐるのであるから、爪哇ほど、革命的教義の傳播に都合の悪い處はないのである。

然し、世界中の人間で、爪哇土人程單純且つ輕信的で瞞され易い者はないのである。彼等の人生に對する見通しは甚だしく制限せられてゐた。而して其の生活は單調子で面白味を缺いてゐた。であるから、勞働時間が少くて却つて多くの金を儲け、美衣美食に有付けるといふやうな、デマゴクの魅惑的な約束には、忽ちにして誘惑されるのである。而して、最近まで地方人民の間に相當の勢力を有し抑へを利かしてゐた土酋土司が、時代思想の變遷と制度の改革等に依りて勢力を失墜し、反逆宣傳の使徒に其の分野を委しつゝある。此の如くにして、爪哇に於て秩序統制は根底から動搖せんとするに至つたのである。

回顧すれば、今世紀の初頭からして、爪哇の空氣を險惡ならしむるやうな大事件が踵を接するがくに起つた。先づ最初に數へ擧げねばならぬのは、黄色人種をして凱歌を擧げしめ、黄人種の爲めに萬丈の氣焰を吐いた日露戰爭である。米國民が、比律賓に與へた重大なる政治上の權利も、少なからざる反響を南洋方面の植民地に與へた。次に大影響があつたのは、英領印度に於ける所謂印度國民黨の運動である。歐洲戰爭直後のスローガンたる『民族自決』も相當の反響があつた。支那の革命騒ぎも少なからざる影響を蘭領方面に及ぼしてゐる。歐洲大戰後に於ける反動も爪哇の人心を震撼した。此の如き大事件の頻發は、印度支那人種とポリネシア系統の人種とに極めて關係の淺い分派である所の間(蘭領印度の住民を意味するものか―譯者)の心をも泡立たせ、極めて空疎ではあるが大に熱狂せしむる所の希望と野心とを彼等の心に起さしめた。

コムミュニスト・インターナショナルは世界の何れの部分に於ても、苟も乘すべき機會あらば、之れを捉へて産業上の平和を攪亂しやうと力めてゐる。それで、彼等は、前述の如き事情の下に動

搖せる人心の機微を掴むことを忘れなかつた。彼等は東洋の重なる都會に、過激主義宣傳の支部を置いた。然し、彼等は、土地分配の問題に就て不平を唱ふるべき何等の理由をも持たぬ有色人種間に於て、共產主義の矢叫びをしても、割合に効果が薄いことを見たのである。故に彼等は社會の轉覆、秩序の攪亂戰に於て、彼等が最も有效なりと信ずる人種的反感の挑發を武器として用ひた。一九二二年莫斯科で開いた第四回コムミュニスト・インターナショナル大會に於て、彼等は「資本主義帝國主義を轉覆し又は之れを弱め、或は其の侵入を阻止する爲め、あらゆる黒色人種の運動を後援助勢することの必要」を議決した。

莫斯科ソヴェートの流布する悪性の宣傳が、英領馬來、印度支那、蘭領東印度に於て輕視すべからざる勢力を有することは疑ふの餘地がない。特に爪哇に於ては、農民間に於て、不平不滿の要素となるらしきものは悉く利用して、おだての道具としてゐる。又彼等は、各種の労働組合、職業團體の中にも喰ひ入つてゐる。高等教育の中心地の如きは、勿論彼等の見遁する所ではない。又彼等は、サリカット・イスラム其他イスラム主義の運動に關係ある狂熱的團體と連絡を取り、彼等の破壊的運動と是等宗教的團體の根本思想とに因果的關係でもあるかの如く見せかけんとし、多少の成功を収めてゐる。茫漠として捕捉すること出來ぬやうな不平不滿でも、苟くも農民の間に之れあらば、之れを捉へて誇大に吹聴し、現實的問題にせすんば休まないといふ風である。斯くて、一

九二七年には、各地に暴動が起り、兵力を用ふる等非常手段に訴へ、漸くにして之れを抑壓することを得た。

和蘭の *Nieuwe Rotterdamse Courant* 紙の、植民地擔當記者たるアー・イエー・リーフェード (A. J. Lievegoed) 氏が、一九二七年のエシアタイク・レビュー紙上に於て、爪哇に於ける暴動の經過を述べ、過激派の策士が、如何に巧妙に其の暴動を組織してゐるかを論じてゐるから、今少しく之を引用したいと思ふ。爪哇暴動の際に於て用ひたる過激派の手段は、恐らくは、英國の熱帯植民地に於て目下準備しつゝある所のものと大同小異であらう。リ氏は曰く、

「爪哇に於ける共產主義者の暴動は、一九一七年露西亞に於ける革命政府の組織に型取つてゐる。露西亞の革命運動は二重の組織を持てゐた。即ち、運動者の一半は、運動の頭腦となり指導者となり、總ての命令は此處から下す。他の一半は、主腦者の與へる命令の意義をすら追求することなく、盲目的に忠實に之れを實行するといふのである。」

以前に、破壊的策謀をなしたるが爲め、爪哇から放逐せられた數名の共產主義者(蘭人)は、移民官の監視の網を潜つて再び爪哇に入込み、島中隈なく潜行的に旅行して部下の一味に宣傳の手法を教授した。一九二五、同二六年中、何等の事情に基くとも分らず、諸處に勃發した亂暴なるストライキの多くは、此の革命的宣傳に其の源を發するものであることが、後に至つて明かにな

つた。當時のストライキは、爪哇に於ける蘭人の統治権を根底より覆さんとする一大決戦の準備戦とも見るべきものであつたのである。

而かも、共産軍に属する多数の群衆は、暴動の大計畫に就ては何等關知せず、陰謀に關係ある首領の姓名さへ知らなかつたといふ有様である。彼等の知れる唯一の事柄は、命令一下、忽ちに相當数の共産軍兵士を動員せねばならぬといふことのみであつた。斯くて政府の鼻先きで、陰謀團が最も危険有力なる革命的軍隊にまで生長變化しつゝあつたことを認めねばならぬにも拘らず政府は暴動の勃發直前まで之を知らなかつた位である。』

共産主義の運動者は、鐵道工場、砂糖工場、煙草工場、船渠、其の他多数工人日給者が組織的に使用せられ居る場所を、宣傳上最も效目ある所として、それ等の場所に多く入込んでゐる。莫斯科のエゼントたる彼等は、自ら是等の場所に職工労働者として入込み、土人労働者を籠絡し、使喚して或はストライキを始めしめ暴動を起さしむる。一度工場等に這入り込めば、常習的論法を以て不満不平憤懣の種子を蒔く。彼等の常套論法は、土人の受取れる給料が少いのに白人使用人の受取れる俸給は徒らに多い、土人の従事せる労働は單調で無趣味である、爪哇の労働時間は永過ぎて保養娛樂の時間が足りない、同じ労働者でも、甲は待遇善く、乙の待遇悪しきは、資本家に待遇を二・三にする不當なる権利が與へられてゐるからである、等々である。

程度の低い煽動者等は、多くの場合に於て、彼が演説せる主義の何物なるかに就て、何等適確な考へを持ってゐない。彼等は、大都會の本部に巢造つてゐる大頭株の雇人である。而して、彼の仕事は、周圍にある彼等の仲間に、不安不満の念を焚き付けることである。彼等の或者は、仲間の者より幾分頭腦の點に於て勝れてゐる。而し巽に掛けられた彼等の同胞から金錢を搾取することを唯一の目的にしてゐる。煽動者の爲す、如何に馬鹿らしい話でも、輕信な爪哇農夫に信用せられないことはない。例へば、是等低級なる詐偽的煽動者は、僅かに數仙、數十仙の寄附で、久しからずして和蘭が亡び土人の王が之れに代り、昔しマタラム帝國に於て見たやうな莊嚴無比な世界が再現するといふやうなことを聞かせる。更に幾分か餘計に寄附した者に對しては、此の空想的王國の宮廷に於て、甲に對しては是々、乙に對しては是々と、占むるべき位置の割當てをすら約束する。煽動者は苟も乗すべき機會があれば、必ずそれを捉へて有利なる宣傳をする。是等の宣傳が悪い結果を生みつゝあるといふことに對しては、毫末も疑ふ餘地がない。

指紋法は以前より爪哇に使用せられたのであるが、今日では、是等多數低級な過激派のエゼントを發見する方法として、一層旺んに使用されつゝある。煙草工場砂糖工場の或者は、給金の前渡しを受けたる土人労働者が、契約期間内に逃亡し、僞名を用ひて他に職を求むることを防止する一の方法として指紋檢定法を用ひた。此の方法に従へば、工場は、總ての従業員の指紋を取つて、バタ

ピアの中央指紋鑑識所に送る。此處では警察と密接なる連絡を保ち、略ぼ適當な處置を取ることになつてゐる。指紋所に於ては、總ての指紋を組織的に分類してゐる。それなくとも、政治上の不穩分子に對しては、警察が注意を怠らないから、所在は多くの場合に於て忽ちに發見され、發見され次第、注意人物の働いてゐる工場に注意する。兎に角、蘭領東印度に於ける指紋鑑識の方法は極めて有効に運用され、爲めに共產主義者等は、直ちに發見され、國外に放逐さるゝことになつた。有害なるプロバガンダを爲すことを、非常に困難とするに至つた。

* * * * *

東南部亞細亞諸國に瀰漫しつゝある政治的不安に就いて過激派エゼントの運動が如何に重大なる原因を爲せるかは、今述べた通りであるが、白人の東洋に築き上げた地盤を根本的に覆さんとする、ボルセヴィキ以上の破壊的要素が最近現はれた。破壊的要素とは活動寫眞のことである。

余は、倫敦タイムズ編輯記者の許可を得て、余が一九二六年中、植民地に於ける活動寫眞の問題について論じたる所を左に再録し、讀者の一覽に供したいと思ふ。

筆者は、其の亞細亞旅行中、活動寫眞が極東に住する歐洲人の權威に實に憂ふべき結果を齎しつゝありといふ筆者の意見に同意しない何人にも會見しなかつた。活動寫眞が、白人生活の最暗黒面を如實に曝露する迄、東洋諸國民の多くは、或白人社會の隨落が、あれ程深酷であるかとい

ふことを知らなかつた。待者従者等の如く、日常生活を目撃し、其の内面的事情を熟知する者に取ては、如何に立派なる主人と雖、立派であり能はぬ。英領印度にゐる所謂英人紳士の給仕は、歐羅巴人が如何に道徳的に優越だと誇稱して見たからとて、容易に信用しないであらう。然し、黃、褐、黒色人種の大部分は、米國製のフィルムが來て、戲弄的に歐羅巴人の内面的生活、殊に犯罪破廉耻の中心地に於ける醜陋極まる生活を曝露するに至るまでは、殆んど之を熟知しなかつたのである。然るに、最近數年、遠隔なる熱帶諸國に於ける活動寫眞館の發展振りは、驚歎の外なく、今日では、數千の住民を有する土人町で、寫眞宮ヒクチュア・パレスを持たないものは、一もないと言つて差支へない。而して、是等の寫眞館に於て影寫せらるゝ寫眞は、最もセンセーショナルのもので、警察等に於ても檢閲もし、制限もしてゐるが、大部分の寫眞は、腐敗墮落の場面にあらずんば、腕力暴力沙汰を示したるものである。

單純なる土人は、釣合の觀念に乏しく、常識的に物事を解釋する力を缺いてゐる。従て、間違つた印象を拾上げ鵜呑みに之を信ずるといふ點に於ては、積極的天才を持てゐるといふも過言ではない。正直な馬來人爪哇人は勿論、英領印度人支那人でも、スクリーンの上に撮影せらるゝ墮落的犯罪的の光景は、白人の郷國に於ける生活を其の儘正直に描出したものであると信じてゐる。ラブ・メーカーキングの場面の如き、東洋人は、猥りがましきこと、忌はしきこととして、心に之を非

難してゐるが、それは兎に角、白人、殊に困るのは、白婦人の道徳が、如何に低級なるものであるかといふ印象を彼等に與へる。接吻の如き、所謂洋式教育の「恩澤」に浴せる者の外、東洋人の間には全然行はれてゐなかつたものである。従て、フィルムの上に屢々現はれ、容易に止まぬ男女接吻擁抱の光景が、純真なる土人の心の中に、如何なる感情の渦巻を起すかは、讀者に對しては、口では説明しにくく、心の中で想像して貰ふより外はないのである。斯かる場面が展開する毎に、三等席の土人が擧ぐる猫鳴の聲、批評の言葉は、吾々の血を湧かし穴でもあれば這入りたく思はしむるのである。

東洋諸國の警務官憲は、彼等の取扱ふ重大にして複雑なる犯罪は、シネマに於て得た暗示に原因するといふことに一致してゐる。大體、フィルム中に於ける最も殺伐、猥褻な場合を見やうと思つたら、必ずしも入場料を拂つて寫眞館内に這入る必要はない。寫眞館の外に貼出されてゐるポスターを見ると、急死、殺人、組打の場面が、出來得る限り誇大に野卑なる色彩りで描出されてゐる。黄、褐色の顔はない子供等が、驚きの眼を睜り乍ら、兼て尊敬し、且つ尊敬すべく強要されてゐる西洋人の主人、紳士が、半分裸體になつた金髮青眼玉女の首を締めてゐる光景を見てゐる。子供等の原始的な心鏡には、此の如き繪は、實に意外なる啓示として映るであらう。最も活動寫眞館で、映畫を見る多くの土著人には、西洋畫の筋書仕組で全く分らない部分が多々あ

らう。多數の場面は、彼等が未だ嘗て想像したことなく、従つて了解すること出來ない事柄や情況を現はしてゐる。然し、原始的な土人でも、場面に出て來る人物の行爲、殊に竊盜、強盜、殺人に伴ふ物凄い、興奮させるやうな筋書は、説明を要せず、想像を用ひずして解る。土人等が、大きなマンゴ樹の蔭、又は枯葉色の小舎内で、始めて活動寫眞を見た時の感想を物語つてゐるのを見ると、曰く、「途方もない筋書、解し難き影響、敗徳的結論」

余は、爪哇に於ては、フィルムの檢閲に就て、官憲が細心の注意を拂つてゐるといふことを聞かされた。而して檢閲官は、善良なる風俗を破壊するが如きフィルムの部分は、遠慮なく切取ると聞いた。然し、それは程度問題で、フィルムの切取りが果して爪哇官憲が説明するが如く、しかく嚴重に行はれてゐるかどうかを余は疑ふものである。大體、活動フィルムなるものは、センセーショナルの場面を最も大切な資本としてゐるのであつて、歐羅巴人の犯罪的、墮落的行爲を暴露するが如き部分の、譬へ十分の一でも取除くことは到底不可能とする所である。歐羅巴人の生活の内面的弱點を暴露し、歐羅巴人は結局つまらぬ者であるといふ感じを起させる部分を取除いたならば、殘る所は何もない。それで、今日では、土人は、センセーショナルな場面を要求すべく西洋の活動寫眞に依て教へ込まれてゐる。そんな場面がなければ承知しない。現に蘭領方面では、活動館の持主等は、政府が餘り神經的に、善し惡しを言ひ過ぎる、今日以上に干渉されては、彼等の營業は成立た

ないとこぼしてゐる。

然し、同時に、政府は活動寫眞の問題に就いて其の正當な立場とを忘却してはならない。或少數の人間が、劣情を興奮せしむることに依りて金を儲けることが出来るといふのは、彼等が原始的土人―其の土人の進歩開發に對して吾々歐羅巴人が責任を負ふてゐる―の間に、有害なる印象を振蕩き、歐羅巴人の權威を失墜せしむるが如きことをしても善いといふ理由にはならない。歐羅巴人が東洋に於て維持した尊敬權威を失墜したものは、或種類の活動フィルムであるといふことは、今日一般に承認されてゐる所である。東洋に於ける歐羅巴人優越の基礎であつた所の、對歐洲人尊敬の念は地を拂つた。而して、それが、一面に於て、東洋人をして、共產主義のプロバンダを受入るべき心の準備をさせた。

蘭領印度政府は、革命の動因を免除せんとする其の戰に於て、尙ほ多くの困難な場合に遭遇するかも知れない。然し、其の困難は、過渡期に於て當然起る困難である。而して爪哇人馬來人の本能社會上其の他の利益は、ボルセビズムで説く理論とは根本的に相容れないものであるから、爪哇スマトラ方面に起つてゐる各種の騷動は、軍資金の缺乏と相俟つて自然に消滅するであらうといふ風に一般に感ぜられてゐる。

實地に就いて制度を研究し、而して其の制度の下に蘭領印度が如何に統治せられてゐるかを見る者は、何人と雖、和蘭が蘭領印度の統治に異常の成功を收めてゐることを直觀し、その繁榮を祝福し、好意の「さよなら」を告げずにはゐられないであらう。造物者は、此の島々に熱帯に對し、熱帯に於て農業を經營するに必要なあらゆる條件を與へてはゐるが、是等の條件を有効に利用し、成功を收めてゐるといふ點に對しては、賞讃を禁ずることは出来ない。今日吾人の見る堂々たる爪哇の道路、官公吏の有能なる働振り、行届いたる灌漑施設、集約的の耕作、改善されつゝある衛生、一般人民の施政に對する満足は、遠大なる考へと、周密なる用意と、鞏固なる意志と、寛大なる度量なくて贏ち得らるゝものではない。

今日、比較的面積の小なる島たる爪哇に於て見る、驚歎すべき産業上の進歩が、蘭領群島の廣大なる他の島々に於ても繰返されないとはいふ道理がない。スマトラ、ボルネオ、ニウ・ギニア、セレベスに於て、荒地として殘され、探險もせられず放置され居る廣大無邊の處女地は、時節到來の曉には、勞働と資本とを集積し、現在蘭領印度の代表する富力と繁榮とは、此の宏大なる群島に秘められてゐる無盡藏なる富力の一部分に過ぎないといふことを證明する時があるであらう。

吾人は、蘭領の此の偉大なる海外領土が、應ては躁急にして進進的要素の支配から超越して、蘭領印度をして今日あらしめ、植民地を有する列強の賞讃の標的たるに至らしめたる所の、用意周到

にして思慮分別に富み、漸進的にして堅實なる政策を繼續することが出来るやう祈つて已まぬ者である。

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が続く）

終